

平成 29・30 年度

自己点検・評価報告書



平成 30 年 6 月

学校法人電波学園

愛知工科大学自動車短期大学

目次

自己点検・評価報告書.....	1
1. 自己点検・評価の基礎資料.....	2
2. 自己点検・評価の組織と活動.....	17
【基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果】	20
テーマ 基準Ⅰ-A 建学の精神.....	21
テーマ 基準Ⅰ-B 教育の効果.....	22
テーマ 基準Ⅰ-C 自己点検・評価.....	25
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果の行動計画.....	27
◇ 基準Ⅰについての特記事項.....	27
【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】	29
テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程.....	30
テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援.....	45
基準Ⅱ 教育課程と学生支援の行動計画.....	73
◇ 基準Ⅱについての特記事項.....	73
【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】	77
テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源.....	77
テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源.....	92
テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源.....	94
テーマ 基準Ⅲ-D 財的資源.....	95
基準Ⅲ 教育資源と財的資源の行動計画.....	97
◇ 基準Ⅲについての特記事項.....	97
【基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス】	98
テーマ 基準Ⅳ-A 理事長のリーダーシップ.....	98
テーマ 基準Ⅳ-B 学長のリーダーシップ.....	99
テーマ 基準Ⅳ-C ガバナンス.....	101
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンスの行動計画.....	102
◇ 基準Ⅳについての特記事項.....	102

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、一般財団法人短期大学基準協会の第三者評価を受けるための報告書作成マニュアルに準拠して、平成 28 年度及び 29 年度の愛知工科大学自動車短期大学の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

平成 30 年 6 月 29 日

理事長

小 川 明 治

学長

安 田 孝 志

ALO

高 田 富 男

1. 自己点検・評価の基礎資料

(1) 学校法人及び短期大学の沿革

昭和 27(1952)年	名古屋市熱田区に名古屋無線電信学校を開校
昭和 28(1953)年	名古屋無線電信学校を名古屋高等無線電信学校に改称
昭和 34(1959)年	学校法人電波学園を設立
昭和 36(1961)年	名古屋市熱田区に東海製図技術学校を開校
昭和 44(1969)年	名古屋高等無線電信学校を名古屋電気通信工学院に改称
昭和 45(1970)年	東海製図技術学校を東海工業専門学院に改称
昭和 50(1975)年	東海工業専門学院を東海工業専門学校に改称
昭和 53(1978)年	名古屋市熱田区に名古屋ビジネス専門学校を開校
昭和 57(1982)年	名古屋市瑞穂区に名古屋デザイン専門学校を開校
昭和 62(1987)年	愛知県蒲郡市に愛知技術短期大学を開学（電子工学科、自動車工業学科）
同	運輸大臣より自動車に関する学科を有する大学として認定され、自動車工業学科の学生に対して二級自動車整備士受験資格が与えられる
平成 03(1991)年	愛知県豊橋市に愛知技術短期大学情報専門学校を開校
同	名古屋市千種区に名古屋外語専門学校を開校
同	名古屋電気通信工学院を名古屋工学院専門学校に改称
平成 07(1995)年	名古屋市中区に東海工業専門学校金山校を開校
同	東海工業専門学校を東海工業専門学校熱田校に改称
平成 09(1997)年	名古屋市千種区に名古屋造形ビジネス専門学校を開校
平成 11(1999)年	愛知工科大学設置認可
平成 12(2000)年	愛知技術短期大学電子工学科を廃止
同	愛知県蒲郡市に愛知工科大学を開学(工学部:電子情報工学科、機械システム工学科)
同	愛知技術短期大学を愛知工科大学短期大学部に改称
同	愛知技術短期大学情報専門学校を愛知工科大学情報専門学校に改称
同	名古屋造形ビジネス専門学校を名古屋造形デザイン専門学校に改称
平成 14(2002)年	愛知工科大学校舎（テクノゆめトピア）完工
同	名古屋市熱田区にあいち福祉専門学校を開校
平成 16(2004)年	愛知工科大学工学部機械システム工学科に1級自動車整備士養成コース設置認可（国土交通省認可）
同	愛知工科大学校舎（8号館）完工
同	東海工業専門学校金山校をあいち建築デザイン専門学校に改称
同	東海工業専門学校熱田校を東海工業専門学校に改称
同	愛知工科大学情報専門学校をあいち情報専門学校に改称
同	名古屋ビジネス専門学校をあいちビジネス専門学校に改称
平成 17(2005)年	あいち福祉専門学校をあいち福祉医療専門学校に改称

愛知工科大学自動車短期大学

同	名古屋デザイン専門学校をあいち造形デザイン専門学校に改称
平成 18(2006)年	名古屋造形デザイン専門学校とあいち造形デザイン専門学校を合併
平成 19(2007)年	愛知工科大学工学部の機械システム工学科、電子情報工学科の 2 学科を改組し、機械システム工学科、ロボットシステム工学科、情報メディア学科の 3 学科を開設
同	愛知工科大学に入試広報センター、メディア基盤センター、エクステンションセンター、産学連携センター、基礎教育開発支援センター、ものづくり工作センターを開設
同	愛知工科大学短期大学部を愛知工科大学自動車短期大学に改称（自動車工業学科）
同	愛知工科大学大学院工学研究科設置認可
平成 20(2008)年	大学院工学研究科を設置し、システム工学専攻(博士前期課程及び博士後期課程)を開設
同	愛知工科大学キャリアセンター開設
同	愛知工科大学高度交通システム研究所開設
同	東海工業専門学校を東海工業専門学校熱田校に改称
同	あいち建築デザイン専門学校を東海工業専門学校金山校に改称
同	愛知工科大学校舎（7 号館・ホール棟）完工
同	ぎふ国際高等学校を岐阜市に開校
平成 21(2009)年	財団法人短期大学基準協会より協会が定める短期大学評価基準を充たしていると認定される
同	愛知工科大学自動車短期大学校舎（1・2 号館）改修完工
同	愛知工科大学の基礎教育開発支援センター、産学連携センター及びエクステンションセンター組織を見直し、基礎教育センター及び地域・産学連携センターに改組
平成 22(2010)年	愛知工科大学宇宙システム研究所開設
平成 23(2011)年	愛知工科大学自動車短期大学校舎（自動車棟）完工
同	愛知工科大学工学部のロボットシステム工学科を電子制御・ロボット工学科に名称変更
同	名古屋外語専門学校日本語学校を開校
平成 24(2012)年	名古屋外語専門学校日本語学校を愛知工科大学外国語学校に改称
同	名古屋外語専門学校を名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校へ改称
平成 25(2013)年	愛知工科大学の基礎教育センターを総合教育センターに改組
平成 28(2016)年	一般財団法人短期大学基準協会より短期大学評価基準を充たしていると認定される

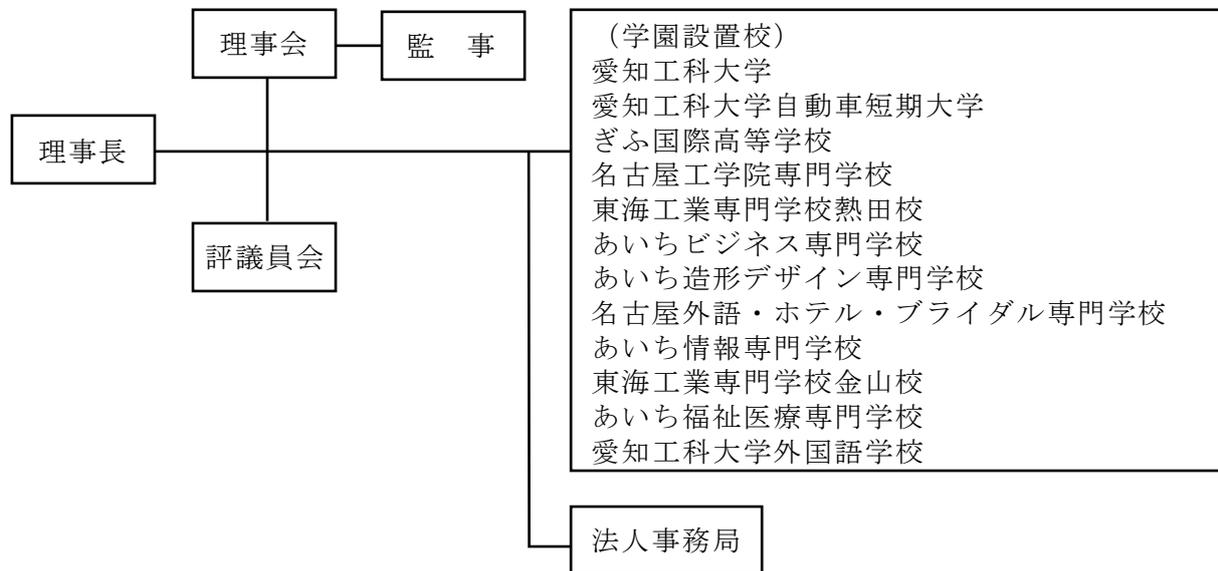
(2) 学校法人の概要

- 学校法人が設置するすべての教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数
- 平成 30 年 5 月 1 日現在

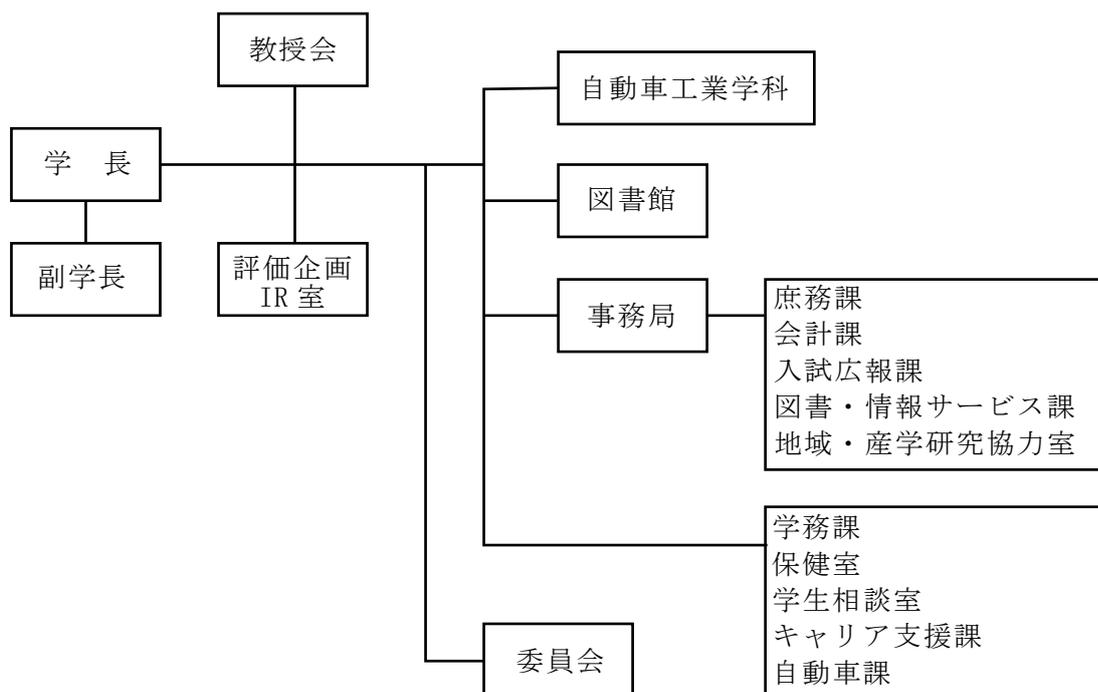
教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
愛知工科大学	愛知県蒲郡市西迫町馬乗 50-2	225	990	708
愛知工科大学自動車短期大学	愛知県蒲郡市西迫町馬乗 50-2	180	360	272
ぎふ国際高等学校	岐阜市橋本町 3 丁目 9	240	720	918
名古屋工学院専門学校	名古屋市熱田区神宮 4-7-21	1,170	2,800	2,724
東海工業専門学校熱田校	名古屋市熱田区花表町 19-14	200	600	704
あいちビジネス専門学校	名古屋市中区伊勢山 2-13-28	490	1,040	715
あいち造形デザイン専門学校	名古屋市千種区今池 4-10-7	360	800	708
名古屋外語・ホテル ・ブライダル専門学校	名古屋市千種区今池町 5-24-4	230	460	462
あいち情報専門学校	愛知県豊橋市関屋町 1-6	80	240	290
東海工業専門学校金山校	名古屋市中区金山 2-7-19	590	1,030	1,060
あいち福祉医療専門学校	名古屋市熱田区金山町 1-7-13	200	440	336
愛知工科大学外国語学校	名古屋市瑞穂区明前町 15-23	60	120	88

(3) 学校法人・短期大学の組織図

- 学校法人電波学園組織図
- 平成 30 年 5 月 1 日現在



- 愛知工科大学自動車短期大学組織図
- 平成 30 年 5 月 1 日現在



(4) 立地地域の人口動態・学生の入学動向・地域社会のニーズ

■ 立地地域の人口動態（短期大学の立地する周辺地域の趨勢）

本学の所在地である蒲郡市、幸田町（短期大学の敷地の一部は「額田郡幸田町」に属している。）は、三河地方の中央に位置し本学の周辺には自動車関連、製鋼関連企業、住宅関連企業等の上場企業をはじめ有数のものづくり企業が立地している。蒲郡市は人口 80,330 人、幸田町 40,585 人（愛知県統計課人口統計調査）で、これらの市街地を JR 東海道線、名鉄蒲郡線が東西に走り、国道 23 号線、247 号線、248 号線などが幹線道路として整備されている。本学の最寄り駅である JR 三河塩津駅及び蒲郡駅は、名古屋から 37 分、豊橋から 10 分以内で基幹駅から 1 時間以内の距離にある。本学キャンパスは、緑に囲まれた丘陵地に立地し蒲郡駅からスクールバスで 12 分、JR 三河塩津駅から徒歩 15 分の所にある。

(人)

地域		25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
東三河地区	蒲郡市	81,320	81,276	81,150	80,642	80,330
	豊川市	182,053	182,156	182,530	182,931	182,992
	豊橋市	375,751	375,015	374,883	374,381	373,266
	田原市	63,352	62,903	62,407	61,783	61,354
	新城市	48,192	47,602	47,150	46,528	46,179
西三河地区	幸田町	39,130	39,317	39,571	40,345	40,585
	岡崎市	376,876	378,299	381,031	383,383	384,070
	西尾市	166,933	167,544	168,045	168,743	169,127

* 愛知県人口動向調査結果から抜粋（各年 10 月 1 日現在）

■ 学生の入学動向：学生の出身地別人数及び割合（下表）

地域	25 年度		26 年度		27 年度		28 年度		29 年度		
	人数 (人)	割合 (%)									
愛知県	104	71.7	115	76.7	135	75.0	125	78.6	130	86.1	
東三河地区	豊橋市	23	15.9	20	13.3	22	12.2	16	10.1	33	21.9
	豊川市	6	4.1	6	4.0	12	6.7	7	4.4	17	11.3
	蒲郡市	9	6.2	15	10.0	8	4.4	7	4.4	10	6.6
	田原市	1	0.7	0	0.0	1	0.6	4	2.5	5	3.3
	新城市	2	1.4	2	1.3	4	2.2	1	0.6	3	2.0
	北設楽郡	0	0.0	0	0.0	1	0.6	0	0.0	0	0.0
西三河地区	幸田町	8	5.5	6	4.0	2	1.1	9	5.7	1	0.7
	岡崎市	11	7.6	12	8.0	12	6.7	10	6.3	9	6.0
	豊田市	3	2.1	3	2.0	6	3.3	9	5.7	2	1.3
	安城市	7	4.8	7	4.7	4	2.2	7	4.4	2	1.3

地域	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		
	人数 (人)	割合 (%)									
西三河地区	西尾市	7	4.8	5	3.3	15	8.3	7	4.4	12	7.9
	知立市	0	0.0	2	1.3	2	1.1	0	0.0	0	0.0
	刈谷市	2	1.4	6	4.0	5	2.8	1	0.6	1	0.7
	高浜市	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.6	0	0.0
	碧南市	3	2.1	2	1.3	3	1.7	1	0.6	1	0.7
	みよし市	0	0.0	0	0.0	1	0.6	0	0.0	1	0.7
尾張地区	22	15.2	29	19.3	37	20.6	45	28.3	33	21.9	
静岡県	16	11.0	15	10.0	14	7.8	12	7.5	7	4.6	
三重県	8	5.5	4	2.7	4	2.2	2	1.3	2	1.3	
岐阜県	6	4.1	2	1.3	3	1.7	6	3.8	2	1.3	
長野県	3	2.1	2	1.3	3	1.7	3	1.9	5	3.3	
その他	8	5.5	12	8.0	11	6.1	11	6.9	5	3.3	
計	145		150		180		159		151		

■ 地域社会のニーズ

愛知県は日本列島のほぼ中央に位置し、高速道路、鉄道、港、空港をはじめとした主要な交通網が横断に整備され、一大拠点となっており、東京、大阪と並んで日本の三大都市圏を形成している。気候は太平洋の黒潮の影響を受け、全般的に温暖であり、工業、商業、農業がバランス良く発達し、日本経済の原動力として機能している。

■ 地域社会の産業の状況

経済産業省平成29年工業統計調査（速報）によると、平成28年の愛知県の製造品出荷額等は44兆6,416億円（従業者4人以上の事業所）と全国の約14.9%を占め、第2位の神奈川県（16兆2,318億円）とは大差で、40年連続日本一のものづくり県である。また、製造業における事業所数（従業者4人以上）は17,611社で全国の8.1%を占め、全国第2位、その従業員数は82万4,749人と全国の11.0%を占め、全国第1位の位置にある。

■ 短期大学所在の市区町村の全体図

愛知県



蒲郡市

蒲郡市は愛知県の南東部にあり、本州のほぼ中心に位置している。渥美半島と西浦半島に囲われた海辺の観光地で、三河湾国定公園に指定されており、約 47km の海岸線沿いに 4 つの温泉地を持ち、市内には日本の文化を感じさせる神社や仏閣の多い、美しい土地である。気候は、冬季に雪が降ることがあっても積もることはほとんどない温暖な地域で、この温暖な気候を活かしたフルーツ栽培がさかんで、特に「みかん」の栽培が盛んで、ハウスみかんについては日本有数の出荷量を誇る。蒲郡オレンジパークでは、農業と観光を結び付け、地域農業者と都市生活者のふれあいの場としての「ふれあい農業公園」で「ハウスみかん狩り」「みかん狩り」「いちご狩り」「メロン狩り」「ぶどう狩り」等で年間を通じ、多くの観光客が訪れている。また、海から山にかけ変化に富んだ景勝は、万葉の歌人や近代の作家にも愛され、数多くの文人が好んで訪れている。

幸田町

幸田町は愛知県の中南部に位置し、中部圏の中心都市・名古屋市から 45km 圏内にあり、北は岡崎市、西は西尾市、南東は蒲郡市などと接している。東西 10.25km、南北

10.55km で面積は 56.78 km²。東部の遠望峰山の 439m を最高に東部と南西部に 100m～400m の丘陵が続き、広田川を中心に平野が広がっており、温暖な気候に恵まれ、緑豊かな自然に抱かれた美しい町である。

三河港

三河港は、渥美半島と知多半島に囲まれる三河湾の東側湾奥部に位置し、広大な港湾区域（周囲約 80Km、水域面積約 132 km²）を有する港である。日本のほぼ中央に位置することから、全国に向けた物流の結節点としての役割を果たしている。

臨海部には自動車などの輸送機械の加工組立を中心とした製造業が集積し、東三河・西遠・南信を背後圏に、自動車を中心とした「ものづくり」を支える物流拠点となっている。

また、国内有数の自動車企業の進出により、自動車輸出が増大。さらに、外資系自動車企業による自動車輸入により、自動車貿易では過去 20 年以上にわたり輸出入ともに世界トップクラスの取り扱いを誇り、国際的な自動車流通港湾として、重要な役割を果たしている。

(5) 課題等に対する向上・充実の状況

毎年、『短期大学基準協会の評価区分にによる中期目標・計画の具体的方策』を策定し、継続的に実行、検討して自己点検に取り組んでいる。

(6) 学生データ（学校基本調査のデータを準用）

① 入学定員、入学者数、入学定員充足率、収容定員、在籍者数、収容定員充足率

- 学科・専攻課程ごとに、平成 30 年度を含む過去 5 年間のデータを示す。

平成 26 年度～平成 30 年度の設置学科等について

学科等の名称	事項	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	備考
自動車工業学科	入学定員	180	180	180	180	180	
	入学者数	150	180	159	153	126	
	入学定員充足率	83%	100%	88%	85%	70%	
	収容定員	360	360	360	360	360	
	在籍者数	287	328	337	314	272	
	収容定員充足率	79%	91%	93%	87%	75%	

② 卒業者数（人）

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
自動車工業学科	106	126	138	159	150

③ 退学者数（人）

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
自動車工業学科	14	13	12	17	18

④ 休学者数（人）

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
自動車工業学科	5	4	8	5	3

⑤ 就職者数（人）

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
自動車工業学科	78	102	109	118	119

⑥ 進学者数（人）

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
自動車工業学科	24	22	25	39	28

(7) 短期大学設置基準を上回っている状況・短期大学の概要(平成30年5月1日現在)

① 教員組織の概要（人）

学科等名	専任教員数					設置基準で定める教員数〔イ〕	短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数〔ロ〕	設置基準で定める教授数	助手	非常勤教員	備考
	教授	准教授	講師	助教	計						
自動車工業学科	6	4	1	7	18	10		3	4	7	工学関係
(小計)	6	4	1	7	18	10		3	4		
[その他の組織等]											
短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数〔ロ〕							4	2			
(合計)	6	4	1	7	18	14		5	4		

② 概要（人）

	専任	兼任	計
事務職員	3	7	10
技術職員	0	0	0
図書館・学習支援センター等の専門事務職員	0	1	1
その他の職員	0	0	0
計	3	8	11

[注]

- 「その他の職員」とは、守衛、自動車運転手、作業員等の技能労務職員等を指す。
- 契約職員、派遣職員等は「兼任」に分類する。

③ 校地等（㎡）

校地等	区分	専用 (㎡)	共用 (㎡)	共用する他の学校等の専用 (㎡)	計 (㎡)	基準面積 (㎡)	在籍学生一人当たりの面積 (㎡)	備考 (共用の状況等)
	校舎敷地	7,463	0	45,126	52,589	3,600	67.4	大学と共用
	運動場用地	0	13,508	0	13,508			
	小計	7,463	13,508	45,126	66,097			
	その他	0	0	2,071	2,071			
	合計	7,463	13,508	60,705	68,168			

[注]

- 基準面積（㎡）＝短期大学設置基準上必要な面積
- 〔イ〕在籍学生一人当たりの面積＝〔ロ〕÷当該短期大学の在籍学生数（他の学校等と共用している場合、当該学校等の在籍学生数を加えた総在籍学生数）

④ 校舎（㎡）

区分	専用 (㎡)	共用 (㎡)	共用する他の学校等の専用 (㎡)	計（㎡）	基準面積 (㎡)	備考（共用の状況等）
校舎	8,064	20,322	11,659	40,045	4,250	大学と共用

[注]

- 基準面積（㎡）＝短期大学設置基準上必要な面積

⑤ 教室等（室）

講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習室	語学学習施設
18	1	13	2	0

⑥ 専任教員研究室（室）

専任教員研究室
23

⑦ 図書・設備

学科・専攻 課 程	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕（種）		視聴覚資料 （点）	機械・器具 （点）	標本 （点）
	（冊）		電子ジャー ナル〔うち 外国書〕			
自動車工業 学 科	38,731 〔6,636〕	166 〔11〕	0	815	15	0
計	38,731 〔6,636〕	166 〔11〕	0	815	15	0

図書館	面積（㎡）	閲覧座席数	収納可能冊数
		1,196	246
体育館	面積（㎡）	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	2,836	大学共用運動場	13,508 ㎡

(8) 短期大学の情報の公表について

① 教育情報の公表について

	事項	公表方法等
1	大学の教育研究上の目的に関すること	ホームページ << 総合案内 >> 「教育情報の公表」で開示 URL http://www.aut.ac.jp/jc/outline/disclosure
2	教育研究上の基本組織に関すること	
3	教員の組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること	
4	入学者に関する受け入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること	

	事項	公表方法等
5	授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する事	
6	学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する事	
7	校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する事	
8	授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する事	
9	大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する事	

② 学校法人の財務情報の公開について

事項	公開方法等
財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監査報告書	総合案内「学園の概要」で公表 URL http://www.denpa.jp/

(9) 各学科・専攻課程ごとの学習成果について

■ 学習成果をどのように規定しているか。

本学は、学則第1条において「一般教養ならびに産業技術に関する研究と実務的指導を行い、社会から喜ばれる知識技能と歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、もって地域社会の産業発展に寄与すること」を目的として掲げ、学習成果として、国家資格の二級自動車整備士資格取得を指標に定め評価している。また、就職実績、進学実績、各種資格取得実績も学習成果の指標として総合的に評価している。教育効果の向上及び教育の質保証の観点から、平成22年度に、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）を基本的事項に定め公表している。個々の授業評価の学習成果は、いずれの科目においても学生便覧のシラバスで成績評価方法を定め、これに準拠して厳格に評価するようにしている。

■ どのように学習成果の向上・充実を図っているか。

本学は、学科会議、FD・SD委員会、教務委員会、資格取得指導委員会等で、学習成果の向上・充実策を恒常的に点検している。特に教育の質保証については、三つの方針の下にPDCAサイクルによりその結果について量的・質的データを収集し分析を行い、向上・充実のためのフィードバック情報として活用している。質保証のための学習成果の向上・充実は、学生自身の要求にとどまらず、卒業生が社会の求める人材であるかも極めて重要な点であり、教育の方法・実践及び学生のニーズについても点検し、教育の質保証を図っている。

(10) オフキャンパス、遠隔教育、通信教育のその他の教育プログラム

■ オフキャンパス

自動車工業学科 2 年生を対象に夏期休業期間中を利用して、本学の後援団体である「愛知工科大学技術後援会」、通称「愛技会」との連携により、就職内定先の企業等へインターンシップ形式で企業実習を平成 25 年度から実施している。

■ 遠隔教育：該当なし。

■ 通信教育：該当なし。

■ その他の教育プログラム

各種の国家試験、検定試験への挑戦として「キャリア支援講座」を開設している。自動車整備士の資格取得にとどまらず自らの学習意欲を促し、就職活動に役立つように資格取得の指導に取り組んでいる。

【キャリア支援講座】

- ・中古自動車査定士（小型車査定士）
- ・フォークリフト運転技能講習
- ・ガス溶接技能講習
- ・低圧電気取扱業務特別教育
- ・損害保険募集人試験
- ・危険物取扱者（乙種第 4 類）
- ・3 級販売士検定試験
- ・日商簿記検定
- ・CAD 利用技術者試験 2 級
- ・CAD 利用技術者試験 1 級（機械）
- ・3 次元 CAD 利用技術者試験 2 級
- ・3 次元 CAD 利用技術者試験準 1 級、1 級

(11) 公的資金の適正管理の状況

公的資金の適正管理については、以下の学内規程が制定され、適正な公的研究費の運営について、確認・執行が行われる体制が整備されている。規程は、本学のイントラネットの「短期大学規程集」で開示し周知徹底を図っている。

「愛知工科大学自動車短期大学研究助成金使用に関する取扱規程」

「愛知工科大学自動車短期大学における研究上の不正行為に関する取扱規程」

「愛知工科大学自動車短期大学研究倫理規程」

(12) 理事会・評議員会の開催状況（平成27年度～平成29年度）

区分	開催日現在の状況		開催年月日 開催時間	出席者数等			監事の 出席状況
	定員	現員 (a)		出席理事数 (b)	実出席率 (b/a)	意思表示 出席者数	
理事会	6人	6人	平成27年5月16日 9:55～11:18	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成27年9月12日 10:30～10:40 10:50～11:00 11:45～12:10	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成27年11月20日 16:40～17:05	5人	83.3%	1人	2/2
		6人	平成28年1月29日 16:30～16:46	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成28年3月26日 11:10～12:00	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成28年5月21日 9:55～10:55 11:25～11:55	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成28年7月22日 16:30～16:50	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成28年11月18日 16:35～17:00	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成29年1月27日 16:35～16:55	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成29年3月25日 11:00～11:40	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成29年5月20日 9:55～10:55 11:20～11:50	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成29年7月21日 17:10～17:20	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成29年11月22日 16:40～17:05	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成30年1月26日 16:30～16:55	6人	100%	0人	2/2
6人	平成30年3月24日 10:45～11:15	5人	83.3%	1人	2/2		

区分	開催日現在の状況		開催年月日 開催時間	出席者数等			監事の 出席状況
	定員	現員 (a)		出席理事数 (b)	実出席率 (b/a)	意思表示 出席者数	
評議員会	13人	13人	平成27年5月16日 11:18~11:45	13人	100%	0人	2/2
		13人	平成27年9月12日 10:40~10:50 11:00~11:45	13人	100%	0人	2/2
		13人	平成27年11月20日 16:00~16:40	12人	92.3%	1人	2/2
		13人	平成28年1月29日 16:00~16:30	13人	100%	0人	2/2
		13人	平成28年3月26日 10:00~11:10	13人	100%	0人	2/2
		13人	平成28年5月21日 10:55~11:25	13人	100%	0人	2/2
		13人	平成28年7月22日 16:00~16:30	12人	92.3%	1人	2/2
		13人	平成28年11月18日 16:00~16:35	13人	100%	0人	2/2
		13人	平成29年1月27日 15:55~16:35	12人	92.3%	1人	2/2
		13人	平成29年3月25日 10:00~11:00	13人	100%	0人	2/2
		13人	平成29年5月20日 10:55~11:20	13人	100%	0人	2/2
		13人	平成29年7月21日 16:55~17:10	13人	100%	0人	2/2
		13人	平成29年11月22日 16:00~16:40	12人	92.3%	1人	2/2
		13人	平成30年1月26日 16:00~16:30	11人	84.6%	2人	2/2
13人	平成30年3月24日 9:55~10:45	12人	92.3%	1人	2/2		

(13) その他
特になし

2. 自己点検・評価の組織と活動

■ 自己点検・評価委員会（担当者、構成員）

自己点検評価に関する規程及び自己点検・評価委員会規程に基づき委員会が設置され、同委員会規程第4条に規定する学科長、学科長補佐、委員長が指名した教員及び委員長が必要と認めた者で委員会を構成しており、平成29年度の構成員は次のとおりである。

委員長	中島守	教授（副学長兼学科長）
副委員長	高田富男	教授（学科長補佐、入試・広報委員会委員長 ALO、評価企画IR室長）
委員	森勝行	教授（教務委員会委員長、FD・SD副委員長）
委員	河合末利	教授（学生生活指導委員会委員長）
委員	永田英雄	教授（教務委員会副委員長）
委員	鈴木宏和	教授（資格取得指導委員会委員長）
委員	掛布知仁	教授（入試・広報委員会副委員長）
委員	松本吉生	事務局統括課長兼庶務課長（ALO補佐）
委員	服部明芳	事務局入試広報課長
委員	松山順一	事務局会計課長
委員	小林美喜夫	キャリア支援統括長
委員	廣田正	事務局地域・産学研究協力室
委員	市川悟秀	事務局会計課主任（IR室主任）

○ 短期大学評価企画IR室（担当者、構成員）

全教職員が自己点検に参画する趣旨から短期大学評価企画IR室を設置し、短期大学評価に関し、短期大学評価企画IR室規程第3条に規定する室長（ALO）、副室長、室員5人程度、その他学長が必要と認めた者で室員を構成しており、平成29年度の室員は次のとおりである。

室長	高田富男	教授（学科長補佐）
主任	市川悟秀	事務局会計課主任
副室長	松本吉生	事務局庶務課長（ALO補佐）
	村田幸蔵	事務局学務課長
	河合武明	事務局庶務課主任
	間瀬啓城	事務局入試広報課員

■ 自己点検・評価の組織図



関係規程

- ・愛知工科大学自動車短期大学 自己点検評価に関する規程
- ・愛知工科大学自動車短期大学 評価企画IR室規程

■ 自己点検・評価報告書完成までの活動記録（平成27年度～29年度）

年 月 日	会 議 名 等	主 な 議 題、以 来 事 項 等
平成27年4月8日	平成27年度第1回 評価企画IR室会議	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の日程、作業予定について ・各章における参考資料の記入方法について ・文章の体裁について ・エビデンスの整理、整合性の確認
平成27年4月9日	平成27年度第1回 報告書作成担当責 任者会議	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成にあたっての確認事項 「改善計画」「行動計画」不備の箇所が あり再度確認 記入漏れ等を確認
平成27年4月13日	平成27年度第2回 評価企画IR室会議	<ul style="list-style-type: none"> ・様式1～5の校正、データの抽出元を確認
平成27年4月16日	平成27年度第3回 評価企画IR室会議	<ul style="list-style-type: none"> ・前回校正した部分の再確認
平成27年4月20日	平成27年度第4回 評価企画IR室会議	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 I-Aを校正 ・数字、年号等の体裁を統一
平成27年4月22日	平成27年度第1回 自己点検・評価委 員会	<ul style="list-style-type: none"> ・「平成22年度策定の中期目標における平 成27年度取り組み」について ・「平成22年度策定の中期目標における平 成26年度の達成度」について ・評価企画IR室から報告
平成27年4月23日	平成27年度第5回 評価企画IR室会議	<ul style="list-style-type: none"> ・体裁の訂正部分を確認
平成27年7月22日	平成27年度第2回 自己点検・評価委 員会	<ul style="list-style-type: none"> ・訂正箇所の確認 ・調査訪問スケジュールの日程と役割分担 を確認する。
平成28年8月21日	平成28年度第1回 自己点検・評価委 員会	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知工科大学自動車短期大学「大学ポー トレート」の内容の点検・見直しについて ・平成27年度に受審した第三者評価におけ る「向上・充実のための課題」に対して 改善・取組みの内容と担当部署（案）に ついて
平成29年3月8日	平成28年度第2回 自己点検・評価委 員会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度取り組みに対する達成度につ いて ・エビデンス等の収集状況について ・平成29年度の具体的方策について検討 ・平成29年度自己点検・評価委員会及び推 進チーム
平成29年4月19日	平成29年度第1回 自己点検・評価委 員会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度「自己点検・評価委員会及び 推進チーム」の構成について ・平成29年度「自己点検・評価報告作成及 び資料保冊担当者」について ・「向上・充実のための課題」に対する改 善・取組みについて」（中間報告）

年 月 日	会 議 名 等	主 な 議 題、以 来 事 項 等
平成29年10月25日	平成29年度第2回 自己点検・評価委 員会	<ul style="list-style-type: none">・平成30年度「自己点検・評価報告書（平成30年6月）」について・平成30年度「評価校マニュアル（平成30年6月制定）」について・平成28年・29年度の「自己点検・評価報告書」の作成について（中間報告）
平成30年2月16日	平成29年度第1回評 価企画IR室会議	<ul style="list-style-type: none">・「平成30年度 自己点検・評価報告書」作成について・広島国際学院大学自動車短期大学部との相互評価について

【基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果】

■ 基準Ⅰの自己点検・評価の概要

「社会から喜ばれる知識と技術を持ち歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し英知と勤勉な国民性を高め科学技術、文化の発展に貢献する」を建学の精神とした。即ち、社会から喜ばれる知識と技術を持ち、特定の主義主張や思想に偏向することなく、健全で中立な社会観と堅実な人生観を持ち合わせ、周囲から愛され、信頼される人材の育成を教育の原点としている。この精神を根本として、教育目標や目的についての見直しを教授会で行い、平成 19 年度に、建学の精神に基づいた教育指針を検討し「心を磨き、技を極め、夢に挑む」とした。

学習成果は、自動車整備技術の修得に集約されるため、国家資格の二級自動車整備士資格の取得としている。また、「就職実績」「進学実績」「各種資格取得実績」等も学習成果としている。学習成果の査定は自動車整備士国家試験合格率、進路決定率、退学率等から量的・質的に行っている。

建学の精神の「歓迎される人柄を兼ね備えた人材」についての学習成果の査定は平成 26 年度から「ふりかえりシート」（アンケート調査）で行うこととした。

建学の精神に基づいた教育の効果を高めるため、オリエンテーション、ガイダンスを通して、教育指針、教育目標の周知徹底を図っている。建学の精神は、学内外に表明し、学内では、様々な方法で学生に周知しているが、どの程度、学生が認識し、定着しているかは把握しておらず、アンケート調査の実施などで数量的データの収集が必要である。平成 30 年度内に「建学の精神」に関するアンケート調査を実施し、数量的データの収集をし、その結果を基に周知方法等の検討を計画している。

教員の教育力の向上のための FD 活動と自動車整備実習教育の充実のため教育施設設備を充実させている。授業以外にも、技術講習会、社会研修会、ビジネスマナー講習会等を実施している。

本学は、高等教育機関として、教育の継続的な質の保証を図り、社会的に魅力ある短期大学であり続けるために、自己点検・評価委員会及び評価企画 IR 室を設置し積極的に改善活動に取り組んでいる。学則第 1 条の 4 に自己点検・評価の条文を置き、そのもとに自己点検・評価委員会規程等を定め、学長、学科長など、大学の管理運営責任者が自己点検・評価に率先して関わり、ALO の任務を支援し、その体制を構築している。平成 20 年度及び平成 27 年度の一般財団法人短期大学基準協会の第三者評価受審後は、2 か年毎に自己点検・評価報告書を作成し、関係機関に送付すると共にホームページにも公開している。さらに、教育内容が類似する高等教育機関との相互評価も実施し、得られた改善項目も含めた継続的な改善活動に取り組んでいる。

[テーマ 基準 I -A 建学の精神]

[区分 基準 I -A-1 建学の精神が確立している。]

■ 基準 I -A-1 の自己点検・評価

(a) 現状

学園建学の精神

社会から喜ばれる知識と技術をもち
歓迎される人柄を兼ね備えた
人材を育成し英知と勤勉な
国民性を高め科学技術、文化
の発展に貢献する

本学はこの「学園建学の精神」を学則第 1 条に示し、将来の我が国の産業界において技術開発の原動力となるべき実践的中堅技術者の育成を通して地域社会の産業発展に寄与することを教育理念としている。「建学の精神」はホームページの「大学案内サイト」、「学生便覧」等各種印刷物冊子で公表している。さらに、キャンパス内建物全室に、額装した「学園建学の精神」を掲げている。

「建学の精神」は入学式、卒業証書・学位記授与式における告辞、式辞において学長から、新入生オリエンテーション、年度当初の在学生ガイダンスにおいて学科長から訓示の中で周知している。また、「建学の精神」は教授会で毎年度末に確認している。

(b) 課題

「建学の精神」は、学内外に表明し、学内では、様々な方法で学生に周知しているが、どの程度、学生が認識し定着しているかは把握しておらず、アンケート調査の実施などで数量的データの収集が必要と考えている。

テーマ 基準 I -A 建学の精神の改善計画

平成 30 年度内に「建学の精神」に関するアンケート調査を実施し、数量的データの収集をし、その結果を基に周知方法等の検討を計画している。

[テーマ 基準 I-B 教育の効果]

[区分 基準 I-B-1 教育目的・目標が確立している。]

■ 基準 I-B-1 の自己点検・評価

(a) 現状

「学園建学の精神」に基づき、「教育の目的」学則第 1 条、「使命」を第 1 条の 2 及び「教育研究上の目的」を第 1 条の 3 に定めている。

愛知工科大学自動車短期大学学則

(目的)

第 1 条 愛知工科大学自動車短期大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき、一般教養ならびに産業技術に関する研究と実務的指導を行い、社会から喜ばれる知識技能と歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、もって地域社会の産業発展に寄与することを目的とする。

(使命)

第 1 条の 2 本学は、学園建学の精神に則り、未来を創る夢に挑み、夢の実現によって社会に貢献することを使命とする。

(教育研究上の目的)

第 1 条の 3 本学は、人材の要請に関する目的及び教育研究上の目的に関し、必要な事項を別に定める。

また、教育目標を学生便覧等に下記のとおり定めている。

愛知工科大学自動車短期大学の教育目標

愛知工科大学自動車短期大学は、より複雑化、高度化する自動車技術社会において「二級自動車整備士の資格を有し、確かな基礎能力と幅広い教養を持ち、多様な業種に対応できる人材の養成」を行うため、次のことを目標に人材を養成します。

1. 国家資格である二級自動車整備士を養成する。
2. 社会に柔軟に対応できる幅広い視野と実践力ある心豊かな人材を養成する。
3. 高度に進化を続けるカーテクノロジーをより深く探求し、高機能化、複雑化する自動車整備技術に対応できる人材を養成する。
4. 大学 3 年次編入に対応できる将来の進路に併せた教育を行う。

自動車工業学科の教育目的・目標は自動車整備技術の修得であり国家資格の二級自動車整備士資格取得、一級自動車整備士資格取得を目指す進学等、自動車整備に特化した学習成果を明確に示している。

自動車工業学科の教育目的・目標を学内では学生便覧により、学外へは本学ホームページ、学校案内パンフレットを通して表明している。

(b) 課題

自動車工業学科の教育目的・目標を平成30年1月の教授会で点検した。今後も定期的に点検し、時代の趨勢や社会情勢の変化によって見直しを行う必要がある。

[区分 基準 I-B-2 学習成果を定めている。]

■ 基準 I-B-2 の自己点検・評価

(a) 現状

自動車工業学科の学習成果は、本学教育目標の大項目である二級自動車整備士資格の取得率としている。また、「就職実績」「進学実績」「各種資格取得実績」等も学習成果として定め、毎年定期的に点検評価するとともに、ホームページ、大学案内等で公表している。

(b) 課題

建学の精神の「社会から喜ばれる知識と技術をもち」についての学習成果は、「二級自動車整備士資格の取得率」「就職実績」「進学実績」「各種資格取得実績」と定めており、量的・質的データとして測定可能である。また、「歓迎される人柄を兼ね備えた人材」についての学習成果の測定については、平成26年度から「ふりかえりシート(アンケート調査)」で行っている。「英知と勤勉な国民性を高め科学技術、文化の発展に貢献する」についての学習成果を測定する仕組みについては確立されておらず、測定が可能かも含めて検討する必要がある。

[区分 基準 I-B-3 教育の質を保証している。]

■ 基準 I-B-3 の自己点検・評価

(a) 現状

本学は、学則第1条に「教育基本法及び学校教育法に基づき、一般教養ならびに産業技術に関する研究と実務的指導を行い、社会から喜ばれる知識技能と歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、もって、地域社会の産業発展に寄与することを目的とする」と目的を規定し、第1条の3には「国土交通省の定める設置基準を満たした自動車に関する学科を有する認定大学として「二級自動車整備士」の国家資格の取得を通して、自動車工学や自動車整備に関する知識・技術を修得し、専門的知見と併せて日々進化する自動車技術に対応できる応用実践力を持った技術職業人の養成を目的とする」と教育研究上の目的を規定している。国土交通省、文部科学省の定める関係法令を順守し、関係法令の変更等にあっては、その都度学内規程等の一部改正を行い法令順守に努め、授業運営に支障のないようにしている。また、第1条の4には「教育研究水準の向上を図り、その目的及び使命を達成するため、教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。」と規定し、教育研究水準の向上に取り組んでいる。

平成 14 年度から「授業評価アンケート」を全教員対象に、前期 1 回・後期 1 回の年 2 回実施している。この「授業評価アンケート」をもとに担当教員は、授業内容や指導方法についての改善を行っている。

平成 27 年度からは各自が授業改善のための「Plan (計画)」「Do (実施)」「Check (確認)」「Action (対策)」シートを作成し、教育・研究改善に取り組んでいる。

成績評価は『学生便覧』のシラバスに明記している各科目の「成績評価方法」に基づいて行われている。学生にとって予め明確な目標設定がなされており、各科目での学習に対して目的意識を持って取り組めるため、一定の教育水準を担保することも可能となっている。

各委員会において、計画される事項は常に PDCA 活動に沿った取り組みをしている。教育の向上・充実のための PDCA サイクルに関しては、毎年、教育の向上・充実のために、開講科目の見直し、シラバスの見直し、授業方法の見直し等を行って質の保証に取り組んでいる。

(b) 課題

学習成果を焦点とする査定の手法を構築しているが、今後は、さらに質の向上と充実を目指す必要がある。

■ テーマ 基準 I・B 教育の効果の改善計画

教育目的・目標を平成 30 年 1 月の教授会で点検したが、今後も定期的に点検し、時代の趨勢や社会情勢の変化によって見直しを行う。

平成 26 年度は「歓迎される人柄を兼ね備えた人材」についての学習成果の測定方法を確立したので年度毎の分析を行い改善につなげたい。平成 27 年度から実施の個人の教育・研究に関する PDCA サイクルを、教育の質の向上と充実に活用したい。

[テーマ 基準 I-C 自己点検・評価]

[区分 基準 I-C-1 自己点検・評価活動等の実施体制が確立し、向上・充実に向けて努力している。]

■ 基準 I-C-1 の自己点検・評価

(a) 現状

本学における自己点検・評価については、学則第 1 条の 4 に自己点検・評価の条文「本学は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び使命を達成するため、教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。」と明記し、関係する規程及び組織を整備して活動に取り組んでいる。平成 16 年度からの認証評価制度の導入に伴い、短期大学独自の常設委員会として自己点検・評価委員会を設置し、平成 17 年度に自己点検・評価委員会規程を制定している。当委員会は、学長直轄の教授会に次ぐ重要な運営組織として位置づけている。また、下部組織として学科長がチームリーダーとなる推進チームを設置し、自己点検・評価報告書の作成及び資料収集に当たっている。自己点検・評価の活動報告は、自己点検・評価委員会が統括し、規程に基づき、関連する資料作成や保冊等は、学科長補佐(ALO 兼務)が室長となる評価企画 IR 室が行い、2 か年をセットにして自己点検・評価報告書に纏め、学内教職員への配布や関係機関に送付すると共にホームページにも公開して、更なる改善への助言を得るようになっている。

平成 20 年度及び平成 27 年度には第三者評価として、短期大学基準協会より「適格」の認定を受け、平成 30 年度には広島国際学院大学自動車短期大学部との 3 回目の相互評価を予定している。平成 27 年度に基準協会からの「向上・充実のための課題」の指摘があり、それらの改善に向けた取り組みを継続している。主な見直し・取り組み・改善項目としては、「大学ポートレート」の内容を見直し公開している。また、より分かり易い教育課程の編成と実施を目指して、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関連を見直している。その結果、「教育研究上の目的」や「教育目標」等においても簡潔で分かり易いものに改善でき、両ポリシーが各教科目に対して、どのように関連しているのかもシラバスに反映できることとなった。

さらに、教職員が教育の質的向上を図るための FD・SD 委員会規程を平成 29 年度に改正し、組織的な活動を推進している。年間に数回開催する FD・SD 研修会や併設の愛知工科大学との FD セミナーによる教育技法の改善に取り組んでいる。また、「学生による授業評価」は次年度のシラバスや授業の取り組みに反映されている。また、2 か年間の教育に対する「満足度調査」は、次年度以降の教育環境等の改善策の策定に活用されている。これらの取り組みは、図 I-C-1 に示す教育の向上・充実のための PDCA サイクルとして、各部署が自己点検・評価活動に組織的かつ日常的に参画することで、改革・改善活動の重要性を共通認識することに繋がり、点検・評価の成果は翌年度や中期計画などに反映されている。

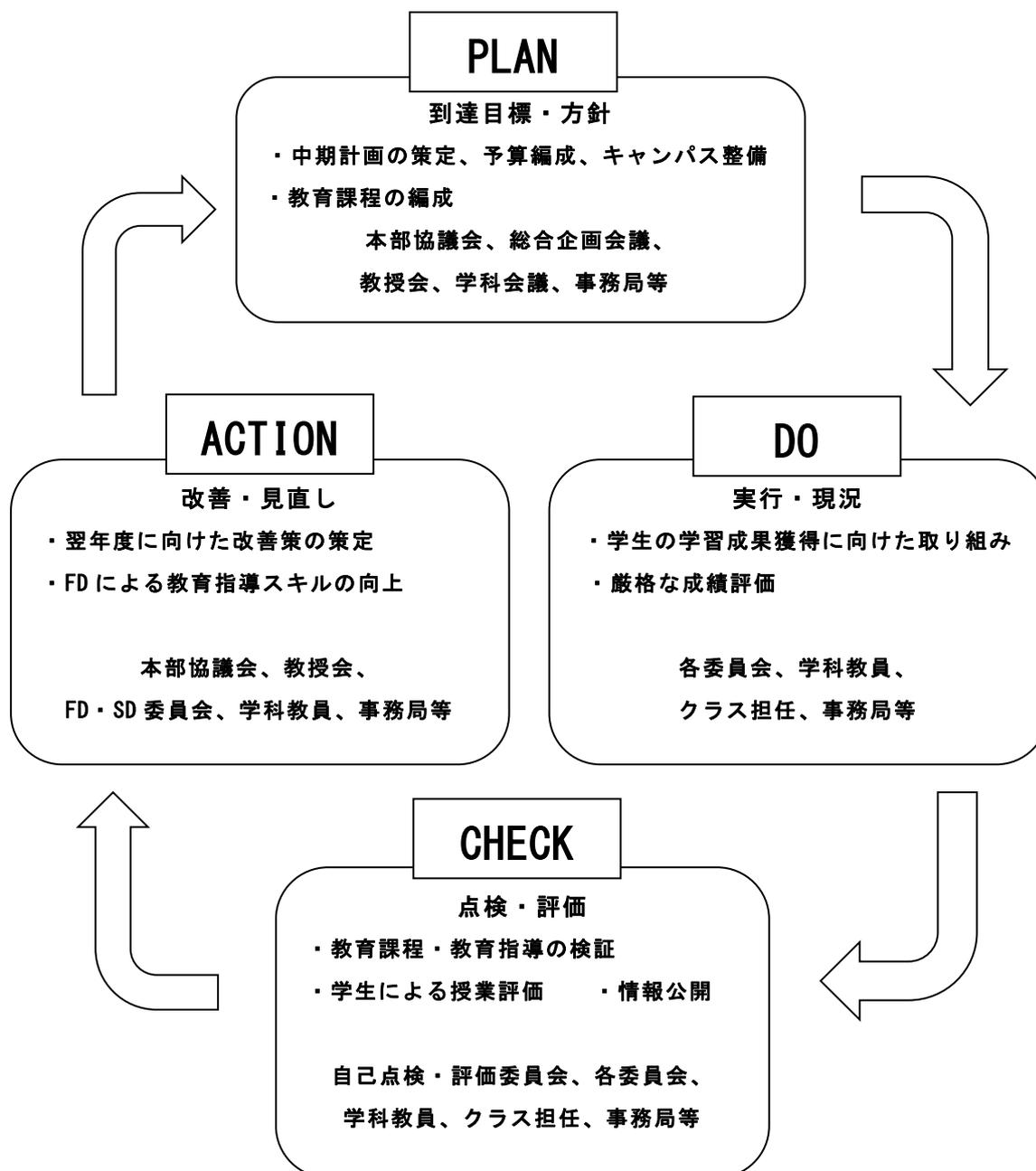


図 I-C-1 教育の向上・充実のための PDCA サイクル

(b) 課題

自己点検・評価活動は、常設する他の委員会の年度目標に対する点検・改善活動に連動するよう、さらに自己点検・評価活動を充実させる必要がある。

■ テーマ 基準 I-C 自己点検・評価の改善計画

自己点検・評価に基づく改善計画は、平成22年度に策定した中期目標の具体的な方策を平成27年度の第三者評価をもって区切りとした。また、平成28年度及び平成29年

度の目標については、第2クール評価項目での計画・立案を最終とした。平成30年度からは短期大学基準協会の新たな認証評価項目に準じた中期目標を策定していく予定である。また、教員個人の資質向上を図るための活動に取り組む予定である。

■ 基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果の行動計画

「建学の精神」における「歓迎される人柄を兼ね備えた人材」については、平成26年度から学習成果の測定方法を確立し実行しているところであるが、平成27年度に「建学の精神」の理解度に関するアンケート調査を通して、数値的データの収集をし、その結果を基に周知方法等の改善を検討したい。また、教育目的・目標を平成26年5月の教授会で点検しているが、今後も定期的に点検し、時代の趨勢や社会情勢の変化によって見直しを行いたい。さらには、常設する他の委員会の目標達成に向けた改善活動に連動するようにして、自己点検・評価活動を充実させるとともに、教員個人の教育指導改善に取り組み、教育の質の向上を目指したい。

◇ 基準Ⅰについての特記事項

(1) 以上の基準以外に建学の精神と教育の効果について努力している事項。

- ・ 学生が学習環境に適応し、スムーズな修学ができるよう、学生の相談相手となって勉学・学生生活など必要な指導・助言を与えるために2年間一貫してクラス担任制(1学年4クラス、1クラス約40名)を設けている。クラス担任は、入学早々にクラス学生全員と個人面談を実施し学生個々の性格、入学の動機、勉学意欲、基礎的能力、将来の希望等を早期に掌握し、修学、学生生活、進路など様々な相談相手となっている。また、必要に応じて学科教員との情報を交換することで、教育の効果の向上に繋げている。
- ・ 全クラスに学級日誌があり、毎日その日の授業科目、授業内容、反省事項、所感などを当番制で記入させクラス担任が学生の意見等を汲み上げている。また、記入した学生の意見等に関して、クラス担任がコメントを記入すると同時に、必要に応じて対応している。
- ・ 保護者からの意見を汲み上げる目的で、開学以来、毎年、本学及び地方15会場において「教育懇談会」を開催している。平成29年度に実施した地方15会場は、岐阜県(郡上市、高山市)、滋賀県(長浜市)、富山県(富山市)、沖縄県(石垣市、宮古島市、那覇市)、三重県(熊野市、伊勢市)、長野県(松本市、飯田市)、石川県(金沢市)、福井県(福井市)、静岡県(静岡市、浜松市)である。
懇談会における保護者との面談では、学業に関すること、進路に関すること、学生生活に関することなど保護者からの意見をお聞きしている。また、教員、学生、保護者による三者一体で、本学へ入学した学生の目的意識の再確認、やる気の誘発ばかりでなく、潜んでいる悩みごとの相談などもあり、学習及び学生生活支援に役立っている。教育懇談会への参加者は毎年概ね在籍者の60~70%で推移している。過去5か年の参加状況を表I-1に示す。

表 I -1 教育懇談会参加状況表 (人)

項目\年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
在 籍 数	257	287	328	337	314
本学会場参加数	149	169	196	195	181
地方会場参加数	32	30	40	38	24
参加者合計	181	199	236	233	205
参加率	70.4%	69.3%	72.0%	69.1%	65.3%

【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】**■ 基準Ⅱの自己点検・評価の概要**

学位授与の方針は、学則第 26 条に「卒業の要件」及び第 27 条に「卒業及び学位授与」を明示し、卒業に必要な必修科目 60 単位及び選択科目から 8 単位以上を修得した者に対して、短期大学士（自動車工学）の学位を授与している。

入学者受け入れ方針は、オープンキャンパス、進学相談会、高校訪問等を通じて、高校教員、受験生や保護者に説明を行い、また大学案内、学生募集要項、本学ホームページで示している。

学習成果は、自動車整備技術の修得であり国家資格の二級自動車整備士資格取得である。学習成果の評価は、自動車整備士登録試験合格率、進路（就職・進学）決定率、各種資格取得率等から行っている。

卒業生の就労実態調査は 5 か年毎に実施する計画に基づき、平成 24 年度から平成 28 年度までの 5 年間の卒業生を採用した企業 125 社に対して、卒業生の就労実態調査を平成 29 年 4 月に実施し、67 社から回答を得ている。就職支援は、学生生活指導委員会とキャリア支援課及びクラス担任が緊密に連携をとりながら協力して行っている。キャリアセンターには、キャリア支援課の事務職員 4 名（29 年度より内 1 名が派遣職員）が常駐し、求人開拓、企業との情報交換及び連絡、学生と企業との仲介、会社案内・求人票等の整理・閲覧などの他、資格取得や就職試験対策の支援も行っている。キャリアセンターには 6 台の学生用パソコンが設置されており、AUT 求人 NAVI により求人情報を検索・閲覧できるようになっている。また、本学には自動車整備関連業界の 177 社が加盟する愛技会（事務局はキャリア支援課）があり、学生の就職支援（CS 講座等の講師派遣、最新の車両を用いた技術講習会、学内企業説明会の実施）や教育・研究活動の支援（ソーラーカーレース参戦の支援、ウェブ教材「コーカくん」開発の支援）を行っている。就職内定率は、年度で大きく変化することはあまりなく、平成 27 年度 99.1%、平成 28 年度 98.3%、平成 29 年度 99.2%と高い水準を示し、特別な事情のある学生を除いてほぼ満足できる結果となっている。進学支援は、愛知工科大学工学部（含：一級自動車整備士養成課程）及び他大学への 3 年次編入学希望者に対して、クラス担任を中心に愛知工科大学総合教育センターの協力も受けながら指導にあたっている。進学希望者は、平成 27 年度、平成 28 年度及び平成 29 年度のいずれにおいても 100%の進学決定率であり、学生の希望に応えた結果となっている。

日進月歩する自動車技術に対応した人材を育成するためには、建学の精神に沿った学位授与の方針の見直し、カリキュラムの改編を踏まえた授業内容の精査やさらなる見直し、教員のスキルアップと実習教材等の充実に対する継続的な取り組みが不可欠である。また、定員充足のための PR 方法、入学者受け入れ方針等の見直しが必要である。

企業の求める人材の資質が高くなっていることを踏まえ、社会に送り出す最終の教育機関として、技術のみならず人間力の向上に努める必要がある。この点については、平成 25 年度から夏休みを利用して内定先企業で職場体験実習を実施している。

[テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程]

[区分 基準Ⅱ-A-1 学位授与の方針を明確に示している。]

■ 基準Ⅱ-A-1 の自己点検・評価

(a) 現状

学位授与の方針は、学則第 26 条「卒業の要件」および第 27 条「卒業及び学位授与」を明示し、授業科目の履修に関する規程第 5 条「卒業要件単位数」の中で卒業に必要な必修科目 60 単位及び選択科目から 8 単位以上、合わせて 68 単位以上を修得した者に対して、短期大学士（自動車工学）の学位を授与している。また、成績評価においては、試験及び成績評価に関する規程第 13 条「成績区分」を明示している。情報の公開においては、本学ホームページ内の「在学生の方へ」の中に学則や規程を載せ、学位認定の基準を公開するとともに学生便覧に掲載し学生へ周知している。

学則第 27 条を具体化するためのディプロマ・ポリシーとして、次のような到達目標を掲げ卒業の認定および学位記を授与している。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

愛知工科大学自動車短期大学は、次のような到達目標を掲げ卒業の認定及び学位記を授与します。

1. 自動車整備士として活躍するために必要な知識・技術を修得している。
2. 健全で中正な社会観と堅実な人生観を持った、周囲から愛され、信頼される素養を身につけている。
3. 円滑な人間関係が築けるコミュニケーション能力を有し、社会人として地域社会に貢献できる。

これらの目標の達成度を向上するために、平成 25 年度より 2 年次において、夏期休暇期間中に就職内定企業へのインターンシップを実施している。

学習成果の一つは、二級自動車整備士（二級ガソリン自動車、二級ジーゼル自動車）の国家資格の取得にあるため、毎年、二級自動車整備士合格率の状況（表Ⅱ-A-10、11）でその達成度を把握している。

(b) 課題

学位授与の方針として、到達目標を掲げているが、入学生は多様な学習経験を持ち、その学力差が大きくなっているため、基礎教科目群の検討、履修状況の点検を行う必要がある。さらに、個々の学習意欲を上げる方策の検討が必要である。

[区分 基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針を明確に示している。]

■ 基準Ⅱ-A-2 の自己点検・評価

(a) 現状

本学に 2 年以上在学しカリキュラムに基づいて教育を受け、基礎・教養科目及び専

門科目の必修科目 60 単位、選択科目から 8 単位以上と合わせて 68 単位以上修得し、さらに選択科目 8 単位以上は、基礎・教養科目から 2 単位以上、専門科目から 4 単位以上修得した者に対して、短期大学士（自動車工学）の学位を授与している。教育課程は卒業の要件、卒業及び学位授与を学則第 26 条及び第 27 条に明記し、学位授与の方針に対応している。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のように定め、表Ⅱ-A-1 のように「基礎・教養科目」及び「専門科目」で構成している。その教育課程一覧を表Ⅱ-A-2 に示す。授業科目は基礎的な内容から始まり、専門的、応用的な内容になるように編成されている。また、各科目間の関連性を意識して学べるように、学生便覧において学年別・科目別履修系統図（表Ⅱ-A-3）を掲載している。教育科目の成績評価については、シラバスで明確にその方法を示し、教育の質の保証に向けて厳格に適用している。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

自動車の基本的な構造や装置について学び、段階的に各装置の結びつきを理解することで、自動車全体をシステムとして捉えられるように、次のことを意図してカリキュラム（教育課程）を編成しています。

1. 理論学習と実験・実習を繰り返し行う独自の教育システムにより、基礎知識から実践技術までを効率的に修得します。
2. CS 講義やセミナーなどを通してコミュニケーション能力を身につけることにより、豊かな人間性を育成します。
3. インテリジェント化の進む自動車に欠かせないカーエレクトロニクスや自動車の設計・製造に関わる CAD システム、機械工作法など多彩な選択科目を用意し、広く自動車産業界で活躍できる技術職業人になるための学習を支援します。
4. 進学意欲のある学生には、愛知工科大学工学部の 1 級自動車整備士養成課程への 3 年次編入学を支援します。

表Ⅱ-A-1 授業科目の基本構成

基礎・教養科目	基礎・教養科目では、人文、社会、自然科学などの科目を学習し、人間形成に活かす。また、科学技術英語を必要とする取扱い説明書、インターネット英語などに活用できるよう基礎的な英語を学習する。さらに、スポーツ科学、健康及び現代社会の健康問題をさまざまな事例を通して学習する。
専門科目	専門科目は、自動車工学・自動車整備に関係する分野・領域及びそれらと深く関係する工学分野を学習する。

表Ⅱ-A-2 自動車工業学科 教育課程一覧（平成 29 年度）

科目の種別	授業科目名	配当年次	授業形態				単位	
			講義	演習	実習	実技	必修	選択
基礎・ 教養 科目	数学Ⅰ	1	○				2	
	就職対策講座	1	○				2	
	法学	2	○				2	
	文章表現法	1	○					2
	物理学	1	○					2
	数学Ⅱ	2	○					2
	ファイナンシャル・マネジメント	2	○					2
	コミュニケーション講座	1	○					2
	メンタルヘルス講座	2	○					2
	英語Ⅰ	1	○					2
	英語Ⅱ	1	○					2
	体育実技	1				○	1	
	保健体育講義	1	○					2
	専門 科目	工学基礎	1	○				2
自動車工学概論		1	○				2	
ガソリン・エンジン工学		1	○				2	
自動車シャシⅠ		1	○				2	
自動車電気基礎		1	○				2	
自動車電装Ⅰ		1	○				2	
機械製図		1	○			○	1	
ジーゼル・エンジン工学		1	○				2	
自動車シャシⅡ		1	○				2	
自動車電装Ⅱ		1	○				2	
ガソリン・エンジン整備		2	○				2	
シャシ整備Ⅰ		2	○				2	
自動車材料		2	○				2	
自動車法規		2	○				2	
故障探究法		2	○				2	
ジーゼル・エンジン整備		2	○				2	
シャシ整備Ⅱ		2	○				2	
自動車検査		2	○				2	
自動車工学実習Ⅰ		1			○		5	
自動車工学実習Ⅱ		1			○		4	
自動車工学実習Ⅲ		2			○		5	
自動車工学実習Ⅳ		2			○		4	
パソコン演習Ⅰ		1		○				1
パソコン演習Ⅱ		1		○				1
CADシステム		1	○			○		1
販売管理		1	○					2
カーエレクトロニクス		2	○					2
熱力学		2	○					2
自動車整備士対策講座		2		○				1
流体工学		2	○					2
材料力学	2	○					2	
機械工作法	2	○					2	
ハイブリッドカー	2	○					2	
OMS	2		○				1	

表Ⅱ-A-5 専任教員の配置

年度	年次	基礎・教養科目			専門科目			科目全体			備考
		科目数	専任教員数	専任教員率%	科目数	専任教員数	専任教員率%	科目数	専任教員数	専任教員率%	
27	1	9	3	33	16	15.2	95	25	18.2	73	
	2	4	3	75	19	19	100	23	22	96	
	合計	13	6	46	35	34.2	98	48	40.2	84	
28	1	9	3	33	16	14.6	91	25	17.6	70	
	2	4	3	75	19	16.5	87	23	19.5	85	
	合計	13	6	46	35	31.1	89	48	37.1	77	
29	1	9	3	33	16	14.5	91	25	17.5	70	
	2	4	3	75	19	17.8	94	23	20.8	90	
	合計	13	6	46	35	32.3	92	48	38.3	80	

注)平成27年度専門科目の専任教員1年次の専任教員数15.2はパソコン演習Ⅰが専任1名、兼任1名、CADシステムが専任2名、兼任1名であるため0.2の端数が生じている。

平成28年度専門科目の専任教員1年次の専任教員数14.6は機械製図が専任3名、兼任1名、自動車シャシⅡが専任1名、兼任1名、パソコン演習Ⅰが専任2名、兼任1名、CADシステムが専任2名、兼任1名であるため0.6の端数が生じている。同様に、専門科目の専任教員2年次の専任教員数16.5は自動車材料が専任1名、兼任1名であるため0.8の端数が生じている。

平成29年度専門科目の専任教員1年次の専任教員数14.5は機械製図が専任2名、兼任1名、自動車シャシⅡが専任1名、兼任1名、パソコン演習Ⅰが専任2名、兼任1名、CADシステムが専任2名、兼任1名であるため0.5の端数が生じている。同様に、専門科目の専任教員2年次の専任教員数17.8は自動車工学実習Ⅲが専任12名、兼任1名、自動車工学実習Ⅳが専任12名、兼任1名であるため0.8の端数が生じている。

平成25年度からは本学が目指す英語教育について見直し、学則第23条の2の規定に基づき、短期大学又は大学以外の教育施設等における学修のうち「その他文部科学大臣が定める学修」について、「実用英語技能検定試験」、「TOEFL (Test of English as a Foreign Language)」、「TOEIC (Test of English for International Communication)」で、表Ⅱ-A-6に定める成績基準を満たすものに、本学における外国語科目を履修したものとみなして単位を与えることにした。

表Ⅱ-A-6 英語単位認定の成績基準

成績基準（スコア／級）	授業科目及び認定単位数
TOEFL（iBT）50点以上 TOEIC 550点以上 英検 2級以上	英語科目の 「英語Ⅰ」及び「英語Ⅱ」の4単位を認定する。
TOEFL（iBT）40点以上 TOEIC 450点以上 英検 準2級	英語科目の 「英語Ⅰ」を2単位認定する。

注) TOEFL iBT (TOEFL Internet-based testing)

教育課程の見直しは、毎年度学科方針として掲げられており、適宜内容の見直し・検討を教務委員会が中心になり行っている。また、その際には学習成果に対応した授業科目を編成するよう留意している。

平成27年度からは新入生に対し、自己理解を深め、円滑な意思疎通に関する能力を養成するために基礎・教養科目として1年生前期に「コミュニケーション講座」を開講した。就職・進学を控えた2年生に対しては、心の健康に関する知識から自己管理スキルを習得する「メンタルヘルス講座」を基礎・教養科目として後期に開講した。教員数の減少及び科目担当者の退職に伴い平成29年度からは「機械運動学」を削除した。科目変更のあった平成27（2015）年度、平成29（2017）年度の教育課程表を表Ⅱ-A-7及び表Ⅱ-A-8に示す。

表Ⅱ-A-7 平成27(2015)年度 教育課程表

区分		授業科目	授業形態				単位数	履修スケジュール				
			講義	演習	実習	実技		1年		2年		
								前期	後期	前期	後期	
基礎・教養科目	必修	数学Ⅰ	○				2	1				
	必修	就職対策講座	○				2		1			
	必修	法学	○				2					1
	選択	文章表現法	○				2		1			
	選択	物理学	○				2		1			
	選択	数学Ⅱ	○				2				1	
	選択	ファイナンス・マネジメント	○				2				1	
	選択	コミュニケーション講座	○				2	1				
	選択	メンタルヘルス講座	○				2					1
	選択	英語Ⅰ	○				2	1				
	選択	英語Ⅱ	○				2		1			
	必修	体育実技				○	1	1				
	選択	保健体育講義	○				2		1			
専門科目	必修	工学基礎	○				2	1				
	必修	自動車工学概論	○				2	1				
	必修	ガソリン・エンジン工学	○				2	1				
	必修	自動車シャシⅠ	○				2	1				
	必修	自動車電気基礎	○				2	1				
	必修	自動車電装Ⅰ	○				2	1				
	必修	機械製図	○			○	1	1				
	必修	ジーゼル・エンジン工学	○				2		1			
	必修	自動車シャシⅡ	○				2		1			
	必修	自動車電装Ⅱ	○				2		1			
	必修	ガソリン・エンジン整備	○				2				1	
	必修	シャシ整備Ⅰ	○				2				1	
	必修	自動車材料	○				2				1	
	必修	自動車法規	○				2				1	
	必修	故障探究法	○				2				1	
	必修	ジーゼル・エンジン整備	○				2					1
	必修	シャシ整備Ⅱ	○				2					1
	必修	自動車検査	○				2					1
	必修	自動車工学実習Ⅰ				○	5	8				
	必修	自動車工学実習Ⅱ				○	4		8			
	必修	自動車工学実習Ⅲ				○	5				8	
	必修	自動車工学実習Ⅳ				○	4					8
	選択	パソコン演習Ⅰ		○			1	1				
	選択	パソコン演習Ⅱ		○			1		1			
	選択	CADシステム	○			○	1		1			
	選択	販売管理	○				2		1			
	選択	カーエレクトロニクス	○				2				1	
	選択	熱力学	○				2				1	
	選択	機械運動学	○				2				1	
	選択	自動車整備士対策講座		○			1				1	
選択	流体工学	○				2					1	
選択	材料力学	○				2					1	
選択	機械工作法	○				2					1	
選択	ハイブリッドカー	○				2					1	
選択	OMS		○			1					2	
週あたりコマ数合計								20	19	19	19	

表Ⅱ-A-8 平成 29(2017)年度 教育課程表

区分		授業科目	授業形態				単位数	履修スケジュール				
			講義	演習	実習	実技		1年		2年		
								前期	後期	前期	後期	
基礎・教養科目	必修	数学Ⅰ	○				2	1				
	必修	就職対策講座	○				2		1			
	必修	法学	○				2					1
	選択	文章表現法	○				2		1			
	選択	物理学	○				2		1			
	選択	数学Ⅱ	○				2				1	
	選択	ファイナンシャル・マネジメント	○				2				1	
	選択	コミュニケーション講座	○				2	1				
	選択	メンタルヘルス講座	○				2					1
	選択	英語Ⅰ	○				2	1				
	選択	英語Ⅱ	○				2		1			
	必修	体育実技				○	1	1				
	選択	保健体育講義	○				2		1			
専門科目	必修	工学基礎	○				2	1				
	必修	自動車工学概論	○				2	1				
	必修	ガソリン・エンジン工学	○				2	1				
	必修	自動車シャシⅠ	○				2	1				
	必修	自動車電気基礎	○				2	1				
	必修	自動車電装Ⅰ	○				2	1				
	必修	機械製図	○			○	1	1				
	必修	ジーゼル・エンジン工学	○				2		1			
	必修	自動車シャシⅡ	○				2		1			
	必修	自動車電装Ⅱ	○				2		1			
	必修	ガソリン・エンジン整備	○				2				1	
	必修	シャシ整備Ⅰ	○				2				1	
	必修	自動車材料	○				2				1	
	必修	自動車法規	○				2				1	
	必修	故障探究法	○				2				1	
	必修	ジーゼル・エンジン整備	○				2					1
	必修	シャシ整備Ⅱ	○				2					1
	必修	自動車検査	○				2					1
	必修	自動車工学実習Ⅰ				○	5	8				
	必修	自動車工学実習Ⅱ				○	4		8			
	必修	自動車工学実習Ⅲ				○	5			8		
	必修	自動車工学実習Ⅳ				○	4					8
	選択	パソコン演習Ⅰ		○			1	1				
	選択	パソコン演習Ⅱ		○			1		1			
	選択	CADシステム	○			○	1		1			
	選択	販売管理	○				2		1			
	選択	カーエレクトロニクス	○				2				1	
	選択	熱力学	○				2				1	
	選択	自動車整備士対策講座		○			1				1	
	選択	流体工学	○				2					1
選択	材料力学	○				2					1	
選択	機械工作法	○				2					1	
選択	ハイブリッドカー	○				2					1	
選択	OMS		○			1					2	
週あたりコマ数合計								20	19	18	19	

各科目の成績から学習状況を総合的に示す学生の成績評価値の1つとして平成27年度からGPA (Grade Point Average) を導入した。GPAは、各科目の成績評価と履修登録の総単位数を基に算出するもので、不合格となった科目や途中で履修放棄した科目も評価対象となる。したがって、安易な履修登録をすると、不合格や履修放棄によりGPAが低下する。これにより、計画的な履修登録を行い、履修登録科目数の自主規制を促し、成績不振の学生をいち早く発見及び指導することを目的に導入した。さらに、奨学金候補者及び学生表彰の選考における参考データとして利用できるようにした。

GPAは履修登録した科目毎の成績に対して表Ⅱ-A-9に定めるGP (Grade Point) を基に次の式により算出した。

$$\text{GPA} = \frac{\text{履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のGPの総和}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

表Ⅱ-A-9 評語に対するGP (Grade Point)

合否区分	素点	評語	GP
合格	100点～90点	秀	4
	89点～80点	優	3
	79点～70点	良	2
	69点～60点	可	1
不合格	59点以下	不可	0
	—	欠超	0
認定	—	認定	対象外

本学では、1つの授業科目に対する教育効果を向上するための予習・復習を含めた学習の確保を考慮し、履修登録できる単位数の上限を年間48単位と定めている。しかし、GPAの導入に伴い、前期に登録した全ての履修科目の単位数を修得し、かつ履修登録した科目の平均点が80点以上あるいはGPAが2.5ポイント以上ある学生については、後期において上限単位数を超えて履修科目の登録を認めることとした。

(b) 課題

日進月歩する自動車技術に対応するため、カリキュラムの改編を踏まえ授業内容の精査やさらなる見直しを定期的に行う必要がある。学生の学習意欲の向上を図るため、授業以外でも学生とのコミュニケーションを保ち、学生の学習支援に取り組む必要がある。入学生の学力格差が年々顕著になり、教育方法の改善を通して、より分かりやすい授業を提供することで質の向上に継続的に取り組む必要がある。また、学習成果の向上を図るため、シラバスを改善する必要がある。

[区分 基準Ⅱ-A-3 入学者受け入れの方針を明確に示している。]

■ 基準Ⅱ-A-3 の自己点検・評価

(a) 現状

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）はオープンキャンパス、進学相談会、高校訪問等を通じて、受験生、保護者、高校教員に説明を行い、募集要項、ホームページ等でその方針を明確に示している。

二級自動車整備士の資格を有し、確かな基礎学力と幅広い教養をもち、多様な業種に対応できる人材の育成の観点から、外国人留学生試験も実施している。

自動車に興味を持ち、これからの自動車産業界をリードする意欲と情熱を燃やし続けることができるような人の入学を求めている観点から、複数の入試制度を実施している。学生の利便性を考え、指定校推薦以外はインターネット出願を取り入れている。

入学者受け入れ方針については、次のように示し、入学前の能力、基礎学力及び向上心の把握・評価は、「学生募集要項」に沿った入学試験によって行われている。

愛知工科大学自動車短期大学の入学者受け入れ方針
(アドミッション・ポリシー)

愛知工科大学自動車短期大学は、自動車に興味を持ち、これからの自動車産業界をリードする意欲と情熱を燃やし続けることのできるような人の入学を求めています。

1. 自動車整備に興味があり、自動車整備士を目指す人
2. 自動車、自動二輪車などの開発技術に興味を持つ人
3. 自動車産業において求められる知識・技術を習得したい人
4. カー・エンジニアとして社会への貢献を目指す人
5. 自動車に関する各種の資格取得を目指す人
6. 愛知工科大学自動車短期大学での修学に備え、入学まで継続して勉学する意欲のある人（入学前に勉学する範囲は、本学の一般入学試験における出題科目・範囲が望ましい。）

入学試験は、各高校から出された調査書、推薦書、志望理由書、面接、筆記試験等によって総合的に選考している。面接時には、数学の問題を課すことで、基礎学力を有する者を確認している。また、いずれの入学試験においても、入学者受け入れ方針に基づいて、適性がある入学者の選抜を行っている。

各入学試験の選抜方法は、次のとおりである。

1. 指定校推薦入学試験

入学を志願する者の適性をはかるため、基準とする評定平均値に該当し、さらに出身学校長の推薦があった者の中から、調査書、面接試験を通して総合的に選考している。

2. 公募制推薦入学試験・女子特別推薦入学試験

学修に強い意欲を持つ者を判定するため、調査書、推薦書、志望理由書、面接試験を通して総合的に選考している。

3. 自己推薦入学試験

自動車工学に対する向学心を持つ者を判定するため、調査書、自己推薦書、面接試験を通して総合的に選考している。

4. 一般入学試験・大学入試センター利用入学試験

入学者受け入れ方針に基づいた基礎学力と自動車に強い関心を持つ者を選考するため、調査書、学力試験、面接試験を通して総合的に選考している。

5. 社会人入学試験

多様な経験を持つ者の中で、自動車工学に対する向学心を持つ者を判定するため、調査書、自己推薦書、面接試験を通して総合的に選考している。

6. A0 入学試験

講義・実習とレポート作成、面接試験によって、学力だけでは伝わらない自動車に対する熱意などを含めて多面的に選考している。

7. 外国人留学生入学試験

面接試験（日本語による個人面接）、学力試験を行い、日本語能力、自動車に対する熱意などを含めて多面的に選考している。

(b) 課題

定員充足率をいかに高めるかがここ数年間の一番の課題である。近年、若者の自動車離れが顕著の中、自動車の魅力、整備士の必要性などをいかに伝えていけるかが今後の課題である。

[区分 基準Ⅱ-A-4 学習成果の査定（アセスメント）は明確である。]

■ 基準Ⅱ-A-4 の自己点検・評価

(a) 現状

学習成果の一つは、自動車整備技術の修得に集約されるため、国家資格の二級自動車整備士資格の取得がこれにあたる。従って、学習成果の評価は、自動車整備士登録試験合格率、進路（就職・進学）決定率、各種資格取得率等から行っている。

二級自動車整備士登録試験は、二級ガソリン自動車整備士資格と二級ジーゼル自動車整備士資格の2種類があり、両資格を取得することにより、上級の資格である一級自動車整備士資格の受験が可能になるため、卒業予定者には両方の資格を取得するよう指導している。過去5年間の二級ガソリン自動車整備士資格の合格率を表Ⅱ-A-10に、二級ジーゼル自動車整備士資格の合格率を表Ⅱ-A-11に、自動車整備士資格の取得状況を表Ⅱ-A-12に示す。二級ガソリン自動車整備士資格と二級ジーゼル自動車整備士資格の2種類のうち、どちらか一つを取得すれば、自動車整備士として認定されるため、本学の自動車整備士率は毎年ほぼ100%であり、国内トップレベルの取得率を維持している。

また、過去5年間の年度末（3月31日現在）の進路決定の状況を表Ⅱ-A-13に示す。進

路決定については、毎年決定率100%を目標にクラス担任、キャリアセンター職員を中心に短期大学全教職員で指導にあたっている。学生個人の職業選択の意思を尊重していることもあり、毎年数名の未決定者があるが、卒業後もキャリアセンターを通じた進路支援を行うことで、決定率100%の達成を目指している。進学者の大半は愛知工科大学への3年次編入（含：一級自動車整備士養成課程）である。

表Ⅱ-A-10 二級ガソリン自動車整備士合格率

項目\年度	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
受験者数	101	123	134	152	144
合格者数	99	119	122	148	141
合格率	98.0 %	96.7 %	91.0%	97.4%	97.9%

表Ⅱ-A-11 二級ジーゼル自動車整備士合格率

項目\年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
受験者数	102	123	133	152	148
合格者数	100	122	128	148	140
合格率	98.0 %	99.2%	96.2%	97.4%	94.6%

表Ⅱ-A-12 二級自動車整備士取得率

項目\年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
整備士率	100%	99.2%	100%	100%	98.6%

表Ⅱ-A-13 過去5年間の年度末（3月31日現在）の進路決定の状況

項目\年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
卒業 者 数	106	126	138	159	150
就 職 者 数	78	102	109	118	120
進 学 者 数	24	22	25	39	28
未 決 定 者 数	4	2	4	2	2
進 路 決 定 率	96.2%	98.4%	97.1%	98.7%	98.7%

(b) 課題

日進月歩の自動車技術に対応した教育を実施するためには、教員のスキルアップと実習教材等の充実が不可欠である。そのため、学内外で実施される技術講習会には、積極的に参加し、教員のスキルアップを図っていく必要がある。また、最新の実習教材を計画的に導入していく必要がある。さらには、2年後期に開講している「OMS（ワン・モア・セミナー）」において、学生の整備技術のスキルアップとプラスワンの技術を修得させているが、自動車業界のニーズに合わせたメニューも検討する必要がある。

[区分 基準Ⅱ-A-5 学生の卒業後評価への取り組みを行っている。]

■ 基準Ⅱ-A-5 の自己点検・評価

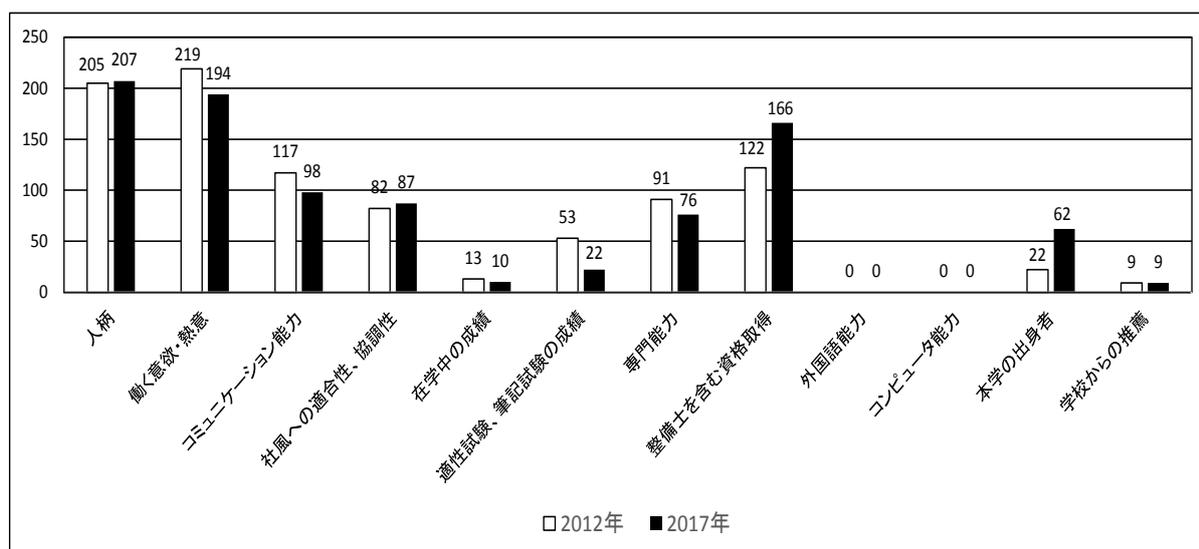
(a) 現状

平成 24 年度から平成 28 年度までの 5 年間の採用企業 125 社を対象に、「卒業生の就労実態等に関する調査」を平成 29 年 4 月に実施し、67 社（回収率 54%）から回答を得ている。

本学の学生を採用した理由について、上位 5 つを選び「1 位から 5 位まで」順位が付記されたものに対して、高い順位から「5 点・4 点・3 点・2 点・1 点」のポイントを与えて集計した。その結果を表Ⅱ-A-14 に示す。

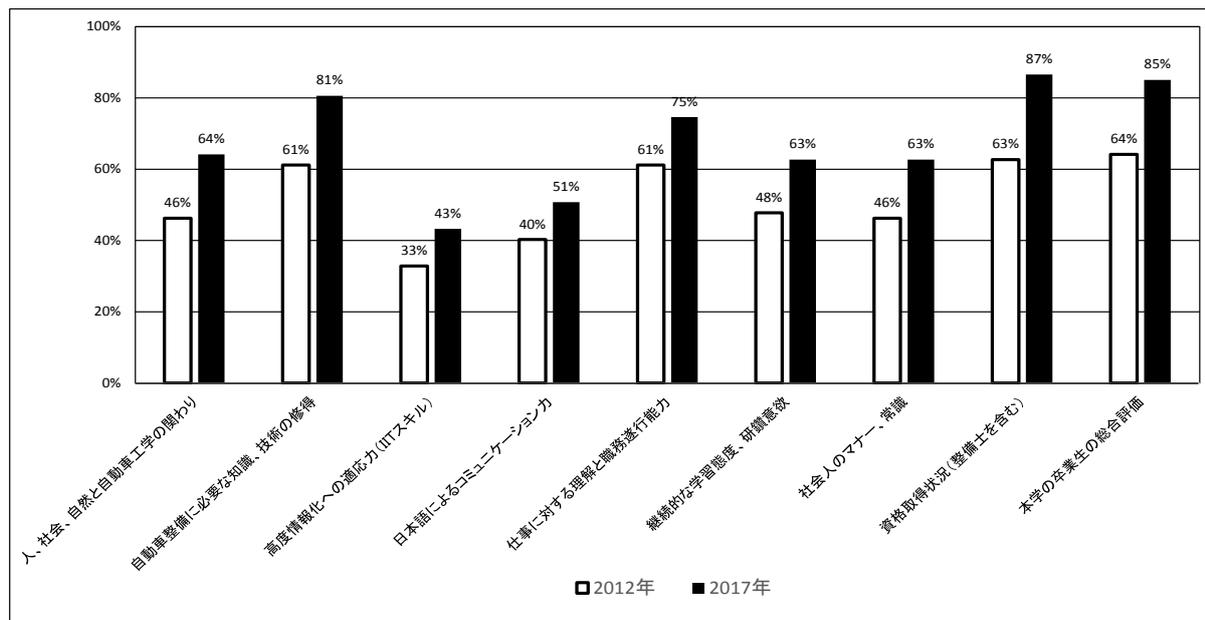
「人柄」、「働く意欲・熱意」、「資格取得」が上位を占め、「適性・筆記試験の成績」「在学中の成績」はウエイトが低く、面接による人物重視の採用試験が行われていることが伺える。「本学の出身者」であることは前回調査より増えており本学のブランド力が年々高まっていることが想像できる。

表Ⅱ-A-14 学生を採用した理由



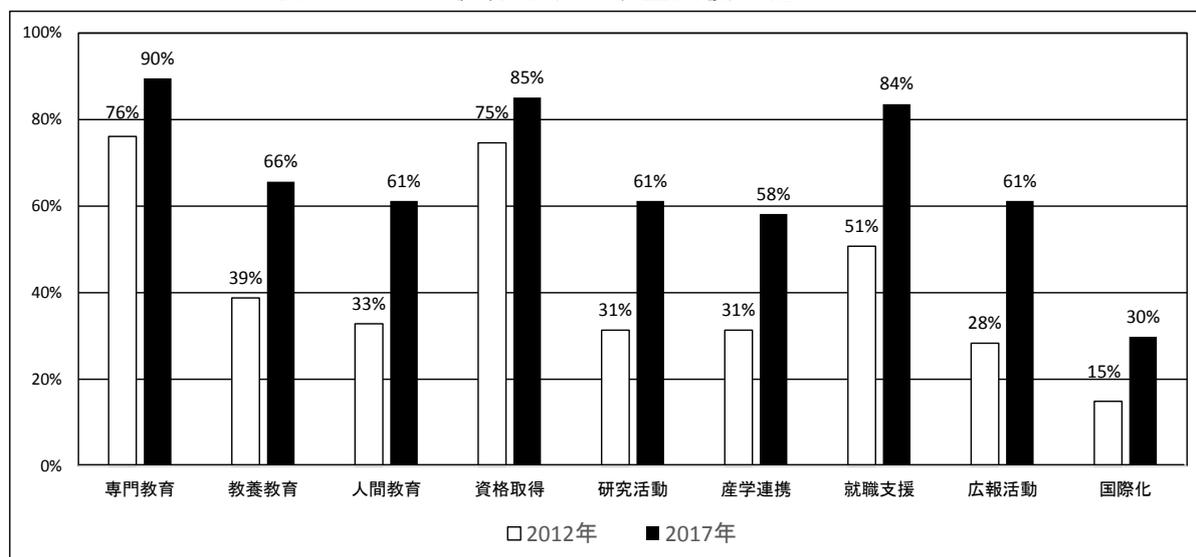
また、本学卒業生に対する満足度の評価については、「満足」「どちらかといえば満足」「普通」「どちらかといえば不満」「不満」の 5 段階で評価してもらい、「満足」及び「どちらかといえば満足」の合計を比率で表した。その結果を表Ⅱ-A-15 に示す。すべての項目において前回調査を上回り、「総合評価」は 85% を得た。「資格取得」「整備知識・技術の修得」「仕事理解と職務遂行能力」で高得点が得られている。一方で、「高度情報化への適応力」「日本語によるコミュニケーション力」「社会人のマナー・常識」「継続的な学習態度、研鑽意欲」の向上が今後の課題である。

表Ⅱ-A-15 卒業生に対する満足度



さらに、本学の教育活動・学生支援に抱くイメージを、「優れている」「どちらかといえば優れている」「普通」「どちらかといえば劣る」「劣る」の5段階で評価してもらい、「優れている」及び「どちらかといえば優れている」の合計を比率で表した。その結果を表Ⅱ-A-16に示す。すべての項目において前回調査を上回った。「専門教育」「資格取得」「就職支援」で評価が高い。近年の留学生の入学など「国際化」については前回より向上したが依然低い。

表Ⅱ-A-16 教育活動・学生支援に抱くイメージ



また、採用者側ではなく、卒業後3年経過した卒業生による本学在学中の学習内容や学生支援に対する評価についてのアンケートは、平成23年度から実施し始めたが、アンケートの回収率が極めて低く、データとして活用できない状況である。

(b) 課題

卒業生による本学在学中の学習内容や学生支援についての評価アンケートの回収率改善については、在学中に、卒業後このようなアンケートを実施する旨を説明し、母校を良くするために協力がいただけるよう啓蒙に努める必要がある。

■ テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程の改善計画

学位授与の方針にあわせて、カリキュラムを編成し取り組んでいるが、年々入学生の学力格差が大きくなっているため、基礎教育科目群のさらなる検討を行い、専門科目群については、進化する自動車技術に対応するために、授業内容の精査やさらなる見直しを定期的に行う計画である。

ここ数年間の課題であった定員充足については、達成できておらず、入学者受け入れ方針に準拠した入学試験制度を見直し、自動車整備士に興味を示す留学生の受入れについても対応していく必要がある。

[テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援]

[区分 基準Ⅱ-B-1 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。]

■ 基準Ⅱ-B-1 の自己点検・評価

(a) 現状

成績評価については学則第21条、試験及び成績評価に関する規程第13条に定めている。

試験及び成績評価に関する規程

(成績区分)

第13条 成績の評価は次のとおりとし、可以上を合格とする。

1. 秀…100点～90点
2. 優… 89点～80点
3. 良… 79点～70点
4. 可… 69点～60点
5. 不可… 59点以下

また、シラバスには各科目の成績評価方法が記載されており、試験結果以外にも日常の授業態度なども成績評価に反映させることで、下記の学位授与方針にも対応している。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

愛知工科大学自動車短期大学は、次のような到達目標を掲げ卒業の認定及び学位記を授与します。

1. 自動車整備士として活躍するために必要な知識・技術を修得している。
2. 健全で中正な社会観と堅実な人生観を持った、周囲から愛され、信頼される素養を身につけている。
3. 円滑な人間関係が築けるコミュニケーション能力を有し、社会人として地域社会に貢献できる。

教員は単位取得状況、二級自動車整備士等の各種資格取得状況、就職状況について学科会議の資料等で周知されており、適宜学習成果を適切に把握している。また、入学時より機会あるごとに授業や行事で学生と接して、挨拶や言葉遣い、生活態度等の人間的な成長を見ており、日常生活などの状況から教育目的・目標の達成状況を把握・評価している。

各学期のオリエンテーションが学生に対する履修説明の機会となっている。日常的

にはクラス担任が中心となり、すべての教員がそれぞれの立場で個々の学生に対して履修及び卒業に至る指導をきめ細かく行っている。

各学期末に「学生による授業評価」を実施しているが、質問項目は「あなた（学生）自身のことについて」、「授業担当者について」、「授業全体について」の3部構成になっている。

平成29年度授業評価の質問内容と授業評価アンケート用紙を表Ⅱ-B-1、2に示す。

表Ⅱ-B-1 平成29年度授業評価質問内容

区分	No.	質問項目
あなた自身のことについて	1	あなたはこの授業にどの程度出席しましたか
	2	あなたはこの授業のためにどのくらい予習・復習しましたか
	3	あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか
	4	あなたはこの授業内容をどの程度理解できましたか
	5	あなたはこの授業によって自分の能力（考え方・知識・技術）を伸ばすことができたと思いますか
授業担当者について	6	授業内容は理解しやすいように配慮されていましたか
	7	板書・パワーポイント・DVDなどの使い方は適切でしたか
	8	学生の質問に対する対応は適切でしたか
	9	教え方（話し方、声の大きさ等）は分かりやすかったですか
	10	教員の熱意は感じられましたか
授業全体について	11	この授業はあなたの学習意欲を高める内容でしたか
	12	授業はよく準備されていましたか
	13	授業環境は学習に適した状態に保たれていましたか
	14	この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか
	15	この授業を受けて、どの程度満足していますか
自由記述		

授業評価の集計結果と回答用紙は学期ごとに学務課より担当教員に配付され、教員見解を記入後返却することになっている。授業評価集計結果の例を表Ⅱ-B-3 に示す。

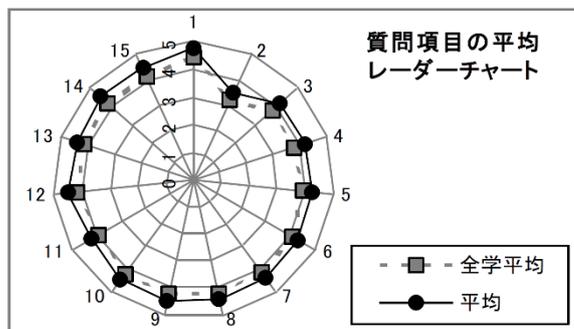
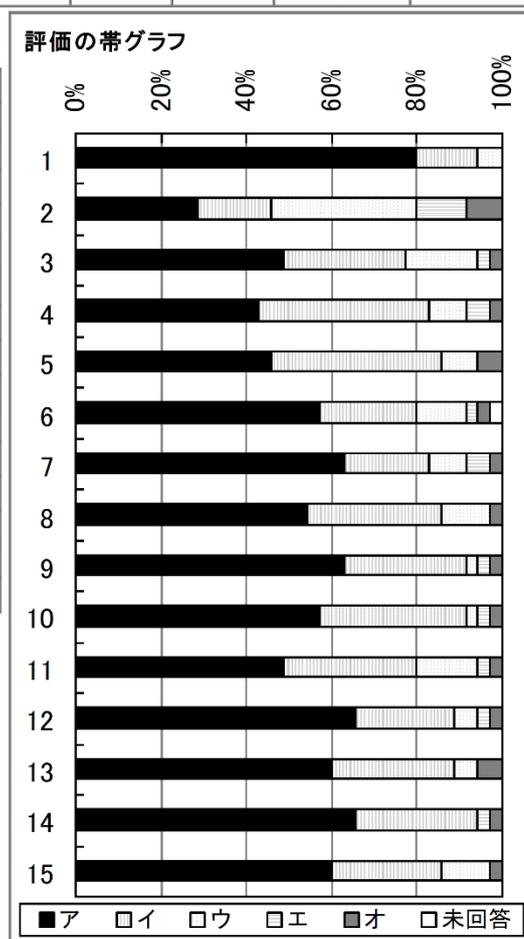
表Ⅱ-B-3 授業評価集計結果の例

平成29年度前期「授業評価」に関するアンケート集計

学科	自動車工業学科	職名	ooo	開講期	1年前期	受講者数	39
科目名	ooooo		必修*	曜日	o	回答数	35
教員名	ooo oo			時限	o	回答率	90%

回答数の集計結果 ※平均はア:5点、イ:4点～未答:0点として計算

No	質問キー	ア	イ	ウ	エ	オ	未答	平均	全学平均
学生自身の評価	1 出席率	28	5	2	0	0	0	4.74	4.44
	2 予習復習	10	6	12	4	3	0	3.46	3.11
	3 授業への取り組み	17	10	6	1	1	0	4.17	3.80
	4 理解度	15	14	3	2	1	0	4.14	3.81
	5 自己向上	16	14	3	0	2	0	4.20	3.91
担当者の評価	6 分かりやすさ	20	8	4	1	1	1	4.32	4.08
	7 板書・パワーポイント等	22	7	3	2	1	0	4.34	4.11
	8 質問対応	19	11	4	0	1	0	4.34	4.16
	9 教え方	22	10	1	1	1	0	4.46	4.15
授業全体の評価	10 教員熱意	20	12	1	1	1	0	4.40	4.18
	11 学習意欲の向上	17	11	5	1	1	0	4.20	3.93
	12 授業準備	23	8	2	1	1	0	4.46	4.16
	13 授業環境	21	10	2	0	2	0	4.37	4.08
	14 よい授業か	23	10	0	1	1	0	4.51	4.08
	15 満足度	21	9	4	0	1	0	4.40	4.02



学生による自由記述のまとめ

ooooo

「学生による授業評価」結果に対する教員見解

oooooooooooo

集計結果を通して授業評価を客観的かつ効率よく知ることができ、回答用紙の自由記述欄からは個々の学生の授業に対する意見や感想も分かり、次年度以降の授業改善のために活用している。

FD・SD委員会が中心となったFD活動の一つとして、平成25年度から関連した科目の連携を深め、より効果的な学習成果を得ることを目的として、下記の5つの専門分野ごとの分科会活動を行っている。

専門分野 エンジン系、シャシ系、電装系、点検整備系、基礎教育系

また、愛知工科大学工学部との共同も含めて平成27～29年度は、表Ⅱ-B-4のFD研修会を開催した。

表Ⅱ-B-4 FD研修会の概要

年度	開催日	演題	講師
平成27年度	平成27年 4月21日	ハラスメント、その理解は大丈夫ですか？～ハラスメント防止のためにできること、すべきこと～	(株)ハーモニックリエイション 白石恵美子
	平成27年 6月19日	高校が愛知工科大学に求めるもの	前蒲郡東高等学校長 竹本禎久
	平成27年 7月14日	Toyota WayとMCT経営	元トヨタ自動車製造トルコ 社長・曙ブレーキ工業専務 小林浩治
	平成27年 8月28日	主体的な学びへ導くための学びの転換について	(株)ベネッセi-キャリア 山本裕三
	平成27年 9月29日	事例・判例で考えるキャンパスハラスメント	(株)ハーモニックリエイション 白石恵美子
	平成28年 2月25日	動画教材作成研修	愛知工科大学自動車短期大学 川村貴裕
	平成28年 3月3日		
	平成28年 3月18日	大学教育を再考する～イマドキから見えるカタチ～	愛知工科大学 渡部吉規
		「教育から学習へ」のパラダイム・チェンジとFD～<Unlearning>を焦点に～	愛知工科大学 高橋義則
		持続可能な初年度教育のあり方をさぐる	愛知工科大学 村上 新
		学ぶきっかけをつかめない学生にどう向き合うか？～教養教育の挑戦～	愛知工科大学自動車短期大学 森 勝行

年度	開催日	演題	講師
平成28年度	平成28年 4月13日	ハラスメントにならない指導とは～事例を通して考える～	名古屋大学ハラスメント相談センター 葛文綺
	平成28年 7月26日	IoTを活用したモノづくり	(株)日立製作所 桑木博司
	平成28年 8月30日	2016年度学年別基礎力調査の結果報告 学生意識調査から見る愛知工科大学生の実態と成長	(株)ベネッセi-キャリア 神崎則男
平成29年度	平成29年 6月8日	UDトラックス講習会参加報告	愛知工科大学自動車短期大学 加藤寛
	平成29年 6月27日	大学の教育力を発信する～教養教育改革と現代社会～	愛知工科大学 高橋義則
		イマドキの大学教育と「よい学び」	愛知工科大学 村上新
		理系基礎教育のデザインをめぐって	愛知工科大学 渡部吉規
		理系基礎教育のデザインをめぐって(金沢工大について)	愛知工科大学自動車短期大学 森勝行
		自大学の文脈を踏まえたFDの企画・運営	愛知工科大学 舘山武史
		学部ゼミナールでいかに学習成果を高めるか	愛知工科大学 水谷聡志
	平成29年 7月6日	二級自動車シャシ改訂に伴う変更点等について	愛知工科大学自動車短期大学 鈴木規文
	平成29年 7月18日	ビジネス変革を加速するIoTソリューション	富士通(株) 須賀高明
	平成29年 8月31日	2017年度生学年別基礎力調査の結果報告(学生意識調査から見る愛知工科大学生の実態と成長)	(株)ベネッセi-キャリア 世登典子

平成29年度には教育・研究内容及び教育方法の改善、そして個人の能力開発及び組織間の連携を推進し、組織的な職能開発に取り組むことを目的としてFD委員会をFD・SD委員会に改め、委員会が中心となりFD・SDを推進するための活動を行っている。

事務職員は単位取得状況や二級自動車整備士等の各種資格試験の結果について、各種会議資料等で周知されており、学習成果を認識している。また、所属部署を問わず、窓口での対応や日常生活において入学時から学生と接しており、挨拶や言葉遣い、生活態度等の人間的な成長を通して学習成果を認識している。

所属部署の職務から学習成果への係わりが大きい部署は、学務課とキャリア支援課であり、下記の通り学習成果の獲得に向けて貢献している。

◆学務課

成績の管理、履修等の相談、教育懇談会の開催、課外活動の支援、
奨学金の相談、寮生の生活指導など

◆キャリア支援課

就職支援、各種資格取得支援など

SD活動は、愛知県私大教務研究会、私立短期大学協会等の各種研修（表Ⅲ-A-7）に積極的に参加することで職務の充実を図っている。また、表Ⅱ-B-5に示すように学園本部主催の教職員研修会にも参加し、学生支援のための各職務のスキルアップを目指している。

表Ⅱ-B-5 教職員研修会の概要（学園本部主催）

年度	開催日	タイトル	講師
平成27年度	平成27年 12月24日	大学・短大・専門課程の授業改善	愛知工科大学 大西、田宮
		大学・短大・専門課程の生活指導	電波学園 野村、竹下
		ビジネス文書研修	(有)LIBRA
		管理監督者研修	(株)リクルートマーケティング パートナーズ
	平成27年 12月24、 25日	クラス運営手法	TEAM-VISION
		就職指導	(有)LIBRA
	平成27年 12月25日	アクティブラーニング	愛知工科大学 杉浦、高橋、村上
		固定資産の会計処理と管理方法	(株)シティアスコム 電波学園 松山
		健康づくり体感	スポーツクラブ アクトス
		いじめの予防と対策	社会福祉法人愛知いのちの電話協会
		ビジネスマナー研修	(有)LIBRA
		広報研修	(株)リクルートマーケティング パートナーズ
平成28年度	平成28年 12月26日	大学・短大・専門課程の学生指導	電波学園
		コミュニケーション	(有)LIBRA
		管理監督者研修	(株)リクルートマーケティング パートナーズ
	平成28年 12月26、 27日	クラス運営手法	TEAM-VISION
		事務職員対象研修	(株)インソース

年度	開催日	タイトル	講師
平成28年度	平成28年 12月27日	アクティブラーニング	電波学園
		学生・生徒のためのキャリア教育	第一生命
		発達障害の理解とその対応	日本経営協会
		個人情報保護	㈱インソース
		クレーム対応	(有)LIBRA
		セカンドライフと年金	日本生命
		広報研修	㈱リクルートマーケティングパートナーズ
平成29年度	平成29年 12月26日	ビジネス文書（WordとExcelの活用）	電波学園 朝倉奈美、村瀬聖治
		クラス運営手法	TEAM-VISION
		コミュニケーション	(有)LIBRA
		英会話	電波学園 坂口大介、マクミランミッチェル、石田詩織
		救急法	電波学園 齊藤隆司、吉川かな子
		保護者クレーム	㈱インソース
		コンプライアンス研修～個人情報保護、情報セキュリティ、ソーシャルメディアのリスクを知る	㈱インソース
		健康づくり	スポーツクラブ アクトス
		強いブランドの作り方	静岡県立大学 岩崎邦彦
	平成29年 12月26、 27日	ライフプラン	日本生命
	平成29年 12月27日	学園理念継承研修	将来構想委員、リクルート
		Access（初級編）	電波学園 山田栄二、渡邊学
		SNSネイティブ世代の特性理解とコミュニケーション	日本経営協会
		大規模災害対応	NPO法人減災教育普及協会
		ハラスメント防止	㈱インソース
分かりやすい説明の仕方		㈱インソース	

図書館からの情報提供は、図書館入口に掲示板を設けて、掲示のレイアウトに工夫を凝らして新刊書籍の表紙を掲示し、興味・関心を喚起している。

本学では、自動車工学実習のテーマごとにレポート課題を課している。課題は教科書の内容だけに留まらず、多岐に亘って考察する必要があるため、図書館の活用を促している。

また、自動車整備に関わる各自動車メーカーの整備要領書を図書館に配備することで、個々が所有する自動車の整備情報を補うことができるようになっている。

本学の選択科目にパソコン演習Ⅰ、パソコン演習Ⅱがある。この教科は、個人のパソコンを使用するのではなく、学内のコンピュータールームまたはLL教室のパソコンを利用している。その他として、2次元CADソフトウェアを利用したCADシステムの授業も開講し、コンピュータの利用を促進している。

本学では、自動車整備士資格取得のためにeラーニングを活用している。このeラーニングシステムは、本学独自のシステムであり、「コーカくん」(図Ⅱ-B-1)の愛称で親しまれている。「コーカくん」は、パソコン、携帯電話(スマートフォン含む)に対応し、過去に出題された自動車整備士登録試験問題を何度も繰り返し反復することができるシステムである。また、問題だけに留まらず、教員による解説も備わっているために、多くの学生が利用している。

「コーカくん」開設当初は自動車整備士登録試験問題サイトのみであったが、本学が推奨しているその他の資格取得にも対応できるように低圧電気試験、中古車査定士試験、ガス溶接試験の3講座を追加し、随時改良を続けて今日に至っている。「コーカくん」の主な取り組みを表Ⅱ-B-6に示す。



図Ⅱ-B-1
コーカくんのトップ画面

表Ⅱ-B-6 「コーカくん」の変遷

平成 21 年度	<p>学生に最も身近で手軽なモバイルコンピュータとして使用されているケータイ電話を利用し、いつでもどこでも気軽に自動車整備士試験の学習をさせるために平成 21 年に整備士試験問題サイト(ケータイサイト)「コーカくん」を作成し学生に公開した。</p> <p>主な機能</p> <p>①年月により問題を検索し解答する機能</p> <p>②問題を分類別に検索して解答する機能</p>
----------	--

平成 22 年度	<p>①前年度は問題に対する解説がなかったために、より理解度を深めるため問題解答後解説が表示される機能を追加した。そのため学科の教員の協力を得て問題解説を作成し公開した。</p> <p>②学生へ連絡事項を明示する連絡掲示板を作成した。</p>
平成 23 年度	<p>①自動車整備士試験問題サイトのシステムを応用して他の資格を学習できるシステムを作成しコーカくんを総合資格サイトとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低圧電気試験問題サイト ・中古車査定士試験問題サイト ・ガス溶接試験問題サイト ・危険物乙 4 試験問題サイト（未公開） <p>②スマートフォンの急激な普及に対しスマートフォンでもコーカくんが便利に行えるようにコーカくんスマホサイトの作成を行った。</p>
平成 24 年度	<p>①平成 23 年度に作成した「低圧電気試験問題サイト」「ガス溶接試験問題サイト」に問題を入力し学生に公開した。</p> <p>②PC にて学習を行えるようにコーカくん学生用 PC サイト（自動車整備士試験問題サイトのみ）を作成し公開した。PC 独自の機能としては問題を 40 問続けて行い採点できる「テスト」機能を追加した。</p> <p>③教員用のためのサイトを作成した。主な機能は問題の検索、学生の学習履歴の閲覧である。</p> <p>④コーカくん管理者用のサイトを作成した。主な機能は問題の管理と学生データの管理である。</p>
平成 25 年度	<p>①理解度を高めるために、難易度の高い問題に対しては解説動画を作成し学生に公開した。問題解答後に解説動画を閲覧できる仕組みとなっている。</p>
平成 26 年度	<p>①平成 23 年度に作成した「中古車査定士試験問題サイト」に問題を入力し学生に公開した。</p> <p>②解答した問題に対して「理解度」を記録する機能を追加した。（自動車整備士試験問題サイト）問題を検索する時などに活用できる。</p>
平成 27 年度	<p>①理解度の低い問題を選んで繰り返し学習できるように理解度検索の機能を追加した。（自動車整備士試験問題サイト）</p>
平成 28 年度	<p>①関連用語を入力することで目的の問題を抽出できるキーワード検索の機能を追加した。（自動車整備士試験問題サイト）</p>
平成 29 年度	<p>①スマホサイトと PC サイトを行き来できる機能を追加した。（自動車整備士試験問題サイト）</p> <p>②教員が学生情報を把握するために、テスト履歴を学生名で表示できるようにした。また、その日に行ったテスト結果を太字で確認できるように改善した。</p>

教室及び実習室には、専用のパソコンとプロジェクターが備わっている。そのために、本学ではパワーポイントの作成方法などの教員の技術向上のためFD活動を行っている。最近では、タブレット端末の普及もあり、教員が自らタブレットを利用した授業を展開している。

(b) 課題

学生による授業評価は次年度以降の授業改善のために有効に活用されているが、教職員、学生への開示は現在のところ行われていない。授業評価の結果を他の教員や学生に開示することを含めて授業評価の在り方を検討する必要がある。

自動車工学実習は、テーマごとにレポート課題を課しており、図書館の利用を促しているが図書館を利用する学生は少ない。ネット時代における有効な図書館の利用方法を検討する必要がある。

[区分 基準Ⅱ-B-2 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に
行っている。]

■ 基準Ⅱ-B-2 の自己点検・評価

(a) 現状

各学期初めのオリエンテーションにおいて、学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択など、学修全般について説明を実施している。

学習支援のための印刷物として、教育目標・方針、履修方法、授業概要(シラバス)、学生生活全般にわたる支援事項等が記載されている学生便覧を発行している。なお、学生便覧はホームページでも閲覧できるようにしている。

入学試験の面接の中で数学の口頭試問を行い、学習支援が必要であると判断した者に対しては入学前に数学の通信添削指導を行っている。入学時に実施する数学と工学基礎の素養試験により「数学Ⅰ」と「工学基礎」の2科目は習熟度別のグループ編成とし、各々のレベルに適した授業内容としている。また、「数学Ⅰ」では4回の習熟度確認のための臨時試験を実施し、習熟度の低い3グループでは成績不振者に補習授業を行い基礎学力の向上を図っている。なお、「数学Ⅰ」と「工学基礎」は科目担当者が中心となり3段階の難易度別の練習問題を取り入れた独自のテキストを作成し、出身高校での学習内容の違いや個々の習熟度に対応できるように配慮している。

クラス担任制度及びオフィスアワーにより学生個々の修学上の悩みなどの相談にのり、生活・学習・進路指導をきめ細かく行っている。また、学生相談室には臨床心理士が常駐し、学習面以外の相談にも対応し、心のサポートを行っている。

自動車工学実習関係については、経験ある専門担当者が対応し、実習中あるいは授業後に指導を受けられるように対応している。全体的には、授業内容を教材や進度で段階的に修得できるように工夫し、学生の反応を考慮しながら、それぞれの学生レベルに応じた対応ができるように配慮している。

4年制大学編入を目指す学生に対しては、「英語Ⅱ」「数学Ⅱ」「物理学」「材料力学」「熱力学」「流体工学」等、4年制大学工学部への編入に役立つ教養科目と機械系

科目を選択科目として設定している。

留学生対象の入学試験を平成25年度より実施しているが、平成29年度までの入学者数を表Ⅱ-B-7に示す。留学生への学習面、生活面での対応は担任、学務課等で行っているのが現状で、留学生を支援するための特別な組織はない。なお、平成26年度より短期留学生の派遣・受入を検討するための国際交流委員会を愛知工科大学と共同で開催している。

表Ⅱ-B-7 留学生の入学者数

年度	留学生の出身国名	入学者数
平成26年度	ネパール	1
平成27年度	ベトナム	2
	中国	1
平成28年度	モンゴル	1
	中国	1
平成29年度	インドネシア	1
	ベトナム	1
	中国	1

授業科目の満足度は半期ごとの授業評価アンケートで調査しているが、2年間全体の「満足度調査」は卒業時に実施している。平成29年度満足度調査の質問内容と集計結果を表Ⅱ-B-8、9に示す。また、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた質問内容別満足度を平成29年度までの5年間集計した結果を表Ⅱ-B-10及び図Ⅱ-B-2に示す。学習支援に直接関係する質問は「③カリキュラムはどうでしたか、④学習指導はどうでしたか、⑤資格取得指導はどうでしたか、⑦自動車の実習施設はどうでしたか」であるが、いずれも満足度が8割以上を占めている点から学習支援に対する評価は概ね良いものと判断している。

また、別の観点から、平成28年度より卒業式に参加していただいた保護者に対して、本学に対する満足度調査を実施している。平成28年度、平成29年度の2年間の意見であるが、「大変満足している」「満足」が8割以上を占めていることから、保護者からの評価としても概ね良いものと受けとめている。アンケート内容については表Ⅱ-B-11に、結果については図Ⅱ-B-3に示す。今後もこの調査を続け、教育活動、学生支援に反映していきたいと考えている。

表Ⅱ-B-8 平成29年度満足度アンケート質問内容

質問内容	回答
①2年間の学生生活はどうでしたか。	1 満足
②本学に入学してどうでしたか。	
③カリキュラムはどうでしたか。 (カリキュラムとは、2年間で習う科目、および科目配列)	2 どちらかといえば満足
④学習指導はどうでしたか。	3 どちらかといえば不満
⑤資格取得指導はどうでしたか。	
⑥進路(就職・進学)指導はどうでしたか。	4 不満
⑦自動車の実習施設はどうでしたか。	
⑧図書館はどうでしたか。	5 該当なし
⑨学生食堂・売店はどうでしたか。	
⑩その他の施設設備はどうでしたか。	
⑪各窓口業務の教職員の指導姿勢や態度はどうでしたか。	
⑫課外活動(クラブ・同好会)の支援はどうでしたか。	

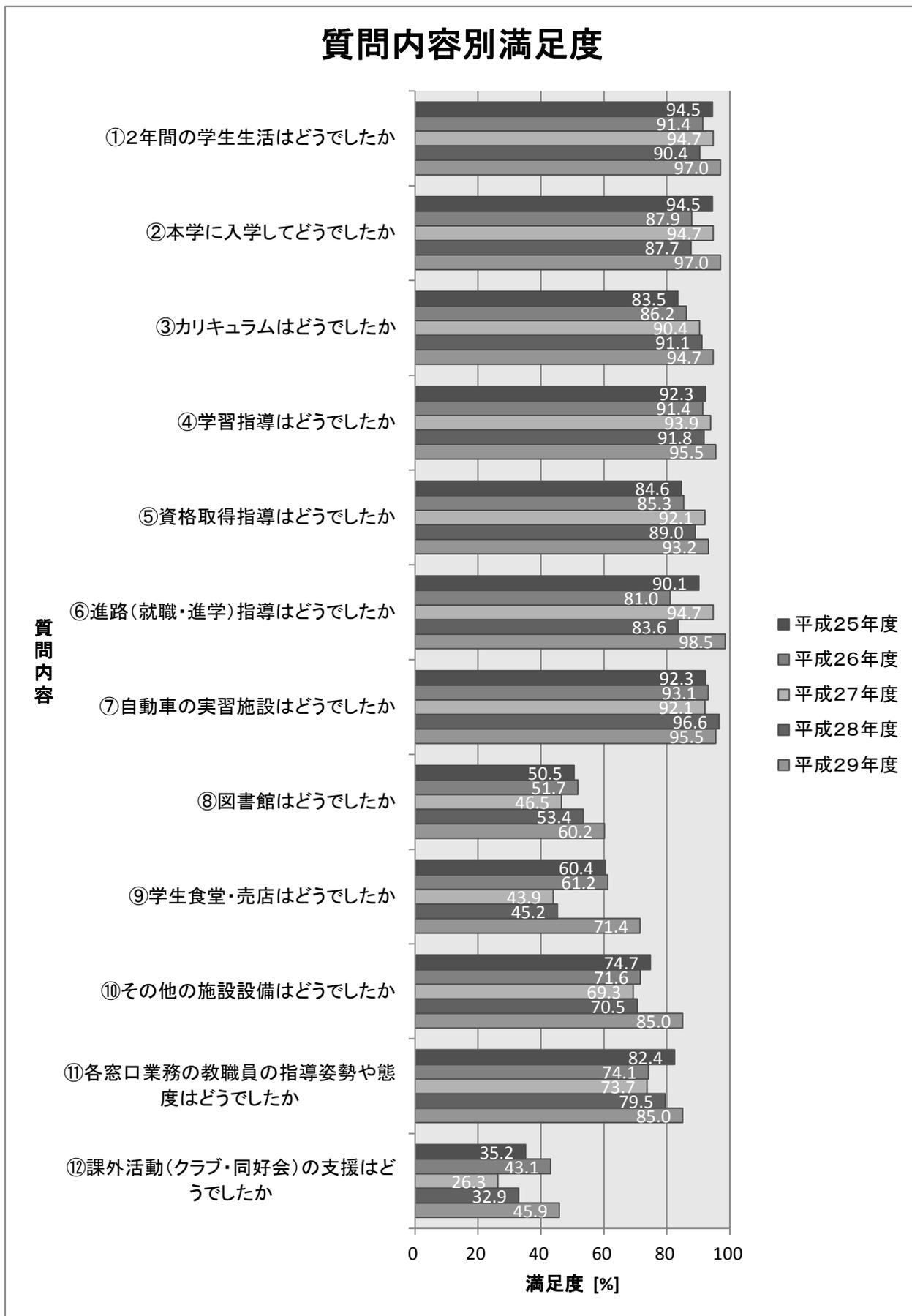
表Ⅱ-B-9 平成29年度満足度アンケート調査結果

質問 回答	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
1 [%]	53.4	56.4	44.4	51.1	57.1	61.7	70.7	27.8	30.8	36.1	39.8	22.6
2 [%]	43.6	40.6	50.4	44.4	36.1	36.8	24.8	32.3	40.6	48.9	45.1	23.3
3 [%]	0.8	0.8	3.8	3.8	3.8	0.0	3.0	2.3	15.8	6.8	6.8	3.0
4 [%]	2.3	2.3	1.5	0.8	0.8	1.5	0.8	2.3	12.0	2.3	3.0	3.8
5 [%]	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.8	35.3	0.8	6.0	5.3	47.4
空白 [%]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

表Ⅱ-B-10 質問内容別満足度（満足＋どちらかといえば満足）

質問内容	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
①2年間の学生生活はどうでしたか	94.5%	91.4%	94.7%	90.4%	97.0%
②本学に入学してどうでしたか	94.5%	87.9%	94.7%	87.7%	97.0%
③カリキュラムはどうでしたか	83.5%	86.2%	90.4%	91.1%	94.7%
④学習指導はどうでしたか	92.3%	91.4%	93.9%	91.8%	95.5%
⑤資格取得指導はどうでしたか	84.6%	85.3%	92.1%	89.0%	93.2%
⑥進路（就職・進学）指導はどうでしたか	90.1%	81.0%	94.7%	83.6%	98.5%
⑦自動車の実習施設はどうでしたか	92.3%	93.1%	92.1%	96.6%	95.5%
⑧図書館はどうでしたか	50.5%	51.7%	46.5%	53.4%	60.2%
⑨学生食堂・売店はどうでしたか	60.4%	61.2%	43.9%	45.2%	71.4%
⑩その他の施設設備はどうでしたか	74.7%	71.6%	69.3%	70.5%	85.0%
⑪各窓口業務の教職員の指導姿勢や態度はどうでしたか	82.4%	74.1%	73.7%	79.5%	85.0%
⑫課外活動（クラブ・同好会）の支援はどうでしたか	35.2%	43.1%	26.3%	32.9%	45.9%

質問内容別満足度



図Ⅱ-B-2 質問内容別満足度 (満足+どちらかといえば満足)

表Ⅱ-B-11 保護者アンケート



平成 年 月 日

卒業式における保護者アンケート

ご卒業おめでとうございます。お子さまにおかれましては本学における教育を修了され、卒業証書を手になさる日が始まりましたことを心よりお祝い申し上げます。

本学では、保護者の皆様からのご意見を頂き、今後の教育活動や学生募集活動に反映したく考えております。ご協力のほど、よろしくお願いたします。



問1 お子さまが卒業される学科は

- | | | | |
|---------------|--------------|-----------------|-------------|
| 愛知工科大学 | 1. 機械システム工学科 | 2. 電子制御・ロボット工学科 | 3. 情報メディア学科 |
| 愛知工科大学自動車短期大学 | 4. 自動車工業学科 | | |
| 愛知工科大学大学院 | 5. 前期課程 | 6. 後期課程 | |

問2 お子さまが卒業されるにあたり、本学への満足度をお答えください

①教育に対する満足度は

5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない

②設備に対する満足度は

5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない

③資格取得、技術修得に対する満足度は

5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない

④卒業後の進路（就職先や進学先）についての満足度は

5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない

⑤本学へ進学させたことに対して

5. とてもよかった 4. よかった 3. どちらともいえない 2. あまりよくなかった 1. よくなかった 0. わからない

問3 お子さまや保護者に対する教職員のサポートについての満足度をお答えください

①入学前の教職員の対応（入学相談、オープンキャンパス、入試対応など）に対する満足度は

5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない

②在学中の教員の対応（学生への対応や保護者会などの対応）に対する満足度は

5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない

③在学中の事務職員の対応（授業料納付・成績の案内・奨学金対応など）に対する満足度は

5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない

④キャリア支援（就職指導・進学指導）に対する満足度は

5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない

自由記述欄（お気づきになられました本学の良い点、改善すべき点、ご感想などをいただけたら幸いです）

問4 ご記入いただきましたのは

1. 父親 2. 母親 3. 祖父母 4. その他（ ）

卒業されるお子さまのお名前（任意）

（お名前をご記入いただける方はお願いいたします） _____

保護者アンケートによる満足度調査結果

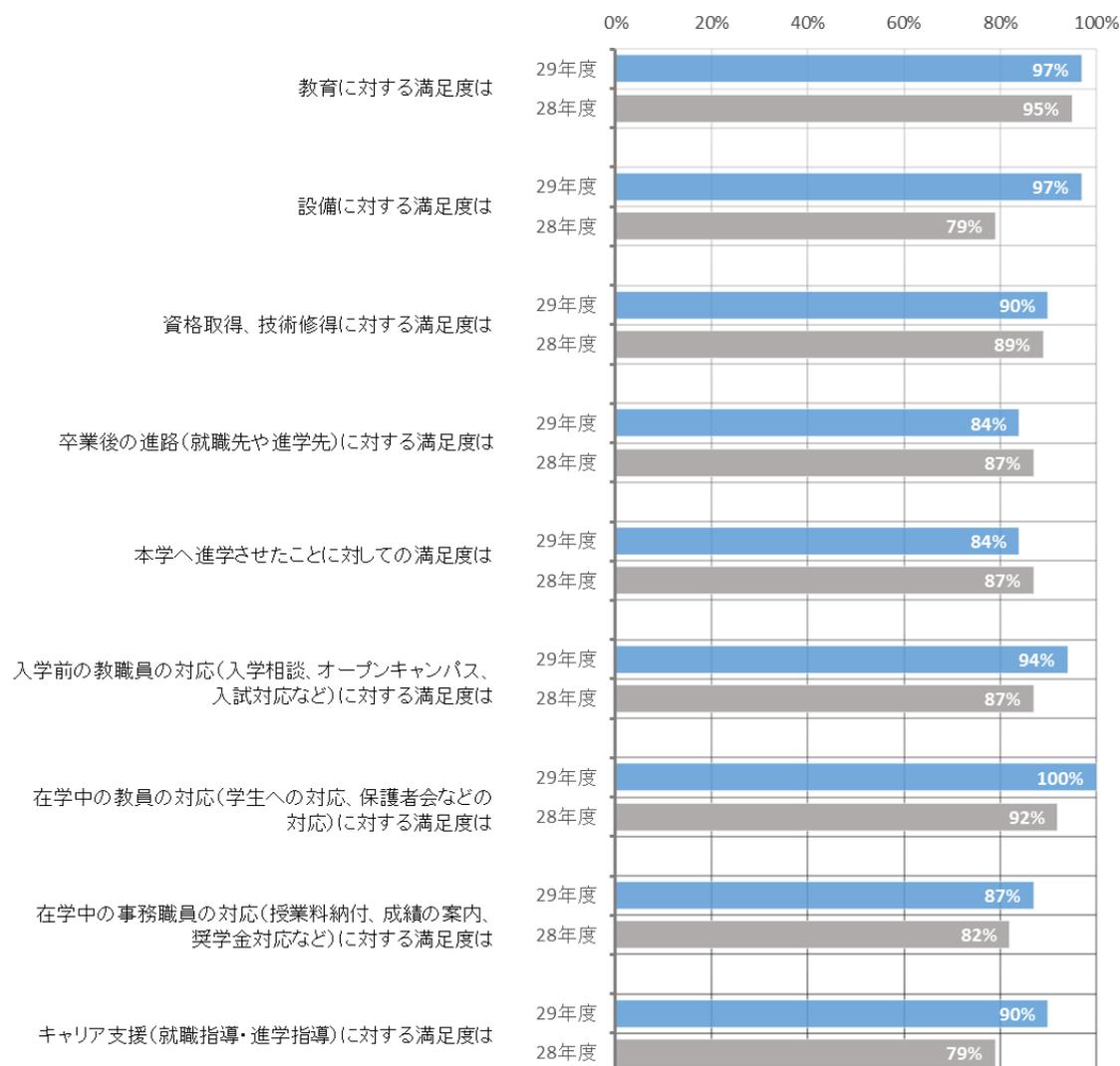


図 II-B-3 質問内容別満足度 (満足+たいへん満足)

(b) 課題

「数学Ⅰ」は平成25年度より、「工学基礎」は平成26年度から練習問題を3段階の難易度に分けたテキストを作成し、習熟度別授業に対応できるものにしたが、テキストの内容をさらに充実させるために毎年改訂して、習熟度別授業により適したものにする必要がある。

これまでも国内在住の外国籍の学生は存在したが、留学生入学試験で海外から直接留学生を受け入れる状況になったことで、留学生への学習面、生活面での対応を向上させる組織的な取り組みが必要である。

[区分 基準Ⅱ-B-3 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。]

■ 基準Ⅱ-B-3 の自己点検・評価

(a) 現状

学生の生活支援のための教職員の組織は、学生生活指導委員会の教員（学生指導、厚生補導、就職支援、奨学金を含む生活支援）と学務課職員で構成している。

また、クラブ・同好会活動、ボランティア活動、校友会（同窓会）など、学生や卒業生が主体的に参画する活動が行われるよう支援体制も整備されている。クラブ・同好会活動への参画状況を表Ⅱ-B-12に示す。学生食堂、売店（コンビニエンスストア）、書店の設置等キャンパス・アメニティにも配慮している。また学生食堂は平成29年度に全面改装を行いメニューも一新されている。表Ⅱ-B-10の満足度調査⑨学生食堂・売店はどようでしたかの結果が45.2%から71.4%に上昇し、学生の満足度が格段に向上した。

遠方からの入学者のため、宿舎（寮、学生会館）を設置するとともに、アパート等の紹介を行っている。また、通学の利便性を高めるため、図Ⅱ-B-4に示す大学とJR蒲郡駅間の無料スクールバスの運行を行うとともに、自転車通学する学生のために駐輪場・駐車場を設置して便宜を図っている。

表Ⅱ-B-12 クラブ・同好会活動への参画状況

1. 部	団体名	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		会員数	会員数	会員数
体育系	バスケットボール部	9	5	8
	野球部	9	12	5
	AUT サッカー部	0	0	6
	ヨット部	3	3	0
	K 耐久	3	4	1
文化系	ロボット研究部	0	0	0
	ソーラーカー部	9	6	2
	電音部	8	12	8
	軽音楽部	1	0	0
	蒲郡フリーダム研究部	0	0	0
	シュークリーム女子部	7	10	7
	宇宙技術研究部	0	0	0
	プログラミング研究部	0	0	0
	AUT 活動部(旧学生会)	1	0	0

2. 同好会	団体名	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		会員数	会員数	会員数
体育系	剣道	1		
	ビリヤード	6	16	3

2. 同好会	団体名	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
		会員数	会員数	会員数
体育系	バドミントン	0		
	パフォーマンス	0	0	
	軟式テニス	1		
	卓球	0	0	1
	ボウリング	0		
	AUT 走友会	2	2	
	ダンス	0	0	0
	サイクリング	0	0	1
文化系	ものづくり	0	0	0
	ラジコン	10	11	16
	フォトサークル	1	1	
	鉄道	1		
	エンジン制御研究	0	0	
	蒲郡 Fan	0	1	0
	自動車文化	0	0	0
	音響	5	5	8
	ライティング	5	5	8
	AUT プラモデル	2	1	2
	TRPG	0	0	0
	談話室@PT・JT	0	0	0
	ネクストメディア研究会	0	0	0
	自動車研究	5		
	海洋保全	0	3	3
	映像研究	0	0	
	世界への飛躍	0	0	0
	AUT GUNS			0

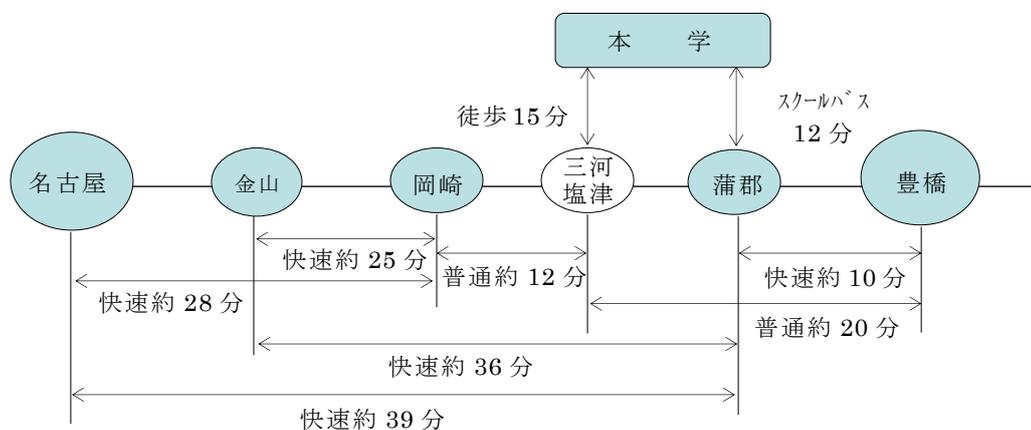


図 II -B-4 公共交通機関とスクールバスを利用するの通学所要時間

学生への経済的支援は表Ⅱ-B-13に示すように、公的機関である日本学生支援機構の奨学金、文部科学省の外国人留学生学習奨励費給付金の他、本学独自の奨学生制度として、学校法人電波学園奨学金（恒学基金）、学修奨学金制度、教育ローン利子補給奨学金、ファミリー奨学金や授業料免除制度を設けている。学生の健康管理、メンタルヘルスやカウンセリングについては常勤の臨床心理士を配置し対応している。学生相談室の利用状況を表Ⅱ-B-14に示すが、年次・年度において変化があるものの、まとまった相関は見られない。また、学生生活に関する学生の意見・要望・提案等については、学内に「ご意見・ご提案箱」を設置し、提出された意見等に速やかに対処できる体制をとっている。さらに、卒業時に在学中の満足度等についてのアンケートを実施し改善のための参考にしている。

留学生については、若干ながら増加をしており、学生生活指導委員会と学務課が協力してサポート体制をとっている。内訳は、平成27年度は中国とベトナムから3名、平成28年度は中国1名、モンゴル1名、平成29年度は中国1名、ベトナム1名、インドネシア1名の留学生がそれぞれ入学している。

学生の社会的活動（地域活動、地域貢献、ボランティア活動）については、一定の期間、活動した者に対し「社会貢献活動」の科目を単位認定する規程を設け評価する体制を整えるとともに、平成26年度から行っている学業だけでなくボランティア活動、課外活動、資格取得、各種講座の受講、インターンシップ、大学祭の運営などに積極的に参加した者や取り組んだ者に対し、表Ⅱ-B-15に示す「努力の成果」（Points for Your Efforts）を称えるPYE表彰制度も継続中である。学生の社会的活動状況を表Ⅱ-B-16に示す。

表Ⅱ-B-13 各種奨学金等利用者数（人）

年度／項目	日本学生支援機構	授業料免除	恒学基金	教育ローン利子補給	ファミリー奨学金	学修奨学金
平成27年度	109	17	3	0	2	4
平成28年度	122	12	2	0	2	4
平成29年度	117	9	0	0	1	4

表Ⅱ-B-14 学生相談室利用状況（人）

項目／年度	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	1年	2年	1年	2年	1年	2年
相談内容						
学業	0	0	0	0	0	2(1)
進路	15(1)	0	0	1(1)	0	3(1)
対人	21(8)	0	5(3)	1(1)	1(1)	12(3)
学生生活	13(8)	0	10(6)	3(3)	1(1)	0
適応(疾病障がい)	3(2)	1(1)	1(1)	0	1(1)	1(1)
その他	0	0	4(3)	0	2(1)	1(1)
合計	52(19)	1(1)	20(13)	5(5)	5(4)	19(7)

※数値は利用回数、()内の数値は利用者数

表Ⅱ-B-15 PYE 制度による表彰状況（人）

項目／年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
PYE 制度による表彰者数	2	3	1

表Ⅱ-B-16 学生の社会的活動状況

年度	催事名	会場・実施日	開催団体	目的・内容	担当者
27	福寿稲荷ごりやく市	蒲郡市中央通り商店街 H27. 5. 24、9. 27、10. 25、 11. 22、H28. 3. 27	蒲郡商店街振 興組合	蒲郡中央通り にて市街地の 活性化	江口職員、花 井先生及び蒲 郡フリーダム 研究部
28	西浦漁港清掃活動	西浦漁港 H28. 6. 11 H29. 1. 23	愛知県建設部 河川課	県が管理する 水管理・国土保 全局所管の海 岸でゴミ拾い 等の清掃活動	海洋保全サー クル
	西浦パームビーチ清 掃活動	西浦パームビーチ H28. 8. 6	蒲郡青年会議 所	サンドアート フェスティバル に向けた清 掃	海洋保全サー クル
	福寿稲荷ごりやく市	蒲郡市中央通り商店街 H28. 5. 2、9. 25、10. 23、 11. 27	蒲郡商店街振 興組合	蒲郡中央通り にて市街地の 活性化	江口職員、花 井先生及び蒲 郡フリーダム 研究部
29	福寿稲荷ごりやく市	蒲郡市中央通り商店街 H29. 5. 28、9. 24、10. 22、 11. 26	蒲郡商店街振 興組合	蒲郡中央通り にて市街地の 活性化	江口職員、花 井先生、蒲郡 フリーダム研 究部、AUT 活動 部

学内の国際化への対応については、韓国の龍仁松潭大学と姉妹校提携を結び相互訪問を開始したことや、電波学園内の設置校である愛知工科大学外国語学校からの留学生の入学増加が見込まれるため、学内の国際化に対応するための準備が必要である。学生の海外研修への参加状況を表Ⅱ-B-17に示す。費用の面からも参加者は少ないのが現状である。海外からの留学生の受け入れは、卒業後に海外で活躍する機会が増えていく日本人学生にとっても、良い刺激となる。現在4月期に学内で「留学生を囲む会」を開催して、学生とのコミュニケーションを深める場としているが、留学生の支援体制をさらに強化する必要があると受け止めている。

障がい者用の施設については随時設置しているが、自動車整備を中心とした教育を行っているため、危険を伴う作業や実習が多く、障がい者の受け入れは制限せざるを得ない状況である。

表Ⅱ-B-17 海外研修(学生間交流)参加状況(人)

行き先(研修先)	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
韓国(龍仁松潭大学)	0	5	
台湾(開南大学)	0		
英国(バートンカレッジ)	0	0	0
英国(ウォリックシャー・カレッジ・グループ)		0	0

(b) 課題

本学学生の文化系クラブ・同好会への加入率は、3か年平均で10.2%、体育系クラブ・同好会への加入率は、3か年平均で16.8%である(重複所属を含む)。少ない会員数であっても活発に活動しているクラブ・同好会はあるものの、全般には加入状況は芳しくない。課外活動等は人間形成に大切なものであり、参加しやすい工夫や支援が必要である。

[区分 基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っている。]

■ 基準Ⅱ-B-4 の自己点検・評価

(a) 現状

就職支援は、学生生活指導委員会とクラス担任及びキャリア支援課が緊密に連携をとりながら協力して行っている。キャリアセンターにはキャリア支援課の事務職員が常駐し、求人開拓、企業との情報交換及び連絡、学生と企業との仲介、会社案内・求人票等の整理・閲覧などの他、資格取得や就職試験対策の支援も行っている。キャリアセンターには6台の学生用パソコンが設置されており、大学求人NAVIにより求人情報を検索・閲覧できるようになっている。また、本学には自動車整備関連業界の177社(平成29年度)が加盟する愛技会があり、学生の就職支援(CS講座等の講師派遣、最新の車両を用いた技術講習会、学内企業説明会の実施、就職内定者全員に対する夏休み期間中の職場体験実習)や教育・研究活動の支援(ソーラーカーレース参戦の支援、ウェブ教材コーカくん開発の支援)を行っており、この事務局はキャリア支援課となっている。愛技会会員数は毎年順調に増加している(表Ⅱ-B-18)。平成29年度の愛技会加盟企業一覧を表Ⅱ-B-19に示す。

また、自動車に関する最新技術や社会人のマナー及び級友間や教職員とのコミュニケーション力を高めるため、毎年2年生に対し全員参加で1泊2日の社会研修会(研修旅行)を実施している。宿泊するホテルは、ホテルマナー等の研修目的もあって通常学生が利用するものよりもワンランク上のホテルを利用している。就職率は、平成27年度99.1%、平成28年度98.3%、平成29年度99.2%と高く、4月上旬の自動車整備士登録試験の合格発表を待って就職活動する等の特別な事情のある学生を除いて、ほぼ満足できる結果となっている。中でも自動車ディーラーや自動車メーカーなどへの専門性を活かした就職率の高いことが本学の長である。就職・進学状況を表Ⅱ-B-20に示す。

進学支援は、愛知工科大学工学部 3 年次への編入（一級自動車整備士養成課程含む）及び他大学への 3 年次編入であるが、一級自動車整備士養成課程への編入はクラス担任を中心に指導し、他大学への 3 年次編入は愛知工科大学総合教育センターの協力を受けながら指導にあたっている。

表 II-B-18 愛技会 会員企業数

項目\年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
会員数(社)	151	161	177

表Ⅱ-B-19 愛技会 加盟企業一覧（平成29年度）

	会社名		会社名		会社名
1	(株)アイカーズ	61	瀬戸いすゞ自動車(株)	121	ネッツトヨタ中京(株)
2	愛知自動車(株)	62	(株)千賀自動車	122	ネッツトヨタ中部(株)
3	愛知スズキ販売(株)	63	大東自機工業(株)	123	ネッツトヨタ東海(株)
4	愛知トヨタ自動車(株)	64	(株)ダイハツ三重	124	ネッツトヨタ富山(株)
5	愛知日産自動車(株)	65	太平自動車商会(株)	125	ネッツトヨタ名古屋(株)
6	愛知日野自動車(株)	66	太陽建機レンタル(株)	126	ネッツトヨタノヴェルとやま(株)
7	愛和機械(株)	67	(株)ダイレクトカーズ	127	ネッツトヨタ浜松(株)
8	(株)渥美モーターズ	68	(株)タクティー	128	ネッツトヨタ東名古屋(株)
9	(株)五十鈴工作所	69	(株)チェングロウス	129	ネッツトヨタ福井(株)
10	いすゞ自動車近畿(株)	70	中京・愛知クライスラー(株)	130	ネッツトヨタ三重(株)
11	いすゞ自動車中部(株)	71	中部資材(株)	131	(株)バーデン
12	(株)ウィン	72	中部三菱自動車販売(株)	132	八光自動車工業(株)
13	(株)エアスト	73	つしまオート(株)	133	浜松日産自動車(株)
14	(株)エヌディエスリース	74	(株)テラダパーツ	134	(株)ピーシーエヌ
15	エフエルシー(株)	75	(株)東海イエローハット	135	東愛知日産自動車(株)
16	大阪トヨタ自動車(株)	76	東海自動車工業(株)	136	(株)ビッグモーター
17	大阪日野自動車(株)	77	東海自動車工業(株)	137	福井日産自動車(株)
18	(株)オートサービス大興	78	東海ニチュ(株)	138	フジ自動車工業(株)
19	岡崎ヤナセプランニング(株)	79	東海マツダ販売(株)	139	古河機械金属(株)
20	(株)カナモト	80	富山ダイハツ販売(株)	140	碧南運送(株)
21	刈通オートテクノ(株)	81	富山トヨタ自動車(株)	141	(株)ボディエーションショップ杉浦
22	(株)ガレージ新和	82	トヨタL&F中部(株)	142	(株)ホワイトハウス
23	北愛知三菱自動車販売(株)	83	トヨタカローラ愛知(株)	143	(株)ホンダカーズ愛知
24	(株)キノシタ	84	トヨタカローラ愛豊(株)	144	(株)ホンダカーズ蒲郡
25	岐阜スズキ販売(株)	85	トヨタカローラ大阪(株)	145	(株)ホンダカーズ静岡西
26	岐阜トヨタ自動車(株)	86	トヨタカローラ岐阜(株)	146	(株)ホンダカーズ三重
27	岐阜日産自動車(株)	87	トヨタカローラ静岡(株)	147	(株)ホンダカーズ三重東
28	岐阜日野自動車(株)	88	トヨタカローラ中京(株)	148	(株)ホンダカーズ三重
29	キムラユニティ(株)	89	トヨタカローラ東海(株)	149	(株)ホンダクリオ東海
30	キリックスリース(株)	90	トヨタカローラ富山(株)	150	(株)ホンダ販売名東
31	(株)クオリア	91	トヨタカローラ名古屋(株)	151	(株)ホンダ四輪販売北陸
32	(株)クスハラ自動車	92	トヨタカローラ南信(株)	152	(株)ホンダ四輪販売三重北
33	(株)グッドスピード	93	トヨタカローラ三重(株)	153	(株)前田製作所
34	(株)クライム	94	(株)トヨタレンタリース名古屋	154	丸八重整備(株)
35	(株)クリエイト	95	トヨタテックオートサービス(株)	155	三重いすゞ自動車(株)
36	(株)ケーユーホールディングス	96	豊橋三菱ふそう自動車販売(株)	156	三重ダイハツ販売(株)
37	(株)コバック	97	豊橋ヤナセ(株)	157	三重トヨタ自動車(株)
38	コマツリフト(株)	98	(株)ドライバーズスタンド	158	三重トヨペット(株)
39	サーラカーズジャパン(株)	99	長野トヨタ自動車(株)	159	三重日産自動車(株)
40	坂井モーター(株)	100	長野日産自動車(株)	160	三重日野自動車(株)
41	サンアイ自動車(株)	101	長野日野自動車(株)	161	三重三菱自動車販売(株)
42	(株)三州一色	102	(有)中山モーターズ	162	三河ダイハツ(株)
43	静岡スバル自動車(株)	103	名古屋スバル自動車(株)	163	三河日産自動車(株)
44	静岡ダイハツ販売(株)	104	名古屋ダイハツ(株)	164	三菱ふそうトラック・バス(株)東海ふそう
45	静岡トヨタ自動車(株)	105	名古屋トヨペット(株)	165	(株)ミヤセ自動車
46	静岡トヨペット(株)	106	西尾レイトール(株)中部支店	166	名鉄自動車整備(株)
47	静岡日産自動車(株)	107	西三河中部自動車協同組合	167	明豊自動車(株)
48	静岡日野自動車(株)	108	(株)日産サティオ富山	168	(株)ヤナセ 名古屋営業本部
49	静岡マツダ(株)	109	日産プリンス静岡販売(株)	169	(株)ヤマト
50	重機商工(株)	110	日産プリンス名古屋販売(株)	170	UDトラックス(株) 中部支社
51	新明工業(株)	111	日産プリンス三重販売(株)	171	ユタカコーポレーション(株)
52	SKY GROUP	112	日通商事(株) 名古屋支店	172	吉田自動車販売(株)
53	(株)スズキ自販中部	113	日本キャタピラー(同)	173	(株)レッドバロン
54	(株)スズキ自販東海	114	(一社)日本自動車機械工具協会	174	(株)レント
55	(株)スズキ自販浜松	115	(一社)日本自動車連盟 中部本部	175	(株)ロイヤルオートサービス
56	(株)スズキ自販三重	116	(株)ネクステージ	176	ロジスネクスト中部(株)
57	(株)スズキマリン	117	ネッツトヨタ愛知(株)	177	(株)渡辺自動車
58	スバル東愛知販売(株)	118	ネッツトヨタ静岡(株)		
59	住友建機販売(株)	119	ネッツトヨタ静岡(株)		
60	(株)清和自動車	120	ネッツトヨタ中央大阪(株)		

表Ⅱ-B-20 就職・進学状況

項目\年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
卒業生数	138	159	150
進学希望者数	25	39	28
進学者数	25	39	28
進学率	100%	100%	100%
就職希望者数	110	119	121
就職者数(a)	109	117	120
就職率	99.1%	98.3%	99.2%
専門職就職者数(b)	108	114	120
専門職就職率 (b/a)×100	99.1%	97.4%	100%

(専門職就職とは自動車整備などの自動車工学の専門性を活かす就職を意味する。)

(b) 課題

進路未決定者をゼロにすることが最も重要な課題となる。そのためには進路に関する情報提供をさらに進め、就職活動などの不活発学生への働きかけを強める方策の検討が課題である。

[区分 基準Ⅱ-B-5 入学者受け入れの方針を受験生に対して明確に示している。]

■ 基準Ⅱ-B-5 の自己点検・評価

(a) 現状

学生募集要項には、巻頭に「建学の精神」、「教育指針」、「教育目標」とともに「アドミッション・ポリシー」を掲げ、広く受験生に対し入学者受け入れ方針を公示している。加えて、ホームページ内の入学情報のページにも記載されており、適宜、受験生が容易に認識できるように配慮している。

外部からの受験に関する問い合わせは、主に事務局の入試広報課が対応している。資料請求方法の類別は、

- ① 業者企画のホームページやネットからの資料請求
- ② 本学ホームページなどからの資料請求
- ③ 広告や受験関連印刷物などからの資料請求
- ④ 出向説明会の会場における手渡し配布
- ⑤ 本学におけるオープンキャンパスなどにおける手渡し配布

などとなる。近年、生徒が受験情報を得る際に定番となったリクルートやマイナビなどの業者が運営する進学サイトからのアプローチは最も高い比率を示しているのが現状である。加えて電話やファックスによる問い合わせ・資料請求の数の割合は減少の一途をたどっている。これは高校生のスマートフォン所持率が約 93%という情報通信社会の発展を裏付けるものとなっている。多種多様にわたる電子媒体からの問合わせ

せが煩雑にならないように、事務局の入試広報課独自のアドレス「nyushi@aut.ac.jp」に集約し、遺漏のないようにしている。また、問い合わせのあった受験生に対しては、SNSを使用し本学からの情報発信も行っている。具体的には、平成28年度から土日以外の毎日Twitterを発信し、平成29年度からは不定期であるがInstagramも発信している。これに伴い、フォロワーは高校生だけでなく、在学生もフォロワーとして参加しており、そこからのつながりでも交友の輪も広がっている。また、ホームページの更新を容易にかつ簡素化するため、平成28年度からa-blog cms（WEBの専門の知識や技術が無くても更新できる機能）にシステムを変更している。以上に係る資料請求者の各媒体に対する内訳を表Ⅱ-B-21に示す。

表Ⅱ-B-21 資料請求者の各媒体からのアクセス数（件）

年度	①業者企画 HP・ネット	②本学のHP・ 携帯より	③業者企画 の雑誌等	④会場	⑤校内
平成27年度請求	283 (87)	86 (43)	213 (75)	118 (20)	211 (63)
平成28年度請求	237 (128)	60 (23)	180 (75)	110 (18)	177 (38)
平成29年度請求	237 (121)	41 (17)	80 (45)	134 (8)	163 (39)

※（ ）内は、大学・短大 両校希望者

広報活動および入試事務の業務は、事務局の入試広報課で遂行している。また、委員会組織として入試・広報委員会を設けており、内訳は委員長、副委員長、委員5名の計7名で、入試関連業務としてA0入試の立案・運営、各種入学試験に関する業務を、また広報関連業務として、パンフレットの作成及び校正、模擬授業への出向、オープンキャンパスのメニュー作成などを行っている。入試・広報委員会と入試広報課は、随時、綿密な連絡を取りながら業務を進めている。なお平成27年度～平成29年度に行った入学試験は次のとおりである。

1. 指定校推薦入学試験（前期・後期）
2. 公募制推薦入学試験（前期・後期）
 - 一般推薦・専門高校推薦・女子特別推薦・自己推薦
3. 一般入学試験（前期・中期・後期）
4. 大学入試センター利用入学試験（前期・後期）
5. 社会人入学試験
6. A0入学試験
7. 外国人留学生試験（1、2、3期）

ここで、外国人留学生試験については、外国人留学生募集要項に示すように、平成25年度から新しく取り組みを始め、本年度で5年目である。留学生試験の実施は、外国人留学生に対して広く学びの門戸を広げ、自動車業界の国際的な発展に寄与することを目的としている。平成29年度は留学生2名がこの試験区分を利用し入学している。

各入試の選考基準は、推薦入試群においては、入学願書、調査書、推薦書、志望理由書（指定校推薦入学試験及び自己推薦入学試験は除く）に加え、面接試験の結果を基に選考する。一般入試群に関しては、入学願書、調査書、筆記試験及び面接試験を基に選考する。大学入試センター利用入学試験は、入学願書、センター試験及び面接試験の結果を基に選考する。社会人入学試験は、入学願書、調査書、自己推薦書に加え、面接試験の結果を基に選考する。AO 入学試験については、学力に現れることの少ない自動車に対する熱意や情熱などを評価するため、AO 講義の受講態度とレポート、面接試験などで多面的に受験者を捉えて選考する。このようにすべての入学試験に対して面接試験を課し、アドミッション・ポリシーを理解し、賛同しているかを確認した後、試験の可否を教授会の議に付して判断することとしており、どの試験区分も厳正かつ正確に選抜試験を実施している。

入学試験合格者に対しては、「入学手続き案内」を送付し、入学までに授業や学生生活についての情報を提供している。また、ホームページに「ニュース&トピックス」と題して、学内行事の情報を随時写真入りで簡潔にまとめている。これにより次年度4月からの学校生活の細かい情報を得ることができ、新生活に対する不安を取り除き、希望と期待を抱かせるようにしている。同じく、ホームページ内には「ウェブマガジン」や「蒲郡体験レポート」などのコンテンツを準備し、主に女子学生の日常の学校生活の紹介や、本学周辺の観光スポットを紹介するなどして、少人数ではあるが本学に入学する女子の受験生に有益な情報を提供するとともに、下宿予定の受験生には蒲郡の町の様子を事前に知ることが出来るようになっている。加えて、女子特別推薦入試奨学金制度により、女子学生の勧誘に力を入れている。また、ホームページ内には工学実習のムービーが見られるコーナーを設け、臨場感のある実習授業も疑似体験できるようになっている。

入学後は、入学式の翌日から3日間、オリエンテーションを行い、各部署からのきめの細かい指導や、担任からの今後の大学生活に関する実際の動き、実習授業に関するガイダンスなどを通して、就学環境への無理のない適応を図っている。また、受験生だけでなく受験生の保護者に対しても様々な情報提供をする目的で、主にオープンキャンパスに生徒と共に来校される保護者に対して保護者と教員が個別に面談を実施し、本学の学生支援体制について紹介している。

(b) 課題

資料請求・問い合わせなどについて、電子媒体によるものであれば、校舎閉鎖日や長期休暇期間中であっても遠隔地より作業が可能であるが、実際の訪問や電話に関しては依然として長期休暇中が手薄になっていることが否めない。よって、今後、人員配置や担当人数の増加などの更なる工夫が必要である。また、今後とも一定量の入学者が見込める学園設置の高等課程の生徒に対して、より一層の連携を図っていく必要がある。加えて、留学生からの問い合わせが少しずつではあるが増えており、今後が増えることが予想される。よって、法人事務局の国際交流室との連携を図りながら、ホームページやパンフレット、募集要項の多言語化などの留学生受け入れのための体制を強化する必要がある。

■ テーマ 基準Ⅱ・B 学生支援の改善計画

学生による授業評価は次年度以降の授業改善のために有効に活用されているが、教職員、学生への開示は現在のところ行われていない。今後は授業評価の結果を他の教員や学生に開示することを含め、授業評価の在り方を改めて検討する必要がある。

レポート課題を課すことで、図書館の利用を促しているが、インターネット等で簡単に色々な事柄を調べることができるため図書館を利用する学生は少ない。ネット時代における有効な図書館の利用方法を学科全体で検討する必要がある。

「数学Ⅰ」は平成25年度、「工学基礎」は平成26年度から練習問題を3段階の難易度に分け習熟度別授業に対応したテキストを作成して使用している。今後はテキストの内容を吟味し、習熟度別授業により適したものに改善するため毎年改訂を行っている。

留学生入学試験の実施により、毎年若干ではあるが定常的に留学生を受け入れることで、担任・教科担当を含め学生指導の多様性が顕在化している。各国の文化、信仰、風習など幅の広い応用性と見地が求められているので、より一層、組織的な体制を整える必要がある。具体的には学生生活指導委員会と学務課が協力して支援に当たる体勢が基本だが、愛知工科大学も含めた先輩の留学生を活用するチューター制度なども検討したい。

生活支援で改善の必要性が声高に叫ばれていた食堂と売店（コンビニ）は平成29年度にリニューアルし、メニューも見直しがなされた。具体的には定食メニューのほかに季節のフェアやハンバーガーセットなど幅の広いメニューのラインナップを提供し、好評を得ている。

クラブ活動や同好会については、愛知工科大学と合同で実施しているが、授業時間や資格取得の講座などによりゆとりがないため加入者は少ない。しかし、人間形成の場であり、加入者を増加させる必要がある。ボランティア活動などの地域貢献については、学生会が窓口となっているが、ボランティアに参加の意思はあるものの、情報が行き届いてないため参加できない者もあるので、ボランティア専用の掲示板を設け、ボランティア希望者の登録制度を設けることを検討したい。進路支援での改善は、多様な希望に対する支援が必要となっている。勿論、自動車整備士の就職を支援するための後援会（愛技会）はこれまで以上に会員を増加させ充実させるが、自動車メーカー等製造業の技術部門への就職希望者が増加しており、これに対応する学生生活指導委員会の体制も強化したい。進学については、国公立を含めた他大学への編入に対しては、愛知工科大学総合教育センターを活用して学力の向上に努めたい。

入学者に対する今後の改善は、女子学生の入学数増加のための方策の検討である。女性の整備士は、年々企業からの要望も高くなってきている。これは慢性的な整備士の不足を、従来男性にとどまらず、女性の人材を開拓することで整備士の安定的な供給を実現しようとする狙いがある。この社会的な要望に対応するためにも女子生徒への手厚いプレゼンテーションを構築する必要がある。

■ 基準Ⅱ 教育課程と学生支援の行動計画

クラブ活動等の支援については、地域の特性を活かしたクラブ・同好会の設立と育成に力を入れたい。ボランティア活動に対しては、掲示板による啓蒙や参加希望者の登録制度などを検討したい。留学生への支援体制は、留学生の入学状況を見ながら適切に対応したい。就職支援においては、後援会会員企業数の増加を図るとともに、その連携を強化したい。また、就職後の離職者を少しでも減らせるよう、在学中にメンタル面に関する講座を開講し、悩みなどに対処できるようなカリキュラムを平成 28 年度に開講している。多様化する進路指導への対応は、学生生活指導委員会で検討し、キャリア支援課と愛知工科大学総合教育センターとの連携協力の下、学生の夢の実現に継続して取り組みたい。

女子生徒へのプレゼンテーションの一方策として、オープンキャンパスに参加した女子生徒が安心して入学に推移できるように、在学している女子学生にボランティアを募り、オープンキャンパスに参加した女子生徒自身が将来像を容易に想像できる環境づくりに取り組んでいる。

◇ 基準Ⅱ についての特記事項

(1) 以上の基準以外に教育課程と学生支援について努力している事項。

① 職業教育への取り組み

本学は自動車整備士養成を中心とした教育を行っている短期大学であり、卒業生の殆どが本学で学んだ技術や資格を活かして自動車関連の企業に就職している。就職率は毎年 98%程度となっており、就職率および専門性を活かした就職という点からもほぼ満足できる結果となっている。これは、本学に設置された愛技会と連携し、企業が必要とする人材を育成するため、最前線で活躍する企業人による自動車の最新技術の紹介や CS(顧客満足度)教育講座、ビジネスマナー等の講座を開催していただいていることに支えられている部分大きい。こうした教育は、就職対策講座として 1 年生後期に正規科目で実施している他、入学当初(5 月)よりフレッシュマンセミナーを開催して自動車整備への意識付けを行い、さらに学期の始めのオリエンテーション時や就職活動の開始時期に合わせて、職業意識向上への取り組みを実施している。これらにより、自動車整備士を中心とした自動車技術者としての技術面や人格面の向上とともに、社会が求める人材の育成に努めている。

職業教育指導は、学生生活指導委員会の教員とキャリア支援課の事務職員が連携して、職業教育の企画・計画を立案し教授会に諮った後、クラス担任と協力しながら実行している。平成 29 年度の職業教育の取り組み内容について下記の表に示す。

表 1-1 平成 29 年度職業教育の取り組み (1 年生)

実施日	行事名	内容	備考
5月17日(水)	マツダフレッシュマンセミナー	新入生に自動車整備士の心構えと夢を与えるセミナー	マツダ本社の技術者が最新車両を用いて最新技術の紹介と夢を語る
8月1日(火)	スズキ技術講習会	フレッシュマンセミナーから2か月経過した学生に対し、より実践的な整備技術講習会	スズキ系ディーラーで働く多数の技術者(殆どが本学卒業生)がスズキ車を多数持参して実施
9月20日(水)	第1回就職ガイダンス	就職活動を開始するにあたり、心構えや対応などについての講演	就職対策講座の開始や自動車メーカーの講演会を前に、その意義を説明
9月22日(金)	後援会会長会社のトヨタカローラ愛豊(株)取締役 前田吉朗様による講演会	就職は社会人として大きな意味を持つが、その前に人間としてどう生きるかを考えるための講座 テーマは「人生について考える」	人生の先輩として、また多くの学生が就職するディーラーの取締役としての講演は示唆に富み、人生を考える機会となった
9月25日(月)～ 27日(水)	国内自動車メーカー12社による講演会	主要自動車メーカー12社の人事担当者を迎え、各社のポリシーや望む人材などについての講演	学生が就職先を選定するための要素として、各メーカーの状況を人事担当者から直接聴く
10月27日(金)	トヨタカローラ愛豊(株) 山田紀夫様によるCS講演会	「CSを考える」のテーマで講演	カーディーラーの最前線のCS活動を紹介し、日頃からの心掛けることについて学んだ
11月17日(金)	就職対策講座 (株)ベネッセコーポレーション本間英彦様による「面接対策講座」の講演会	多様化する面接試験で如何に対応し、自分の良い面を表現するかをロールプレイング方式により実践指導	プロの面接官を招いての講演は、学生の迷いを取り除き、自分自身に自信を持つことができるようになった
12月7日(木)	メーカー系ディーラー等で働く卒業生5名を招いてパネルディスカッション	午後開催する学内企業説明会に向けて、各企業内の様子を卒業生がディスカッションして在學生に紹介	ホンダ、トヨタ、スバル、スズキ、三菱ふそうに勤務する卒業生の話は、就職先を考える上で大いに参考になった
12月7日(木)～ 8日(金)	学内企業説明会	後援会「愛技会」加盟会社のうち163社が参加。体育館で各社相談ブースを設置して開催	一年生全員が参加。一人当たり5社以上を訪問して、説明を聞く中で応募予定先の情報を収集した

表 1-2 平成 29 年度 職業教育の取り組み(2 年生)

実施日	行事名	内容	備考
4月5日(水)	就職活動状況調査	2年進級時の就職内定状況の確認と未決定者を掌握することで、指導今後の指導法を決定	自動車整備士としてカーディーラーを希望する者はほぼ全員が内定。未決定者は試験時期が遅いメーカー系希望者が中心
8月1日(火)	就職内定先で実施する職場体験実習の事前説明会	夏季休暇中に内定者全員(一部開発系企業への内定者を除く)が実施する体験実習先での注意事項などを説明	就職に対する意識を高め、企業が求める技術や人間性などについて、就職内定先現場での体験を通して、後期授業への取り組みを充実させる
8月上旬～9月上旬	職場体験実習	内定先企業47社に対して91名が参加	後援会と本学とが「良い人材を育てよう」を合言葉に両者協力により実現
9月4日(月)	(株)ベネッセi-キャリア 稲垣美幸様による「社会人のビジネスマナーを考える」のテーマで講演会	敬語の使い方やビジネスマナーについて、ロールプレイングによる実践的な講演	学生は職場体験実習を終え、敬語の使い方やビジネスマナーの必要性を痛感している者が多く効果的であった

②職場体験実習

本学では、平成25年度より2年生を対象に夏期休暇を利用して、3日～5日程度の就職内定先企業における職場体験実習を実施している。

目的は、企業活動の一端に触れ、現場で必要な知識、技術、コミュニケーション、思考力を身に付け、職場で働く人々に触れることで、働くことの意義ややりがいを理解し、就職後のキャリア形成について考える機会にするためである。

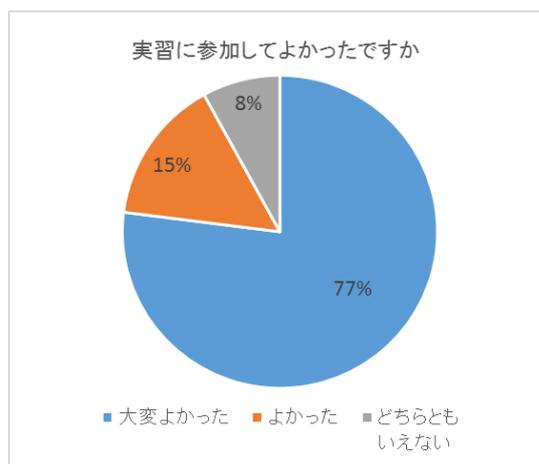
本学を支援してくださる就職先企業の後援会組織として愛技会があり、大半の学生は、例年、2年生の6月頃までに後援会組織の企業に内定している。企業も学生の入社前に会社の雰囲気が伝えられることや、内定者との意思疎通が図れることから、いずれの企業も協力的である。平成29年度は、91名の学生がそれぞれの内定先47社で職場体験実習を実施した。

職場体験実習後の報告書によるアンケートでは、図Ⅱ-1、図Ⅱ-2に示すように、9割以上の学生が実習に参加して「大変よかった及びよかった」、実習先についても「大変よかった及びよかった」という回答があり、一定の成果を得たと考えている。

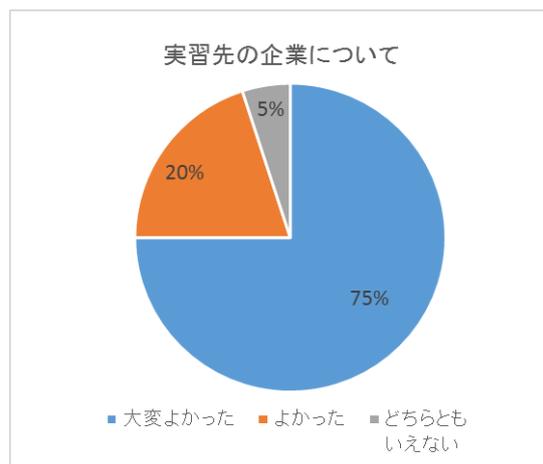
学生の感想の一部を紹介すると、「今回の職場体験実習を通じて学んだことは、仕事のやりがいや、大変さ、難しさを学びました。やりがいは、お客様の自動車を清掃して、お客様には満足して頂いたことです。大変さや難しさでは、点検などの作業はお客様に渡す時間が決まっているということです。その時間内に作業を終わらせるために効率よく作業することを学びました。」「4日間の実習を通して、社会に出た時の

礼儀やマナーを学びました。それから作業の内容や1つ1つの部品の役割も教えてもらいとてもよかったです。学校では学べないことも学べられたのでとてもいい経験になりました。」、「4Sの大切さ、作業着を汚さない使い方、効率の良い作業の仕方など学ばせていただきましたが、一番大切だと思ったのは、コミュニケーションの大切さです。自分の意見もしっかり聞いていただき返答をしてもらったり、他の人と作業が被らないように話し合っって順番を変えたりするのを見て大切だと学びました。」などと記載されている。

このことより、学生は、入社前に企業（職場）の雰囲気、仕事の内容、社会人として何が大切かなどを肌で学ぶことができ、意義のある職場体験になっているものと捉えている。学生アンケートを取りまとめた「職場体験報告」は、毎年開催される「愛技会・総会」時に配布し、企業にも報告している。3日～5日という短い期間ではあるが、この職場体験実習の取り組みは、現場でビジネスの仕組みを直に学び、第一線で働く社会人と接した経験は、学生たちにとっては貴重な財産となるばかりでなく、卒業までの残り半年間の学業に向けた目的意識の向上につながるものとする。今後はこの体験がより一層学生生活に生かせるように改善に努めたい。



図Ⅱ-1 学生の印象



図Ⅱ-2 企業の印象

【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】

■ 基準Ⅲの自己点検・評価の概要

本学は、専任教員 20 名、助手 4 名、専任事務員 3 名で構成され短期大学設置基準を準拠すると同時に、国土交通省が定める基準にも準拠している。また、二級ガソリン自動車整備士及び二級ジーゼル自動車整備士の国家試験の実技試験免除のための講習会が 2 年次の 10 月から 3 月まで実施されているが、これについても、専任教員及び一部の教員（指導員有資格者）が所定時間担当している。

教員研究活動は、所属学会、愛知工科大学紀要、自動車整備技術に関する研究報告誌等で公表され、その経歴、研究業績等は、「教員の個人調書」にて毎年更新している。

事務組織の責任体制は、学校法人電波学園組織規程、愛知工科大学自動車短期大学事務組織規程及び事務分掌規程により、事務の円滑かつ適正な運用が図られている。また、事務職員は、事務局長のもとに各部署を超え協働することが重要であると自覚し職務を遂行している。SD 活動についても積極的に活動している。教職協働体制の中で学習成果を向上させるため、必要に応じて各委員会に参加し、課題の共有、解決に取り組んでいる。

施設設備の維持管理は、学校法人電波学園経理規程及び学校法人電波学園資金運用規程などに基づいた処理が適切に行われている。

火災・地震対策、防災対策については、愛知工科大学・愛知工科大学自動車短期大学危機管理規程等を整備し、「防災マニュアル」、「防災カード」の配布、緊急地震警報設備の設置をしている。平成 25 年度からは、災害時の学生、教職員の安否確認メールの配信サービスを導入し、安全確保と安否確認が取れる体制となっている。

技術的資源の整備状況は、愛知工科大学メディア基盤センターが中心となり、技術支援、維持管理を行い、将来計画を策定し、学内 LAN も整備されている。また、e ラーニングを利用した自学自習システム「コーカくん」を活用し、資格取得対策など学習成果向上のための教育環境整備も行っている。

[テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源]

[区分 基準Ⅲ-A-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している。]

■ 基準Ⅲ-A-1 の自己点検・評価

(a) 現状

本学は、単科の短期大学であり、教員構成は表Ⅲ-A-1に示すとおり、短期大学設置基準を踏まえて必要な専任教員を配置するとともに、専任教員の学位・業績等の資格要件は、短期大学設置基準に基づき整備された愛知工科大学自動車短期大学教員選考基準の規程に定められている。短期大学設置基準の教員数を充足していることはもちろんであるが、さらに、国土交通省の認定大学であることから「自動車整備士養成施設の指定等の基準」に基づく必要な教員数（学科指導員や実習指導員）を適切に配置している。従って、専門分野の主要な授業科目は、学習成果を高めるため専任教員が担当している。また、学科の教育課程編成・実施の方針に即した教員を補助教員も含めて配置し

ている。教員研究活動は、所属学会、愛知工科大学紀要、自動車整備技術に関する研究報告誌等で公表され、その経歴、研究業績等は、「教員の個人調書」にて毎年更新している。

教員の採用・昇任は、平成29年度は教授に1名と准教授に1名を昇任し、助手を1名新規採用している。それぞれ職員任用及び昇任規程に基づき設置された諮問委員会に諮問し、学長は教授会の承認を経て理事長に推薦し、任用・昇任を行っている。

表Ⅲ-A-1 教員組織の概要（人）（平成29年度）

学科等名	専任教員数					設置基準で定める教員数〔イ〕	短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数〔ロ〕	設置基準で定める教授数	助手	非常勤教員	備考
	教授	准教授	講師	助教	計						
自動車工業学科	7	3	1	9	20	10		3	4	10	
（小計）	7	3	1	9	20	10		3	4		
〔その他の組織等〕											
短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数〔ロ〕							4	2			
（合計）	7	3	1	9	20		14	5	4		

(b) 課題

現在のところ設置基準に準拠した教員数を満たしており、特に問題はないが構成年齢が高くなっているため、定年に伴う補充計画においては、若手教員の採用を計画的に行う必要がある。

[区分 基準Ⅲ-A-2 専任教員は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。]

■ 基準Ⅲ-A-2 の自己点検・評価

(a) 現状

専任教員は、個人あるいはグループで教育研究活動等を行い、愛知工科大学紀要、自動車整備技術に関する研究報告誌、その他の学会講演会等の発表の機会を利用して研究成果等を公表しており、それらの研究成果等は愛知工科大学紀要巻末に業績リストとして掲載し、毎年度公開されている。表Ⅲ-A-2 に専任教員の研究実績を示す。

表Ⅲ-A-2 平成 27 年度～29 年度の専任教員の研究実績

学科名	氏名	職名	研究業績				国際的有無 活動の有無	社会的有無 活動の有無	備考
			著作数	論文数	学会発表数	その他			
自動車工業学科	中島守	教授	11	6	0	0	有	有	副学長・学科長
	河合末利	教授	2	0	0	0	無	有	
	森勝行	教授	4	0	0	0	無	有	
	高田富男	教授	3	0	0	0	有	有	国際交流担当
	永田英雄	教授	2	1	0	0	無	有	
	鈴木宏和	教授	0	2	0	0	無	有	
	掛布知仁	教授	2	2	0	0	無	有	平成 29 年 4 月 教授昇任
	服部幸廣	准教授	2	0	0	0	無	有	
	吉田昌央	准教授	4	7	5	0	有	有	国際交流担当
	竹内嗣昇	准教授	0	0	0	0	無	有	平成 28 年 3 月 退職
	平野博敏	准教授	3	2	0	0	無	有	平成 28 年 4 月 准教授昇任
	高田浩充	講師	2	0	0	0	無	有	平成 29 年 11 月から休職
	長谷川康和	助教	0	1	0	2	無	有	
	鵜飼達也	助教	0	1	0	1	無	有	
	齋藤健	助教	0	0	0	0	無	有	
	加藤寛	助教	0	1	0	3	無	有	
	鈴木規文	助教	0	3	2	0	無	有	
	小野淳一	助教	0	0	0	0	無	有	
	岩瀬正幸	助教	0	1	0	0	無	有	
	亀井幹雄	助教	0	0	0	0	無	有	平成 29 年 9 月 退職
甲村一貴	助教	0	3	1	0	無	有		
小野秀文	助手	2	4	2	0	無	有		
川村貴裕	助手	2	0	0	0	無	有		
鈴木拓也	助手	0	0	0	0	無	有		
巨藤 誠	助手	0	0	0	0	無	有	平成 29 年 6 月 着任	

研究活動に関する経費として、個人研究費、教育改革・特別研究推進プロジェクト経費、研究旅費が設けられている。個人研究費については、電波学園大学教員研究費規程に定められている。平成 29 年度の専任教員の一般研究費は、教授 8 万円、准教授 6.4 万円、講師・助教 4 万円、助手 2.4 万円となっている。教育改革・特別研究推進プロジェクト経費については、電波学園大学教育改革・プロジェクト教育研究経費規程を設け、総額は約 1,000 万円である。研究旅費については、電波学園大学教員研究旅費規程があり、教授 5.6 万円、准教授 5.6 万円、講師・助教 4 万円、助手 2.4 万円となっている。

専任教員は、外部研究費等の獲得に努力しているが、獲得状況は必ずしも十分ではない。表Ⅲ-A-3 に専任教員の外部研究費等の獲得実績を示す。

表Ⅲ-A-3 外部研究資金の申請・採択状況

外部資金調達先等	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	申請数	採択	申請数	採択	申請数	採択
科学研究費助成事業	0	0	0	0	0	0
(一財)東京自動車技術普及協会	1	1	2	2	1	1
合計	1	1	2	2	1	1

専任教員が研究を行う教員室、研究室等が整備されている。さらに、教務関係、学生関係の校務分掌のため、愛知工科大学と共有の学務課教員室及び自動車工業学科関係の校務分掌のための自動車工業学科教員室が設置されている。これらの教員室も一部教員は研究のためにも活用している。教員室の概要を表Ⅲ-A-4 に示す。また、助教以上の教員については、個室の研究室が与えられており、各自の研究活動や教育準備を行っている。また、助手については校務分掌のため、自動車工業学科教員室にて自席が確保されている。教員個人の研究室の状況を表Ⅲ-A-5 に示す。

表Ⅲ-A-4 教員室一覧

名称	場所	広さ(m ²)	備考
学務課教員室	2号館1階(2102)	163.2	
自動車工業学科教員室	自動車棟2階(3253)	161.3	

表Ⅲ-A-5 研究室一覧

氏名	職名	号室	広さ(m ²)	備考
中島守	教授	2308	38.8	副学長・学科長
河合末利	教授	2304	38.8	
森勝行	教授	2305	38.8	
高田富男	教授	2307	38.8	
永田英雄	教授	2303	38.8	
鈴木宏和	教授	2402	38.8	
掛布知仁	教授	2306	38.8	平成 29 年 4 月 教授昇任
服部幸廣	准教授	2403	38.8	
吉田昌央	准教授	2404	38.8	
竹内嗣昇	准教授	2405	38.8	平成 28 年 3 月 退職
平野博敏	准教授	2406	38.8	平成 28 年 4 月 准教授昇任
高田浩充	講師	2409	38.8	平成 29 年 11 月から休職
長谷川康和	助教	2405	38.8	

氏名	職名	号室	広さ(m ²)	備考
鵜飼達也	助教	5502	19.3	
齋藤健	助教	2408	38.3	
加藤寛	助教	5504	19.3	
鈴木規文	助教	5506	19.3	
小野淳一	助教	5507	19.3	
岩瀬正幸	助教	5508	19.3	
亀井幹雄	助教	5509	19.3	平成 29 年 9 月退職
甲村一貴	助教	5510	19.3	
小野秀文	助手	3253	161.3	
川村貴裕	助手	〃	〃	
鈴木拓也	助手	〃	〃	
巨藤 誠	助手	〃	〃	平成 29 年 6 月着任

専用の研究設備や研究機器は十分ではないが、本学の特性上、教育設備を活用しての研究も実施されている。自動車工業学科に係る実験室、実習室の状況を表Ⅲ-A-6に示す。

表Ⅲ-A-6 実験室、実習室一覧

名称	場所(号室)	広さ(m ²)	備考
教員室	3号館1階(3108)	51.8	研究及び実習準備等に使用
工具室	3号館1階(3107)	51.8	
溶接室	3号館1階(3106)	51.8	
排気ガス分析室	3号館1階(3104)	51.8	
エンジン性能実験室	3号館1階(3103)	103.5	
電装実習室	3号館2階(3205)	124.9	
実習準備・工具室	3号館2階(3204)	83.3	
電子制御実習室	3号館2階(3203)	124.9	
ゼミナール室	3号館3階(3304)	47.3	現在教材保管庫として使用
機構整備実習室	3号館3階(3303)	207.0	別に準備室(3302)23m ² を併設
CAD/CAM実習室	6号館1階(6104)	230.0	
第3自動車実習場	5号館1階(5104)	819.7	
第1講義室(実習)	5号館1階(5103)	100.0	
第2講義室(実習)	5号館1階(5102)	100.0	
電気基礎実験室	1号館2階(1207)	77.5	
製図室	1号館4階(1407)	212.6	
第1自動車実習場	自動車棟1階(3151)	720.9	
車両検査場	自動車棟1階(3152)	126.0	
走行性能実験室	自動車棟1階(3154)	76.0	

名称	場所（号室）	広さ(m ²)	備考
第2自動車実習場	自動車棟2階(3251)	671.6	
エンジン実習室	自動車棟2階(3252)	230.1	

専任教員の研究、研修等を行う時間は、専任教員の職制に応じて確保している。大学・短期大学の教育職員の勤務に関する規程及び大学の教員の授業担当時間数に関する細則により、「1週 of 授業担当責任時間数は、教授7コマ、准教授8コマ、講師・助教9コマ以上、助手9コマ以上」を原則として、担当することとなっている。これ以外の勤務時間は、各教員の校務分掌等の業務状況に応じて、研修・研究の時間に当てることができるようにしている。しかし、正規の教育課程に補習授業や資格取得のための講習時間等を加味すると研究時間を確保することが厳しい状況にある。

専任教員の留学、海外派遣、国際会議出席等に関する規程は、職員外国出張規程で定められているが、日常の教育指導や関連業務のこともあり活発ではない。FD活動については、愛知工科大学自動車短期大学FD・SD委員会規程があり、規程に基づいて、関係部署とも連携しFD・SD活動を適切に行っている。平成28年度から平成29年度に開催したFD研修会、FDセミナーを表Ⅱ-B-4に示す。

取り組みの一つとしては、月別目標を決めて学生指導に当たることで、学生とのコミュニケーションを深くし、また、教室ルールを定めることで授業効果の向上を図っている。さらに、学生による授業評価アンケート結果を基に、授業の工夫や教員の教授手法への改善に繋げている。

(b) 課題

必ずしも十分な研究費や研究旅費及び研究時間が確保されていない現状や、専任教員間で研究意欲に差が生じている。一般研究費や研究旅費を圧縮せず、教育研究活動を活発化する対策が必要である。また、専任教員自身も外部研究費等の獲得、更なる業務の効率化により、研究費や研究時間の捻出等に努力することが必要である。研究設備や研究機器が十分でなく、教育設備や教育機器を流用して研究しているのが現状であるため、専用の研究設備や研究機器の整備の必要性がある。

[区分 基準Ⅲ-A-3 学習成果を向上させるための事務組織を整備している。]

■ 基準Ⅲ-A-3 の自己点検・評価

(a) 現状

事務組織の責任体制については、学校法人電波学園組織規程、愛知工科大学自動車短期大学事務組織規程及び事務分掌規程により事務の円滑かつ適正な運営が図られるよう必要な事務組織を整え、それぞれの権限に関する分掌事務を定めるとともに、必要な職とその職務について規定している。

また、本学事務組織は事務局及び学務課、キャリア支援課、自動車課（学務課以下を「学務課等」という）を置き、事務局には庶務課、会計課、入試広報課、図書・情報サービス課及び地域・産学研究協力室を設置している。

事務局には局長を置き、事務局職員の指揮監督を行ない、事務局次長はその補佐をする。また、事務局及び学務課等には、課長・室長・統括長を置き管轄の主任以下の職員業務を掌握する体制になっている。

専任事務職員の専門性については、所掌する業務の専門的な職能を備え、必要なパソコン技能や事務能力を発揮して、計画的に業務をこなしている。また、各部署には会計経理事務、学務事務に専門性を有する者、キャリアデベロップメント・アドバイザー資格を有しキャリアカウンセラーの職に従事する者、司書資格を有する者等、職域に応じ専門的な職能を有する事務職員を配置している。

事務関係諸規程については、学校法人電波学園組織規程、学校法人電波学園経理規程、愛知工科大学自動車短期大学事務組織規程、愛知工科大学自動車短期大学事務分掌規程等が整備されており、各規程に従い事務処理を行っている。

事務部署については、必要な事務室を整備し、事務職員それぞれにパソコンを付与している。また各部署には必要な備品等を適正に配備している。

防災対策については、大学・短期大学の防災、防火管理規程を設けており、定期的な防災訓練等の実施と学生と教職員の各人に防災マニュアル、防災カードを配布して、緊急時に対応できるようにしている。

情報セキュリティ対策として、個人情報については愛知工科大学自動車短期大学個人情報保護に関する規程、保有個人情報管理規程を整備している。コンピュータ情報セキュリティ対策は、併設する愛知工科大学のメディア基盤センターが中心となって、ファイアーウォールや不正侵入検知ソフトの導入、メールフィルタリング装置でのウイルスメールの除去、アクセス権限の設定等により外部からの不正侵入や不正プログラムの活動を防いでいる。

なお、平成 24 年度課題であったノートパソコン等のセキュリティ対策については、新規機器購入等により Windows の OS システムに対策が採られ改善した。

SD 活動に関する規程については、学校法人電波学園事務委員会規程、愛知工科大学自動車短期大学職員研修規程、愛知工科大学自動車短期大学 FD・SD 委員会規程を整備して、事務職員の能力及び専門性の向上に努めている。SD 活動の内容については、表 III-A-7 に示すとおりである。

日常的な業務の見直しや事務処理の改善については、学内外の研修会に参加し業務の課題を把握・発見しつつ見直し改善を図っている。

また、事務職員は、教職協働体制の中で学習成果を向上させるため、教授会、自己点検・評価委員会等に委員として参加し、課題の共有・解決に取り組んでいる。

表Ⅲ-A-7 SD活動の内容（平成28年度～平成29年度）

①外部機関でのSD活動

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
28	4月21日 文部科学省	平成28年度学生基本調査の 説明会	平成28年度学生基本調査について の説明
	4月26日 日本学術振興会	科研費審査システム改革2018 説明会2018	平成30年度助成（平成29年9 月に公募）より新たな審査区分 表及び審査方式の導入を中心と した抜本的な見直しについて
	4月27日 日本高等教育評価機構	大学評価セミナー	認証評価の目的や評価の基本的 な方針を含めた機関別認証評価 システム及び評価基準の概要と その背景にある法令について解 説
	5月11日 愛知県留学生交流推進協議会	名古屋入国管理局との情報交 換会	名古屋入国管理局 留学・研修 審査部門及び就労審査部門との 情報交換
	5月22日 愛知県産業労働部	平成28年度大学等就職担当 者連絡会議	各課より新年度事業の発表、求 人票公開等について説明
	6月6日 愛知県安全運転管理協議会	平成28年度安全運転管理者 講習会	自動車の安全な運転を確保する ために、事業所等の業務に従事 している 運転者に対する安全教育や、自 動車の安全な運転に必要な業務 を行うため
	6月7日 愛知県私大教務研究会	平成28年度 総会・春季研 究会	総会及び教務事務、学生指導に かかる諸問題についての研修
	6月14日 文部科学省	研究活動における不正行為へ の対応等に関する説明会	各研究機関における公正な研究 活動に向けた取組をより一層推 進することを目的として、研究 活動における不正行為への対応 等に関する説明会
	6月17日 株式会社電翔	平成28年度 第3回 Active Academy 全体研修会	学務システム「Active Academy」利 用者の業務改善を目的とした研修
	6月21日 文部科学省	平成28年度 大学入学者選 抜・教務関係事項連絡協議会	大学入学者選抜及び教務に関す る連絡
	6月22日・23日 日本私立学校振興・共済事業団	平成28年度私立大学等経 常費補助金説明会	私立大学等経常費補助金の適正 な執行について周知徹底を図る ため
6月22日 株式会社進研アド	Betweenセミナー「データ活 用・分析を考えることで、こ こまで学生募集は効果的にな る」	志願者動向の読み方、ターゲッ トを逃がさない学生募集方法に ついて	
6月28日 株式会社エデュース	Web 戦略セミナー Vol.14	紙媒体から Web へのシフトの事 例（東洋大学）とその後の展開 について	

愛知工科大学自動車短期大学

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
28	6月29日～7月1日 一般財団法人 私学研修福祉会	第16回私立短期大学入試広報担当者研修会	全国の短大の事例を知り、総合的募集活動力の修得
	7月5日 日本能率協会	学生募集力強化特別セミナー「学生スタッフ育成・組織構築手法」	OC学生スタッフの問題点の事例や、育成手順など
	7月11日 愛知県精神保健福祉センター	平成28年度大学生向け自殺予防時啓発事業	学生のメンタルヘルスとそのサポートについての研修会
	7月12日 日本学術振興会	科学研究費助成事業実務担当者向け説明会	科研費制度の概要、交付内定から研究成果報告までの各種手続き等
	7月13日～15日 日本私立大学協会	平成28年度 学生生活指導主務者研修会	「学生とともに生きる」というテーマのもと、学生の育成や、支援をおこなうために、教職員が自らの成長や研鑽をどのように考えるかという視点での研修
	8月4日～5日 マツダ株式会社	SKYACTIV 技術セミナー	マツダの開発への取り組みや車軸組立、プレス加工、エンジン組立など工場を視察
	8月18日 いすゞ自動車近畿株式会社	いすゞ自動車グループメカニズム学習会・就職座談会	新型GIGAの安全・環境・性能技術の研修と体験試乗、採用・就職担当及び卒業生を交えた座談会
	8月30日 大学入試センター	平成29年度大学入試センター試験 入試担当者連絡協議会（第1回）	大学入試センター試験について昨年との相違、注意点など
	8月31日 日本能率協会	学生募集力強化特別セミナー「年度内施策と次年度募集家戦略構築の要点」	高校訪問手法や、出願数を増やすための募集計画の立て方など
	9月1日～2日 愛知県学生就職連絡協議会	平成28年度愛知県学生就職連絡協議会研修会	「選考スケジュールの変更に伴う影響について」 基調講演、班別研修
	9月5日 日本学術振興会	科学研究費助成事業公募要領等説明会	科研費改革の概要、平成29年度公募内容の変更点等について
	9月7日 中部学生就職連絡協議会	平成28年度中部学生就職連絡協議会連合会「大学と企業との就職研究会」	「採用・就職活動時期再変更に伴う企業と大学の対応」 講演、班別研修
	9月8日 日本著作権教育研究会	著作権セミナー	授業教材、入試問題などに関わる著作権処理のポイント
	9月13日 ベネッセコーポレーション	外国人留学生受入れ志望動向研究会	留学生募集から就職までの事例発表、対応事例など
	10月17日 株式会社ディスコ	学生募集担当者セミナー	LINEを活用した学生募集についてのセミナー、LINEの新機能、大学・専門学校の事例紹介と課題など
	10月20日 株式会社オリコム	2016 交通広告活用セミナー	交通広告に関する最新の事例と活用ノウハウについて

愛知工科大学自動車短期大学

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
28	10月21日 愛知県精神保健福祉センター	平成28年度大学生向け自殺予防時啓発事業	学生へのよりよいサポートのための情報交換会
	10月25日 株式会社進研アド	Betweenセミナー「高校生の行動変化にささる学生募集広報の戦略」	東海エリアの進路指導の実態と、最適な情報提供のタイミング、最新模試動向によるマーケットの変化とデータの活用手法
	10月25日～27日 一般財団法人私学研修福祉会	平成28年度「私立短大教務担当者研修会」	私立短大教務における諸問題についての研修
	11月1日 日本能率協会	学生募集力強化特別セミナー「大学固有の課題解決」	学生募集の三重苦、「偏差値」「倍率」「定員割れ」の脱却方法について
	11月8日 広告社株式会社	大学広報 Web 活用セミナー	デジタル領域における大学と社会の接点についてと、大学の事例から見る Web 広告の効果的活用について
	11月18日 株式会社電翔	平成28年度 第4回 Active Academy 全体研修会	学務システム「Active Academy」利用者の業務改善を目的とした研修
	11月24日 TLC 東海ライフキャリア	キャリアコンサルタントの技能向上セミナー	「ブリーフ・キャリアコンサルティング」
	12月6日 愛知県私大教務研究会	平成28年度 総会・秋季研究会	障害者差別解消法と大学における体制整備に関する講演及び教務事務等の諸問題について
	12月7日 大学入試センター	平成29年度大学入試センター試験 入試担当者連絡協議会（第2回）	大学入試センター試験について昨年との相違、注意点など
	12月17日 公益財団法人 私立大学情報教育協会	平成28年度 大学職員情報化研究講習会	教育改革に向けた大学データの活用と可視化
29	4月20日 文部科学省	平成29年度学校基本調査説明会	平成29年度学生基本調査についての説明
	5月12日 日本高等教育評価機構	第3期 新評価システム説明会	評価システム改訂の経緯をはじめ、大学及び短期大学の認証評価の基本方針や評価基準等について
	5月22日 愛知県産業労働部	平成29年度大学等就職担当者連絡会議	「就職採用活動時期の変更への対応(今後の動向を含め)」 基調講演、班別研修
	5月23日 全国経理教育協会	「どうすれば強いブランドが生まれるのか？」	ブランドについての概念と、強いブランドの作りかた、実例など
	5月24日 愛知県留学生交流推進協議会	名古屋入国管理局との情報交換会	名古屋入国管理局 留学・研修審査部門及び就労審査部門との情報交換
	6月1日 愛知県安全運転管理協議会	平成29年度安全運転管理者講習会	自動車の安全な運転を確保するために、事業所等の業務に従事している運転者に対する安全教育や、自動車の安全な運転に必要な業務を行うため

愛知工科大学自動車短期大学

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
29	6月14日 日本私立学校振興・共済事業団	平成29年度私立大学等経常費補助金説明会	私立大学等経常費補助金の適正な執行について周知徹底を図るため
	6月16日 株式会社 KEI アドバンス	第1回大学入試・広報セミナー	2017年度入試結果の報告と、受験生の大学選択事情および出願校指導について
	6月21日 文部科学省	平成29年度大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会	大学入学者選抜および教務関係事項について、昨年度との変更点や注意事項など
	6月26日 株式会社進研アド	Between セミナー「競争の時代を乗りきる入試・広報改革の成功の鍵とは」	2017年度入試結果、高校進路指導の改革、志願につながる高校生を見つけるためのマーケティングなど
	7月6日 株式会社オリコム	2017 交通広告活用セミナー	交通広告に関する最新の事例と活用ノウハウについて
	7月26日 株式会社エデュース	学生募集セミナー 2018 年問題対策シリーズ	保護者向けの施策や、Web 広告のスペシャルサイト（動画＋記事）の事例など
	8月4日 日本私立大学協会	広報担当者協議会	10年後に向けた持続可能な学生募集と高大連携、私立高校の独自性と大学広報の連携のあり方、事例発表など
	8月24日 大学入試センター	平成30年度大学入試センター試験 入試担当者連絡協議会（第1回）	大学入試センター試験について昨年との相違、注意点など
	8月31日～9月1日 愛知県学生就職連絡協議会	平成29年度愛知県学生就職連絡協議会研修会	「就職採用活動時期の変更への対応（今後の動向を含め）」 基調講演、班別研修
	9月8日 中部学生就職連絡協議会	平成29年度中部学生就職連絡協議会連合会「大学と企業との就職研究会」	「売り手市場の中でのミスマッチの解消について」 基調講演、班別研修
	9月12日 日本学術振興会	平成30年度科研費助成事業公募要領説明会	科研費改革の概要、平成30年度公募内容の変更点等について
	9月13日 株式会社中日新聞社	私立大学の振興に関する政策の動向	私立大学の振興に関わる様々なデータの提示と、高等教育政策をめぐる議論
	9月14日 株式会社進研アド	高専接続セミナー	進学環境の変化を踏まえた学生募集、教育を考える。18歳人口減、大学入試改革の動きをどうとらえるかについて
	9月22日 株式会社ディスコ	学生募集担当者セミナー	LINE が考える学生募集における AI 活用の可能性や、活用事例について
10月13日 株式会社 KEI アドバンス	第2回大学入試・広報セミナー	今年度の動向と、新入試制度の概要および留意点など	

愛知工科大学自動車短期大学

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
29	11月15日 日本私立大学協会	平成29年度就職部課長相当者研修会	「雇用環境の変化と多様化する学生へのキャリア形成支援」 講演、事例発表、班別研修
	12月6日 ベネッセコーポレーション	外国人留学生受入れ志望動向研究会	外国人留学生の受入れの現状整理から、各国の留日希望者の動向など
	12月8日 大学入試センター	平成30年度大学入試センター試験 入試担当者連絡協議会（第2回）	大学入試センター試験について昨年との相違、注意点など
	12月22日 文部科学省	大学設置等に関する事務担当者説明会	
	1月16日 日本能率協会	学生募集力強化特別セミナー「募集計画と広報予算構築手法」	募集計画の立て方、それに伴う効率の良い広報予算の構築について
	2月1日 Twitter Japan 株式会社	Twitter ビジネス活用セミナー	Twitter ユーザーの今、利用層とその使われ方、Twitter ビジネス活用実施テクニックについて
	2月8日 豊橋創造大学	FD 講演会	アクティブラーニングと授業設計
	3月19日 独立行政法人日本学生支援機構	平成29年度日本学生支援機構奨学金採用・返還誓約書業務研修会	日本学生支援機構奨学金の採用・返還に関する業務の研修会

②学園内での SD 活動

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
28	4月20日 学校法人電波学園	平成28年度第1回部課長研修会	就業規則および労働法について①
	5月18日 学校法人電波学園	平成28年度第2回部課長研修会	愛知県専門学校の2015年度出願傾向と今後の学校運営に必要な視点について
	5月25日 学校法人電波学園	平成28年度第1回事務委員会	今年度の活動目標に向けた具体的な取り組み等
	6月15日 学校法人電波学園	平成28年度第3回部課長研修会	就業規則および労働法について②
	6月22日 学校法人電波学園	平成28年度第2回事務委員会	平成28年度の予算実行方法と平成29年度の予算編成方法等
	7月20日 学校法人電波学園	平成28年度第4回部課長研修会	コンピュータセキュリティに関する脅威とその対策について
	7月27日 学校法人電波学園	平成28年度第3回事務委員会	協議事項の意見聴取等
	8月3日 学校法人電波学園	事務職員夏期研修会	マニュアル作成研修
	9月21日 学校法人電波学園	平成28年度第5回部課長研修会	非正規職員雇用セミナー

愛知工科大学自動車短期大学

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
28	9月28日 学校法人電波学園	平成28年度第4回事務委員会	平成29年度予算編成、平成28年度予算修正等
	10月19日 学校法人電波学園	平成28年度第6回部課長研修会	ストレスチェック結果について(集団分析)
	10月27日(木) 学校法人電波学園	平成28年度第5回事務委員会	予算編成取扱要領(案)の調整等
	11月16日 学校法人電波学園	平成28年度第7回部課長研修会	学園スローガン意識調査結果のご報告
	11月24日 学校法人電波学園	平成28年度第6回事務委員会	各校協議会事前打ち合わせ等
	12月21日 学校法人電波学園	平成28年度第8回部課長研修会	学生募集におけるSNSの活用について
	1月18日 学校法人電波学園	平成28年度第9回部課長研修会	学生・生徒相談センター 今年度の活動報告
	1月25日 学校法人電波学園	平成28年度第7回事務委員会	平成29年度予算 一般・特別予算申請に関する説明等
	2月15日 学校法人電波学園	平成28年度第10回部課長研修会	人事部からの連絡
	2月22日 学校法人電波学園	平成28年度第8回事務委員会	公認会計士からの指摘事項等
	3月15日 学校法人電波学園	平成28年度第11回部課長研修会	減災教育
3月22日 学校法人電波学園	平成28年度第9回事務委員会	年度末、年度初め業務に関する連絡事項等	
29	4月3日 愛知工科大学	平成29年度「新任教職員説明会」	新任教職員が教育・研究活動等を取り組むに当たり本学の建学の精神(教育理念、教育体勢、教育・研究支援体勢)等の基礎的な知識を理解する
	4月19日 学校法人電波学園	平成29年度第1回部課長研修会	就業規則および労働法について①
	5月17日 学校法人電波学園	平成29年度第2回部課長研修会	就業規則および労働法について②
	5月24日 学校法人電波学園	平成29年度第1回事務委員会	今年度の活動目標に向けた具体的な取り組み等
	6月21日 学校法人電波学園	平成29年度第3回部課長研修会	学園ブランディングについて①
	6月28日 学校法人電波学園	平成29年度第2回事務委員会	平成30年度 予算編成の概要等
	7月17日 学校法人電波学園	平成29年度第4回部課長研修会	学園ブランディングについて②
	8月1日 学校法人電波学園	事務職員夏期研修会	月次・期末決算の留意点等
	7月26日 学校法人電波学園	平成29年度第3回事務委員会	課題解決プロジェクト班会議等

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
29	9月20日 学校法人電波学園	平成29年度第5回部課長研修会	確定拠出年金について
	9月27日 学校法人電波学園	平成29年度第4回事務委員会	平成30年度予算編成、平成29年度予算修正等
	10月18日 学校法人電波学園	平成29年度第6回部課長研修会	管理職向けメンタルヘルス研修
	10月25日 学校法人電波学園	平成29年度第5回事務委員会	課題解決プロジェクト班中間報告会等
	11月15日 学校法人電波学園	平成29年度第7回部課長研修会	ながらスマホ(人・自転車・車)の危険性について
	11月22日 学校法人電波学園	平成29年度第6回事務委員会	平成30年度予算編成の具体的手続き等
	1月17日 学校法人電波学園	平成29年度第8回部課長研修会	超小型人工衛星 がまキューブ
	1月24日 学校法人電波学園	平成29年度第7回事務委員会	課題解決プロジェクト班会議等
	2月21日 学校法人電波学園	平成29年度第9回部課長研修会	人事部からの連絡①
	2月28日 学校法人電波学園	平成29年度第8回事務委員会	年度末業務に関する連絡事項等
	3月14日 学校法人電波学園	平成29年度第10回部課長研修会	人事部からの連絡②
	3月22日 学校法人電波学園	平成29年度第9回事務委員会	課題解決プロジェクト班会議(報告会)等

(b) 課題

今後大規模地震等の災害発生が想定される中、防災対策委員会を通じてより一層防災意識を高める必要がある。

[区分 基準Ⅲ-A-4 人事管理が適切に行われている。]

■ 基準Ⅲ-A-4 の自己点検・評価

(a) 現状

教職員の就業に関する諸規程は、学園就業規則をはじめとして、嘱託職員に関する就業規程、育児・介護休業規程、定年規程、退職手当支給規程、給与規程等を整備している。

また、教員の採用・昇任については、愛知工科大学自動車短期大学教育職員任用及び昇任規程及び愛知工科大学自動車短期大学教員選考基準に照らして実施している。なお、規則及び規程は、学園及び短期大学のイントラネットにて全教職員に公開されるとともに、事務局において、規程集として常時備え付け、いつでも閲覧可能である。規程の制定は、学内イントラネットにより即時周知されるようになっている。

学園就業規則をはじめ、その他関連規程に基づき、教職員の勤務、休暇、休職、退職等のサービスに関する事項について、出勤簿等を備え適正に管理している。

(b) 課題

今後の収容定員充足状況によっては、人件費率を勘案して教職員の人数を圧縮する必要があり、教育の質を落とさず、効率的な教育を提供できるかが課題となっている。

■ テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源の改善計画

研究活動のグループ化を実現し、一年に一度はグループ研究の報告を実施することで、活動の活発化を図りたい。また、現有の研究設備、研究機器の整備と整理を進めると共に、外部研究費を調査して、獲得のために積極的な取り組みが必要である。専任教員の留学、海外派遣、国際会議出席等に関する規程の整備を検討したい。

[テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源]

[区分 基準Ⅲ-B-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用している。]

■ 基準Ⅲ-B-1 の自己点検・評価

(a) 現状

校地については、表Ⅲ-B-1 のとおり学生収容定員 360 人の必要面積 3,600 m²に対して、7,463 m²の校地を有していることから短期大学設置基準を充足している。運動場用地については 13,508 m² (大学と共用) のほか、テニスコート 2 面を有しており、体育の講義のほか、クラブ活動や地元市民にも開放している。

表Ⅲ-B-1 短期大学設置基準と校地面積の比較 (単位：m²)

区分	校地面積				設置基準上必要面積
	専用	共用	共用する学校等の専用	計	
校舎等敷地	7,463	0	45,126	52,589	3,600
運動場用地	0	13,508	0	13,508	
計	7,463	13,508	45,126	66,097	

校舎面積については、表Ⅲ-B-2 のとおり短期大学設置基準の必要面積 4,250 m²に対して、14,478 m²を有しており、短期大学設置基準を充足している。

表Ⅲ-B-2 短期大学設置基準と校舎面積の比較 (単位：m²)

区分	校舎面積				設置基準上必要面積
	専用	共用	共用する学校等の専用	計	
短期大学	8,064	20,322	11,659	40,045	4,250

建物内外はバリアフリー化に努め、身障者用トイレ、エレベーター、スロープ、車椅子利用者用駐車場等を設置し、障がい者に配慮している。

学科は、教育課程編成・実施の方針に基づき授業を行うための教室、講義室、実習室を備え、機器・備品を整備している。また、経年劣化が生じる機器・備品類は、年度予算に計上し適時点検・整備を行っている。

図書館は大学と共用しており、蔵書数 38,731 冊、座席数 246 席を有し、閲覧室を合わせた面積は 1,196 m²である。166 種の国内外の定期購読雑誌や AV 資料、技術資料を収集保管し、閲覧・貸し出し・レファレンスサービス等が効率的に行えるようになっている。

表Ⅲ-B-3 図書館所蔵資料数（平成30年3月31日現在）

図 書		定期購読雑誌		視聴覚資料	楽 譜
38,731		166		815	157
和書	洋書	国内雑誌	外国雑誌		
32,095	6,636	155	11		

図書の購入については、教員、学生による選書を行い、図書委員会による審議のうえで利用者のニーズに合わせた蔵書構築を行っている。さらに科学技術振興機構、国立情報学研究所のデータベース検索サービスの利用により、学習・研究のためのインターネットによる学術文献情報取得の要望に応じている。受入図書の登録・除籍については、電波学園経理規程並びに愛知工科大学自動車短期大学図書館資料の不用決定及び除籍に関する処理要領に基づき適正に管理している。

体育館の延べ床面積は、2,836 m²（大学と共用）で授業及び課外活動に充分活用している。また、多種多様なトレーニングマシンを導入した多目的体育室（トレーニングルーム）を備え、学生に開放している。

(b) 課題

障がい者に対応した施設整備を目指しているが、一部の建物に限られており、車椅子利用者にとってはバリアとなる部分が残されているので、一層のバリアフリー化を目指したい。

[区分 基準Ⅲ-B-2 施設設備の維持管理を適切に行っている。]

■ 基準Ⅲ-B-2 の自己点検・評価

(a) 現状

学校法人電波学園経理規程及び同経理規程施行規則により、会計処理並びに計算書類の作成等経理業務に関する基準が定められている。固定資産会計、物品会計、内部監査の各章における固定資産管理、物品管理等の取り扱いにより、備品台帳等を整備し適正に維持管理している。

火災・地震対策、防災対策については、愛知工科大学・愛知工科大学自動車短期大学危機管理規程及び、愛知工科大学・愛知工科大学自動車短期大学防災管理規程を整備し、防災マニュアルの作成や防災カードの作成等による防災教育の実施、防災訓練や安全対策等の防災活動を実施している。また委託業者による防火設備の定期点検を実施し、非常時対応に備えている。防犯対策としては、警備会社と委託契約を結び、学内主要箇所にセキュリティ設備を導入するとともに、市内の警察署、消防署とも連携を図っている。

コンピュータシステムのセキュリティ対策については、愛知工科大学メディア基盤センターが中心となり、情報セキュリティ対策に関する情報提供やファイアウォールの設定、ウイルス対策ソフトウェアの提供等、対策を講じている。学内ネットワークに

においては、教職員用と学生用の環境設定を設け、セキュリティに配慮するとともに、個人情報保護に関する規程、大学保有個人情報管理規程、ネットワークシステム利用規程等を定め、適切な管理を行っている。

省エネルギー・省資源対策については省エネ温度の設定、エレベーターの部分停止、タイマー設定や人感センサーによる照明・空調管理等を実施している。またソーラー発電による夜間外灯の設置や LED 照明への切り替えを順次行い対応しているほか、バイオ燃料によるスクールバスの運行を行っており、地球環境保全へも一役を担っている。

(b) 課題

経年劣化した教材・教具等は計画的に取り替えていく必要がある。

■ テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源の改善計画

建物によっては建築後 25 年を経過しているものがあり、一部改修の時期に来ている。これに併せ、学内施設のバリアフリー化に一層努めていく。

図書館の利用環境は概ね良好であるが、学生の利用は少ないままである。引き続き授業において推薦図書を紹介や学生からの希望図書の購入、図書館から学内の電子掲示板を通して周知する等、学生の利用向上に努める。

今後古くなった装置・設備については、毎年見直しをして、計画的に整備、維持、廃棄管理等をしていく。また、コンピュータシステムのセキュリティを一層安定的に確保するとともに、新しいデバイスに対応したネットワークの整備を行う。

[テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源]

[区分 基準Ⅲ-C-1 短期大学は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるために技術的資源を整備している。]

■ 基準Ⅲ-C-1 の自己点検・評価

(a) 現状

自動車整備に係る測定機器がネットワーク化された最新の検査ラインをはじめ、トラックの整備が可能な大型リフト、安全で快適な実習環境を提供するための排出ガス屋外排出システム等を整備した自動車棟を平成 23 年 1 月に完工している。また、実習車両も最新の装置を搭載した新車（トラック、乗用車）を計画導入し、乗用車については、故障診断機及びパソコン用診断ソフトウェアを平成 26 年 9 月に導入したことにより、自動車整備士を養成する短期大学としては最先端設備を有する施設となっている。

情報ネットワークは、愛知工科大学メディア基盤センター運営委員会及び愛知工科大学メディア基盤センターが中心となり技術支援、施設の設置、維持管理、将来計画を行っており、必要な環境整備を常に実施している。パソコン室の施設・設備については概ね 5 年ごとに見直し、リプレースの計画・立案を行い、常に良好な教育環境の提供に努めている。

情報技術の向上に関するトレーニングに関して、学生に対しては、入学時にパソコン室の利用方法についてのガイダンスを実施している。また、自学自習システム（eラーニング「コーカくん」）の利用法については、各種資格試験の補講時期に合わせてガイダンスを実施している。各教室、自習室、図書館及び実習場には学生セグメントに属する有線 LAN ポートが整備されており、インターネット及び教育資源への接続が可能である。加えて、学内 73 か所に無線 LAN アクセスポイント (LAN AP) (Wi-Fi 対応) が設置されており、希望する学生及び教職員は、学内の主要な場所から学生セグメントにアクセスでき、インターネット及び教育資源への接続が可能である。なお、近年スマートフォンの普及により、学内無線 LAN アクセスポイントへの利用が高まっている。このように、学生がインターネットや学内 LAN に容易にアクセスできる環境を整えており、学習成果向上のための技術資源は整備されている。

(b) 課題

今後古くなった装置・設備については、毎年見直しを進め計画的に更新していく必要がある。

■ テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源の改善計画

パソコンなどの IT 機器については、OS の自動更新やアンチウイルスソフトなど授業で使用するソフトウェア以外の負荷が毎年増大し、特に起動直後のレスポンスの緩慢さが著しかったので、6306 パソコン実習室は、2017 年 9 月に 47 台のパソコンを更新した。また、一部の AP で繋がりにくいなどの障害は改善された。

[テーマ 基準Ⅲ-D 財的資源]

[区分 基準Ⅲ-D-1 財的資源を適切に管理している。]

■ 基準Ⅲ-D-1 の自己点検・評価

(a) 現状

日本私立学校振興・共済事業団による「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分」によれば、本学園は「A1」に区分され、財務状況は安定している。

本学のみ資金収支は 3 年連続支出超過となっており、これを法人全体で補っている状況である。法人全体の資金収支は、過去 3 年間にわたり均衡しており、本学の支出超過分は十分資金補填できる状況にある。

本学園全体の事業活動収支における基本金組入前当年度収支差額は過去 3 年いずれも収入超過で推移している。ただし本学のみで見ると基本金組入前当年度収支差額は 3 年連続支出超過となっており、学生生徒等納付金収入の減少による割合が大きい。学生生徒等納付金収入における人件費依存率は、平成 27 年度の 84% から、平成 29 年度の 81% へ減少しているもののまだ人件費の占める割合が高い。

平成 29 年度決算での本学の損益分岐点分析では、教育活動における資金収支において収入が上回る学生数は、ほぼ収容定員数 (348 人) となっている。健全な財務状況とするため、学生募集を強化し、定員充足率を上げ、事業活動収入増を目指す必要がある。

国内では唯一の4年制大学3年次編入学制度で、4年間で無理なく一級自動車整備士資格と学位が取得できる利点を活かし、学生数を増加させたい。

教育研究経費比率は、過去3か年の平均で35%を超えており、教育研究用の施設設備や図書等の学習資源に対する資金配分は十分に行われている。

また、安定的な奨学金支払いに充てるため、平成23年度より第3号基本金組み入れを行ってきている。

資産運用については、学校法人電波学園資金運用規程により、適切に管理・運用している。また、退職給与引当金は、要引当額の100%を毎年計上している。

(b) 課題

本学の事業活動収支は3年連続支出超過となっており、入学定員確保に最大限努力する必要がある。

[区分 基準Ⅲ-D-2 量的な経営判断指標等に基づき実態を把握し、財政上の安定を確保するよう計画を策定し、管理している。]

■ 基準Ⅲ-D-2の自己点検・評価

(a) 現状

本学は、地域の中核を担う人材を輩出する高等教育機関として、文部科学省短期大学設置基準と併せて国土交通省の指定基準に準拠する自動車整備士を養成する短期大学であり、特に自動車生産の高い愛知県内において自動車工学に関する技術教育を行い、地域社会の発展に寄与し、地域への有能な人材の輩出を目指している。

本学の平成29年度の収容定員充足率は、87%と定員割れを起こしている。このため収容定員充足のための数値目標と愛知工科大学自動車短期大学中期目標・計画を定め、その改善を進めているところである。

本学の強みは、学生の授業満足度、資格取得・進路指導及び実習施設に対し評価が高いことであり、このためオープンキャンパスの形態や高校訪問の見直し、高校生へのPR方法の改善等、積極的な募集活動を展開している。

平成19年度入学生から定員割れが生じたが、これは若者の自動車離れといった社会的要因の変動などに起因するところが大きいことから、平成31年度より入学定員の見直しを行う。また、収支のバランスをとっていくため、人件費の計画的縮減による事業活動収支に占める人件費比率を下げるとともに、積極的な学生募集の展開に取り組んでいる。

学内における経営状況の公開については、学園理事長及び学長からの訓示や教授会、全教職員が参加する教職員連絡会において現況が示され、情報及び危機意識の共有に努めている。

(b) 課題

地域からの増大する人材需要に応じて行くためには、より多くの学生を入学させていく必要がある。また経営安定化のためにも社会的要因等はあるものの学生の確保を図る必要がある。

■ テーマ 基準Ⅲ-D 財的資源の改善計画

本学は、過去 3 か年において入学定員を充足しておらず、基本金組入前当年度収支差額においても過去 3 か年連続して支出超過となっている。

今後とも自動車工学に特化した特色ある教育を行い、また教職員一体となった計画的な学生募集活動を行うことで、入学定員確保に努める。

また、教育研究経費比率は 30%台を推移しているが、人件費比率も高い状況となっているため、収支のバランスを考慮のうえ、人件費や経費の見直しを図る必要がある。

■ 基準Ⅲ 教育資源と財的資源の行動計画

経年劣化により特に環境悪化が進んでいる箇所について抽出し、平成 31 年度予算に計上を行う予定である。図書館の利用者向上についても、改善計画に基づき学生への周知等を随時行うこととする。個人所有のノートパソコンの学内使用におけるルールの設定や、スマートフォンやタブレット端末などの新しいデバイスに対応した学内ネットワークの環境整備については、愛知工科大学メディア基盤センターが中心となり検討する予定である。定員充足のための数値目標と愛知工科大学自動車短期大学中期目標・計画を定め、その改善を進める計画である。

◇ 基準Ⅲについての特記事項

(1) 以上の基準以外に教育資源と財的資源について努力している事項。

特になし

【基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス】

■ 基準Ⅳの自己点検・評価の概要

理事長は、学園運営全般にわたる適切なリーダーシップを発揮しつつ、学園の健全な経営と発展に大きく寄与している。さらに経営基盤の安定化を図るため、経営改善に向け各種取り組みを行っている。理事会は、学園内外から選出された理事により理事会業務規則に基づき審議運営を行い、学園全体の最高意思決定機関としての役割を果たしている。

学長は、学園建学の精神のもと併置の愛知工科大学と協調・協力関係のもと社会から期待が集まる自動車短期大学として、その人材育成に向け、強力なリーダーシップを発揮して本学の運営に取り組んでいる。

本学の中期目標・計画に基づき毎年度の事業計画と予算は、年度開始前の理事会で審議・承認され適切に執行されている。また、執行状況については、公認会計士による実地調査等により会計監査が行われ、決算については、理事会で審議・承認され、評議員会に報告が行われている。

情報公開では、本学ホームページ、大学広報誌に掲載等している。

[テーマ 基準Ⅳ-A 理事長のリーダーシップ]

[区分 基準Ⅳ-A-1 理事会等の学校法人の管理運営体制が確立している。]

■ 基準Ⅳ-A-1 の自己点検・評価

(a) 現状

「理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。」と学校法人電波学園寄附行為第12条で明確に定められており、学園全体の業務を総括する代表者として、激動する環境変化の中で学園設置12校を統括する責任者として現場の動向等を常に把握し、学園の運営全般にわたり適切なリーダーシップを発揮している。また、設置各校代表者と連携しつつ、その課題解決と学園の健全な経営と発展に大きく寄与している。経営状況を示す帰属収支差額比率は回復基調にあり、経営基盤の安定化を図るため、学生の確保・増を喫緊の課題として取り組み、さらに、人件費の削減、肥大化防止のための人事制度改革を推し進め、法人の経営改善に向けて改善・改革が執り進められている。

理事会及び評議員会は、年6回開催することとなっており、必要がある場合においては、臨時会を招集することとしている。

決算については、監事による決算原案についての監事監査を実施し、業務執行や財産の状況を監査している。また、理事会・評議員会への監査報告は、2か月以内に行われている。5月の評議員会において、前年度の決算及び事業の報告が行われている。

また、平成16年の私立学校法の改正による監事機能の強化の動きを受け、すべての理事会・評議員会に監事が出席しており、年間を通じて法人の業務及び財務の状況が適格に判断されている。

理事会については、学校法人電波学園寄附行為第16条に基づき、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面により通知している。また、理事会は学園

内外から選出された理事により、議案審議を通じ情報の共有を図っている。さらに、情報収集については、理事長及び理事である学長が短期大学協会及び私学リーダーズセミナー等の各種会議に出席し、情報の収集を図っている。

私立学校法に基づく財務情報の公開については、予算書と事業計画を法人事務局内において閲覧している。また、決算については、毎年5月の理事会承認後、財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監事による監査報告書を法人事務局において閲覧するとともに、学生、保護者及び教職員に対しては、収支計算書及び監事監査報告書を大学・短期大学の広報誌に掲載及び学内掲示板に掲示している。

理事会は、学校法人及び短期大学の運営の基本規程である学校法人電波学園寄附行為、理事会業務規則を整備し、また理事は私立学校法に基づき、適正に選任されている。

(b) 課題

特に課題はないが、理事長のリーダーシップを十分機能させていくためには、教職員の意識改革をさらに進めていく必要がある。

■ テーマ 基準IV-A 理事長のリーダーシップの改善計画

理事長は、学園の安定的経営確保のため、学生・生徒の在籍者数の増確保に向け、入学生数の増、内部進学者数の増、退学者の減等、教職員と一体となった収支改善に取り組んでいく。また、教職員の経営に対する理解を深めるうえで、教授会に直接出席し、その状況等を示すことにより法人の経営改善の必要性を理解させていく必要がある。また、併せて理事長、学長、法人事務局、本学との有機的連携を進め、意見交換の機会を増やしていく予定である。

[テーマ 基準IV-B 学長のリーダーシップ]

[区分 基準IV-B-1 学習成果を獲得するために教授会等の短期大学の教学運営体制が確立している。]

■ 基準IV-B-1 の自己点検・評価

(a) 現状

学長は電波学園学長・副学長・学部長選考規程により人格が高潔で学識に優れ、学園建学の精神と教育方針を堅持するものとして、学長候補者選考委員会で選出され、理事会において承認決定されている。

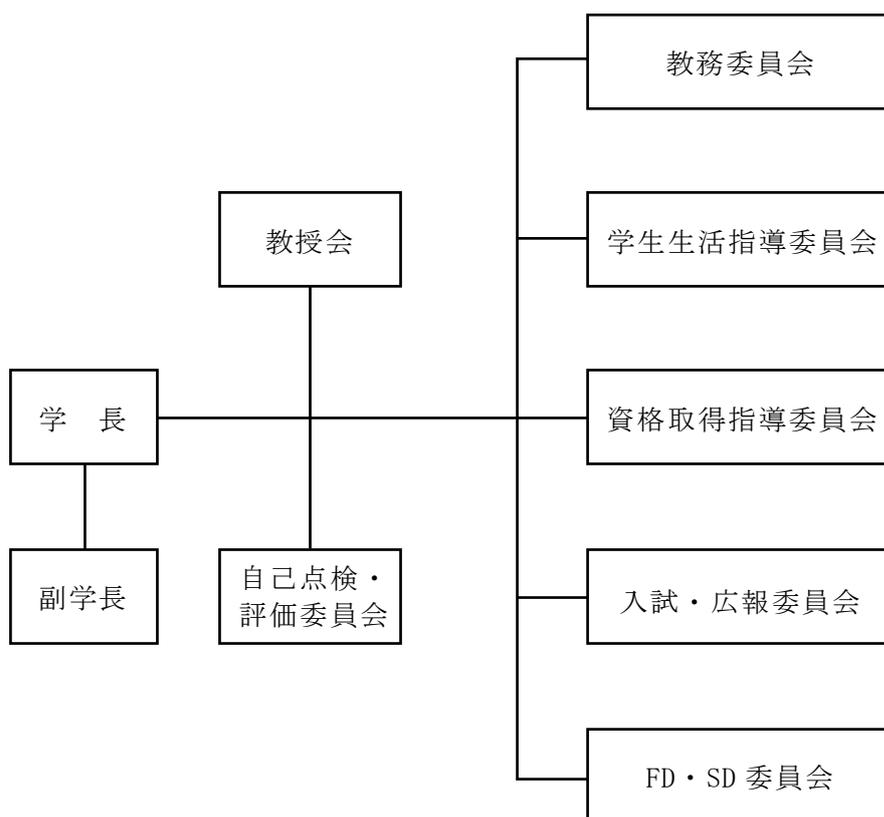
現在の学長は、国立大学教授、評議員、工学部長及び国立大学法人理事・副学長等を歴任するなど、大学教員として35年の教育・研究の経歴と大学運営に関する豊富な経験を有しており、本学においても建学の精神のもと、併置の愛知工科大学と常に協調・協力関係を維持しながら、社会の期待が集まる自動車短期大学としての人材育成に向け、強力なリーダーシップを発揮して本学の運営に取り組んでいる。また、学長は教育目的を基に学位授与の方針及び入学者受け入れの方針等について、全教職員に教示するとともに短期大学の質の向上・充実のため、日々努力している。

学長は、学則、短期大学教授会規程に基づき教授会を開催し、教育研究上の審議機関として適切に運営を行っている。また、教授会議事録は、学務課が作成し保管している。

三つの方針（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）については、教授会で審議され、全教職員がその内容を認識している。

学習成果については、教務委員会を始めとする各種委員会で学習成果の検証を行い、その目標の達成状況について確認を行っている。

また、本学の円滑な運営を図るため学長の下に、図IV-1に示すような各種委員会（教務委員会、FD・SD委員会、入試・広報委員会、学生生活指導委員会、資格取得指導委員会等）が設置されており、専任教員・事務職員をもってこれを構成し、随時各委員会を開催して、学習支援、生活支援、就職支援などの事項を審議し、教授会、学科会議及び教職員連絡会において報告・説明されており、各委員会は規程に基づき、適切に運営されている。



図IV-1 短期大学の委員会構成

(b) 課題

各委員会は、より効果的な学習成果に繋がるように一層の連携を深める必要がある。

■ テーマ 基準IV-B 学長のリーダーシップの改善計画

平成 22 年度に策定した短期大学の中期目標・計画を基に、各部署の年度計画を作成して引き続き改善を進めるとともに、本学が抱える固有の問題として、教員の校務負担の軽減策についても、合わせて検討をしていく必要がある。

[テーマ 基準IV-C ガバナンス]

[区分 基準IV-C-1 監事は寄附行為の規定に基づいて適切に業務を行っている。]

■ 基準IV-C-1 の自己点検・評価

(a) 現状

監事は、学園の業務及び財産についての業務執行状況を、議事録等各種書類で確認するほか、毎回、理事会、評議員会に出席し、審議事項や報告事項の説明を受け、また理事との懇談を行うことで業務監査をしており、必要に応じて意見を述べている。

また、会計年度毎に監査報告書を作成し、会計年度終了後 2 か月以内の 5 月に開催される理事会、評議員会に提出・報告している。このことにより、監事は学校法人電波学園寄附行為第 15 条に基づき、適切に業務を行っている。

(b) 課題

今後とも、監査業務のより一層の充実を図る。

[区分 基準IV-C-2 評議員会は寄附行為の規定に基づいて開催し、理事会の諮問機関として適切に運営している。]

■ 基準IV-C-2 の自己点検・評価

(a) 現状

評議員会は、学校法人電波学園寄附行為第 19 条に基づき 13 名の評議員で構成されている。評議員は、学校法人電波学園寄附行為第 23 条に基づき選任され、原則として年間 6 回開催される評議員会において、私立学校法第 42 条及び学校法人電波学園寄附行為第 21 条に基づき、理事会の諮問機関として、必要な事項を審議している。

(b) 課題

評議員会への諮問事項については、寄附行為に基づいた議題となっているが、学校法人の運営に関して充実した協議が可能となるように、その内容を工夫していく必要がある。

[区分 基準IV-C-3 ガバナンスが適切に機能している。]

■ 基準IV-C-3 の自己点検・評価

(a) 現状

本学は、理事長、学長のリーダーシップのもと短期大学全教職員が参画して、短期大学の中期目標・計画を策定し、これに基づいた毎年度の事業計画と予算を、学園各機関

との調整の上、年度開始前に策定している。年度毎の事業計画と予算は、評議員会の諮問を得て、3月開催の理事会で審議され、承認されている。理事会で承認を得た事業計画と予算は、短期大学の事務局を通じて関係部署に速やかに伝達され、その執行は、学校法人電波学園経理規程に従い適切に執行されている。

執行状況は、公認会計士による会計帳簿・書類、備品等の実地調査等、会計監査により監査されている。また、内部監査も実施され、適切に管理している。さらに、決算は理事会で審議・承認し、評議員会に報告している。

教育情報及び財務情報は、本学のホームページの情報公開で教育情報の公表をするとともに、財務情報については、法人事務局内で備付、閲覧を可とし、大学の広報誌「Koka TIMES」に掲載するとともに、学内掲示板に掲示している。

(b) 課題

監事の機能は適切に機能しているが、学園組織内の監査業務に係る部署が未設置である。

■ テーマ 基準IV-C ガバナンスの改善計画

私立学校法、学校教育法施行規則および学校法人電波学園寄附行為等の関連規程等に則った適切な運営を行っているが、法人組織の中に業務監査に係る専門部署を設置してないことから、業務の監査に関する監事への情報提供等、日常業務の監査体制と合わせて整備することを検討する必要がある。

■ 基準IV リーダーシップとガバナンスの行動計画

時代の変化、流れを読み取り、そこで求められる人材養成のニーズに対応し、その方向性を見極めながら学園の安定的経営が続けられるよう理事長、学長は適正なリーダーシップを発揮し、今後も学校教育法、私立学校法等の諸法令、学校法人電波学園寄附行為及び愛知工科大学自動車短期大学学則等の諸規程に基づいた適切な学園および短期大学運営に努めたい。

◇ 基準IVについての特記事項

- (1) 以上の基準以外にリーダーシップとガバナンスについて努力している事項。
特になし

平成 28・29 年度
愛知工科大学自動車短期大学
自己点検・評価報告書
発行日：平成 30 年 6 月

編集 愛知工科大学自動車短期大学
自己点検・評価委員会
発行 愛知工科大学自動車短期大学

〒443-0047 愛知県蒲郡市西迫町馬乗 50-2
TEL 0533-68-1135 (代表)